

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
(佐)野原墓	野原墓	不明	不明	不明	鏡		不明		2
(佐)野原墓?	野原墓内?	不明	不明	不明	鏡・馬具・裝飾付大刀(鍔部大刀)・武器(鐵刀)		不明		70
白旗遺跡2号墳	埼玉県浦和市大字白旗遺跡	円	12.4	鉄土葬 (組合式木棺)	鏡・玉類(碧玉・紫玉・ガラス玉)・武器(鐵刀・短刀・鉄線戟木)・石製品(滑石製鏡蓋)・土製品(滑石製)	地輪(円筒・銅)	後期		173
どうまふ人墓古墳	埼玉県川越市大字下小坂	円	24.5	木棺直葬	鏡・玉類・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		71
入道石塚古墳後門部埋設	埼玉県取手市大字常盤寺字方第256	前方後門	40.0	木棺直葬	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		72
新里	埼玉県見沼郡川口町新里	不明	不明	不明	鏡		後期		73
中郷	埼玉県行田市大字須田中郷	円	不明	不明	鏡・裝飾品(銅鏡)・玉類(碧玉3)・武器(鐵刀)・手兼用山(鍔部大刀)		後期?		73
埼玉將軍山古墳	埼玉県行田市埼玉	前方後門	102.0	櫛穴式石室	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		74
三条塚古墳	千葉県富津市大字下飯野字二条塚	前方後門	123.0	櫛穴式石室	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		75
裏塚17号墳	千葉県匝市京成2丁目	円	25.0	不明	鏡	(鍔部?)	中期?		6
霞西・大1031号墳第2主体部	千葉県大津市大字霞西字霞西第1096	円	28.0	木棺直葬 (組合式木棺?)	玉類(碧玉・紫玉・ガラス玉)・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		
ちちめ古墳(徳島女子大地下部古墳)	神奈川県伊勢原市三ノ宮1408	古墳		櫛穴式石室?	鏡・馬具(鞍・鞍金具)・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		76
下田5号櫛穴	神奈川県中郡大磯町五下田	櫛穴		櫛穴	鏡		終末期		77
村北3号墳	長野県松代町大字豊栄字平林	円		櫛穴式石室	鏡・玉類(碧玉・紫玉・ガラス玉)・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		中期		78
川柳將軍塚古墳	長野市篠ノ井・石川	前方後門	93.0	櫛穴式石室	鏡2・(G)第6・石製鍔部(鍔部白)・鍔部(短刀)・玉類(碧玉・紫玉・ガラス玉)・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		前期		79
県山古墳	長野県上田市飯坂町縣山	円	12.0	不明	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)	地輪(円筒)	後期		80
城山古墳	長野県上田市飯坂町縣山	円		石棺直葬	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		81
岩屋岩室古墳(御飯交野古墳)	長野県小県郡久手町大字飯交野	櫛穴		櫛穴	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		中期		82
板立古墳	長野県松本市中川字板立	円	25.0	櫛穴式石室	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		80
菅嶋1号墳(徳田古墳)	長野県徳田市大字菅嶋字菅嶋	円		櫛穴式石室	鏡・武器(短刀・武器(鐵刀2・鉄鏃)・馬具・刀座用具(鍔・鍔石)・その他(鉄線戟)		後期		80

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	周長(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
新井原7号墳	長野県飯田市大字光吉寺字新井原	円		腰式石室?	鏡・装身具(玉類)・玉類(勾玉・切子玉・丸玉・小玉)・武器(短甲)・武器(大刀)・鉄剣・土師器	-	中期		80
下山3号墳跡跡地?	新潟県魚沼郡大形町下庄	円	10.0	水棺直葬?	鏡・武器(鉄刀)・須恵器2・土師器(環状多敷)		中期		83
名木沢古墳	新潟県魚沼郡大形町名木沢	円		不明	鏡・玉類(環状勾玉2・管玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・白玉)		中期～後期		83
蟻子山48号墳	新潟県魚沼郡六日町余川蟻子山	円	23.0	腰式石室	鏡・玉類(管玉2)		中期～後期		84
飯綱山10号墳(女塚)	新潟県魚沼郡六日町余川飯綱山	円	37.0	不明	鏡2		中期		84
(左)飯綱山古墳群	新潟県魚沼郡六日町余川飯綱山	古墳		不明	鏡		中期～後期		84
(左)飯綱山古墳群	新潟県魚沼郡六日町余川飯綱山	古墳		不明	鏡		中期～後期		84
天海宮90号墳(天海宮27号墳)	新潟県新井市豊町天神澤	円	17.0	不明	鏡・武器(鉄刀・鉄剣9+)・生産用具(刀子・その他(糸)		後期		85
和田山5号墳B号粘土槨	石川県能登郡美加町井町	前方後円	63.0	粘土槨	鏡3・装身具(短剣4)・武器(三角板新居町中)・武器(鉄刀11・鉄剣3・鉄剣2・鉄剣多敷)・生産用具(刀子2・鋸片・鉄斧3・櫛)・その他(不明鉄板)		中期	除鉄板?	86
重立山1号墳	福井市重立町	円	24.1	木棺直葬(副竹形木棺)	鏡・玉類(勾玉・扁平玉)・七輪類(土師器)・管玉6・葉玉1)・武器(鉄剣)		中期		87
西谷山2号石棺	福井市西谷町字三輪谷	円	23.5	石棺直葬(角形石棺)	鏡2・武器(唐刀付背・短甲)・武器(鉄刀・鉄剣・唐刀刀提具・櫛・斧・鉄剣)・生産用具(刀子・櫛・鉄斧2・砥石)・玉類(勾玉3・管玉8・ガラス小玉6)・その他(釘3)		中期		87
三野野2号墳跡1主体部	福井市三野町	方	13.0	木棺直葬(副合式木棺)	鏡・武器(鉄剣)・生産用具(刀子)・土器(小型蓋・高杯)		中期		89
長泉寺山9号墳	福井県福井市大字西川	円	17.0	木棺直葬(副竹形木棺)	鏡・石輪類(土師器)・玉類(勾玉・管玉ほか)		前期		90
小谷ヶ原3号墳	岐阜県岐阜市大字西川	円	25.0	木棺直葬(副竹形木棺)	鏡・玉類(管玉)・生産用具(刀子)		前期		87
関市市平塚所在古墳	岐阜県関市市平塚	円	15.0	腰式石室	鏡・玉類(勾玉3・管玉4・切子玉)・武器(鉄刀・鉄剣)・片貝(高貝)		後期		91
天徳ヶ原古墳	岐阜県関市市平塚	古墳		不明	鏡2・装身具(金釧)・玉類(環状勾玉10・管玉5・ガラス玉6)		後期		92
根本山H-2号墳	静岡県浜松市	古墳		腰式石室	鏡・装身具(玉類)・武器(鉄刀・鉄剣)・片貝(高貝)・金釧・管・鉄釧)・須恵器(環状2・杯身3)		後期		93
神明社上1号墳2号墳	静岡県浜松市内野石	円	27.0	木棺直葬(副合式木棺)	鏡・装身具(玉類)・生産用具(鉄斧)		中期		94
於呂	静岡県浜松市於呂	不明		不明	鏡・玉類		不明		95
(左)飯綱山	静岡県静岡市藤原川	不明		不明	鏡		不明		96

遺跡(古墳)名	所在地	形状	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
豊前山王12号墳第2 主体部	静岡県愛知市愛野大字向山	円	12.0	木棺直葬 (箱形木棺)	盾・武器(鉄刀2・鉄鏝13+)・馬具(轡・辻金具・轡・首飾)・生産 用具(刀子)		中期		97
石ノ形古墳西主体部	静岡県愛知市市田大字石ノ形	円	27.0	木棺直葬	[附1] 鏡・武器(鉄刀板新習短甲)・武器(鉄刀・鉄剣・蛇行剣・鉄 鏝84+)・馬具(イ字形銅板付轡・多刺鉄辻金具3・新習南方形銅板 付轡・鉄鍬1直金具2)・[附2] 武器(鉄刀3・鉄剣)・馬具・生産用 具(刀子3・馬具3)・玉類(滑石製玉・ガラス小玉)・須恵器(甕)・ 不明鉄製品(刀子?)	須恵器(甕・蓋) ・埴輪(可成)	中期	本書	
文庫遺古墳群 (文庫遺山北山神古墳)	静岡県静岡市清水区大字田 字田田	円	10.0	不明	鏡・玉類(勾玉)・武器(鉄刀)		後期		98 174
堀ノ内13号墳	静岡県静岡市清水区第一東城	円 (横形)	25.0	横穴式石室 (築地型)	鏡・玉類(ガラス小玉2・鉄鍬510・横玉59・ガラス小玉18)・武 器(短刀・鉄鏝)・馬具(轡金具・辻金具・轡・首飾・銅金具)・ 須恵器(高坏2・甕・蓋)・新習短頸甕・銅付懸・銅行長頭環・蓋)・土 須恵器	[新埴輪] 須恵器 (高坏・有蓋短頸 甕・高坏・土 須恵器(高坏・蓋)	後期		99
中里 K78号墳 (アガリット古墳)	静岡県富士市市里大字塚道 2162	円		横穴式石室?	(伝) 鏡・武器(鉄刀3)・馬具(轡・鉋具)・須恵器(甕・蓋)		後期		100
陣ヶ沢古墳	静岡県富士市市里大字塚道 2162	古墳		不明	鏡		不明		98
清水郷北2号墳	静岡県静岡市清水区大字尾上	円	10.0	横穴式石室 (箱形石棺)	鏡・玉類(切子玉・鍬鏝玉・管玉・丸玉・ガラス小玉)・武器(鉄鏝・ 鉄刀・短刀)・生産用具(刀子)・須恵器(有蓋短頸甕・高坏・甕)・土 須恵器(甕・高坏・甕)		終末期		
白鳥古墳	愛知県名古屋市熱田区白鳥 町1-2-17	前方 後円		横穴式石室?	鏡・鉄身具(直金形銅板)・玉類(公玉・切子玉)・馬具(轡・首飾・蓋 飾)・武器(鉄刀4・鉄剣)・須恵器		後期		101
松ヶ崎8号墳第1号墳	愛知県名古屋市守山区古根 松ヶ崎3254	方	8.4	粘土層 (箱形木棺)	鏡・玉類(勾玉・丸玉91・小玉17+)		中期		102
上水遺跡	愛知県春日井市市上水	不明		不明	鏡・石製銅頭(石部)		前期?		103
白鳥尾古墳	愛知県岡崎市大字大字 田字白鳥82	円	19.0	不明	鏡・武器(鉄刀・鍬・鉄鏝7)・須恵器(高坏6・高坏2・坏身)		後期		104
宇瀬王塚古墳	愛知県岡崎市宇瀬北町1丁 目	前方 後円	70.0	不明	鏡・武器(鉄刀)・土製模造品(勾玉)		中期		105
豊田大塚古墳	愛知県豊田市市河台町1-10	円	38.0	横穴式石室	鏡・鉄身具(直金・管金具・耳環5)・玉類(勾玉3・管玉24・管玉10・ 丸玉164・小玉107)・武器(鉄刀76・鉄鏝・銅板)・馬具(轡・鞍具・ 鍬・鉋金具)・生産用具(土製粉砕機)・須恵器・土須恵器	埴輪	後期		106
寺西1号墳	愛知県豊田市市石巻小野田 寺西	円	25.0	横穴式石室	鏡・鉄身具(耳環)・武器(鉄刀12・鉄剣)・石製・鉄鏝・馬具(轡)・ 生産用具(刀子)・須恵器(台付甕・広口甕・短頸甕・甕・高坏・埴輪)・ 土須恵器	[新埴輪]土器	後期		107
大塚山古墳	三重県松阪市松久町大字大 見	前方 後円		不明	鏡3・玉類(横玉5勾玉・滑石勾玉)・馬具(短甲)・鉄鍬金剛鉄小丸新習 銅板付轡)・此甕(鉄刀3・槍・鉄鏝)		中期		108
かまくら1号墳	三重県多気郡羽黒大字上 村字かまくら	円	27.0	不明	鏡・玉類(管玉9・切子玉)		不明		108

遺跡(古墳)名	所在地	形状	規模 (m)	主体部	副所産(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
南山古墳	三重県伊勢市龍崎町字南山	円	18.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏡・鉄鍔具(雄略2)・玉釧(雄略2)・玉管玉2・埴土蓋玉・埴丸玉・ガラス小玉109・武鍔(鉄刀)・須置器(埴土・埴土・埴土)		後期		109
(佐)為利山古墳	三重県桑名市津江町	不明		不明	鏡		不明		108
祐古墳	三重県志摩郡大玉町大字津名 名子山	前方後円	32.4	横穴式石室	鏡・玉頸(埴土丸玉)・武鍔(鉄刀・鉄鍔)・馬具(金蓋)・須置器		後期		108
キヲ土古墳	三重県上野市外山	前方後円	50.0	不明	鏡・馬具(埴土・金蓋)		中期		110
久米山6号墳	三重県上野市久米町	古墳		不明	鏡2		不明		108
ハブセ古墳	三重県上野市大字寺田字宮	円		横穴式石室	鏡		後期		108
他塚古墳	三重県四日市市大田村大字 風馬寺	前方後円	37.0	横穴式石室 (箱形石棺)	鏡・玉頸(丸玉3・管玉5・丸玉7・小玉)・須置器		後期		1
坂電古墳	滋賀県長浜市坂電町	前方後円	50.0	横穴式石室	鏡・玉頸(丸玉・管玉10・埴土70)・武鍔(鉄刀・鉄鍔)・その他(埴土形蓋具・鉄鍔10)		中期		111
安養寺	滋賀県栗東市都濃町川辺	不明		不明	鏡		不明		73
(佐)野洲野好寺	滋賀県野洲町野好寺	不明		不明	鏡		不明		2
山神照神社古墳	滋賀県長浜市近江町船登橋	前方後円	43.0	横穴式石室	鏡3・茨持具(金釧)・玉頸(三輪玉)・武鍔(鉄刀)・馬具・生座用具(馬具・埴土・埴土・埴土)		後期		112
津山古墳	滋賀県伊香郡高月町大字津川	円	12.4	横穴式石室 (箱形木棺)	鏡・玉頸(丸玉・管玉・ガラス玉)・武鍔(鉄刀)・生座用具(刀)		中期		113
桃谷1号墳	京都府中郡梅山町大字新治字松谷	円		横穴式石室	鏡・生座用具(金釧・耳掛)・玉頸・鉄鍔(鉄刀)・武鍔(鉄鍔)・馬具(埴土・金蓋)・生座用具(刀)・須置器・上座用蓋		後期		114
千原1号墳	京都府与謝郡磯城町八字岩	円		不明	[表向遺物] 鏡	須置器(埴土)	後期		115
森安寺古墳	京都府与謝郡山形市	円		横穴式石室 (箱形木棺)	鏡・武鍔(須置器)・馬具・生座用具(刀)・埴土・埴土		後期		18
鎌倉17号墳	京都府福知山市大字半田字 鎌倉	方	13.5	木棺直葬 (箱形木棺)	鏡・土蓋器(埴土・埴土・埴土)		前期		18
大森古墳	京都府綾部市町大字 木崎字宮ノ11	円?	0.0	不明	鏡2		不明		18
宮ノ口古墳	京都府綾部市久世字上六谷	円	7.0	不明	鏡		不明		18
佐津山古墳(雄略2号墳)	京都府京都市伏見区大字 所使字久敷	円	11.0	石棺直葬 (箱形石棺)	鏡・玉頸(丸玉・管玉)・武鍔(鉄鍔)・生座用具(埴土・埴土)		中期		18
上六谷13号墳	京都府京都市伏見区大字 所使字久敷	円		横穴式石室	鏡・生座用具(刀)・土蓋器・その他(鉄鍔)		前期		18
青塚古墳	京都府京都市伏見区大字 所使字久敷	方	49.0	横穴式石室	鏡・玉頸(丸玉・管玉・埴土・埴土)・武鍔(埴土)・武鍔(鉄刀)・武鍔(鉄鍔)・生座用具(刀)・埴土		中期		18

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	動植物(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
青松古墳	大阪府茨木市	円	20.0	櫛穴式石室	鎧2・鉄盾(約子玉7・半玉・小玉7・鍬型玉2)・武具(鉄刀2・鉄鉾・鉄鍬2)・馬具(馬2・鞍1対・鞍轡・辻金具6・巻頭・馬鞍)・御座器74・土師器7		後期		116
土俵山古墳	大阪府高槻市	円		櫛穴式石室 (新形木棺)	鎧・鉄盾(約子玉・小玉)・武具(新形付貫・短甲・盾)・武具(盾・鉄刀・鉾)・生皮用具(褌・刀)		中期		117
海部千塚古墳群	大阪府堺市之辻	不明		不明	鎧		不明		118
清水千塚群(西)	兵庫県三木市別所町大字高木字入山	円		櫛穴式石室	鎧・鉄盾(約子玉2)		不明		120
阿部池原古墳	兵庫県小野市阿部町	円		櫛穴式石室	鎧・五頭(約子玉2・管玉28・ガラス小玉525)・鉄鍬(鉄刀)・須磨器(坪玉2・小玉)		中期		120
安楽古墳	兵庫県赤松郡一宮町大字安楽	円		櫛穴式石室	鎧		不明		120
西野山5号墳	兵庫県赤松郡上郡町大字西野山	円		不明	鎧・武器(鉄鍬)		不明		120
宮田山1号墳	兵庫県多紀郡佐治町宮田	古墳		不明	鎧		不明		
文ノ田1号墳	兵庫県豊岡市香住	古墳		不明	鎧		不明		
北瀬18号墳	兵庫県豊岡市最良字北瀬	円	20.0	木棺蓋葬	鎧・生皮用具(刀)・その他(土師器出穴)		前期		121
北瀬23・3号墳	兵庫県豊岡市最良字北瀬	古墳		木棺蓋葬	鎧・玉頭(龜頭小玉・ガラス小玉48)		後期		122
ヘタバナ遺跡	兵庫県豊岡市香住町下河			鎧			不明		
シゲリ谷古墳群	兵庫県豊岡市日高町赤崎	円		櫛穴式石室	鎧		後期		123
(佐)奈良市山町	奈良県奈良市山町	不明		不明	鎧		後期		124
(佐)奈良市山町	奈良県奈良市山町	不明		不明	鎧		不明		
千塚山古墳	奈良県天理市御本町山田	古墳		不明	鎧		不明		
(佐)桜井町西宮	奈良県桜井町西宮	不明		不明	鎧		不明		73
新井千塚15号墳	奈良県葛城郡市川町西宮	円	18.0	木棺蓋葬 (組式式木棺)	鎧2・玉頭・武具(三外鉾新形短甲・新形付貫・臂甲・頸甲)・武具(鉄刀3・剣・鉄鍬48)・生皮用具(刀子)	短輪列(円筒)・短輪(鉄鍬)	中期中 ～後半		125
的場池3号墳東主体部	奈良県北葛城郡河内町竹内	円	9.0	木棺蓋葬 (組式式木棺)	鎧・生皮用具(褌)		後期		126
寺口石田4号墳北裾	奈良県北葛城郡河内町寺口	円	16.0	木棺蓋葬 (組式式木棺)	鎧・玉頭(ガラス玉)・武具(鉄刀)・生皮用具(刀子・褌・袖・袴)・鎧		中期		127
大領大新田古墳	奈良県五条市大領町能法橋寺口	円	12.0	木棺蓋葬 (新形木棺)	鎧・鉄盾(約子玉・小玉)・武具(鉄鍬・鉄刀)・短刀・馬具(辻金具)・須磨器・土師器・その他(鉄刀)		後期		128
大生山1号墳北裾	奈良県宇陀郡藤原町下井足	前方 後円	26.0	木棺蓋葬 (組式式木棺)	鎧・鉄盾(約子玉・小玉)・武具(鉄鍬・鉄刀)・短刀・馬具(辻金具)・須磨器・土師器・その他(鉄刀)		中期		129
フツンダ4号墳1号木棺	奈良県宇陀郡藤原町上井足	円	16.0	木棺蓋葬	鎧・玉頭(水晶切子玉・雉小玉)・武具(鉄鍬)・須磨器		後期		127
高山1号墳	奈良県宇陀郡藤原町池上	方	23.0	木棺蓋葬 (新形木棺)	鎧・玉頭(約子玉2・管玉16・ガラス小玉・ガラス小玉120)・武具(三外鉾・鉄鍬甲2)・鉄鍬(鉄刀3・鉄鍬4)・鉄鍬(約子玉・小玉)・須磨器(約子玉4・鉄鍬4)・鉄鍬(約子玉・小玉)・鉄鍬(約子玉・小玉)		中期		130

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模 (m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
(仮)坂田1号墳 (下室神古墳)	鳥取県八頭郡船岡町大字坂田字新土井	方	29.0	不明	鏝・武器(鉄刀?)・土器		不明		131
清水谷1号墳	鳥取県倉吉市大字津原字清水谷	円		不明	鏝・玉類(地盤勾玉・管玉)・武器(鉄刀2)・生産用具(鉄斧・鏝)		不明		2
(仮)国津神社境内	鳥取県新伯耆郡新町	不明		不明	鏝		不明		2
(仮)滝江町字田川～ 百賀付近	鳥取県西伯耆郡滝江町	不明		不明	鏝		不明		132
雲山古墳	鳥取県松江市新住町1522	方	12.0	木棺直葬	葬・身具(鏝4)・玉類(管玉9・ガラス小玉6)・生産用具(刀子2)・土器(鉄刀)		中期		133
栗原山古墳	鳥取県松江市区(津和野)前宮974	古墳		石棺直葬? (櫛形石棺)	鏝・武器(鉄刀・鉄鏝)・石製鉄製品(有孔円盤)・須恵器(埴2・有蓋高坪・高杯・杯蓋3・坏蓋6・小形甕・大形埴2)・土師器(高坪4・小形甕)		中期		134
あんぐろ古墳	鳥取県浜田市新市街町	円?		櫛穴式石室	鏝・身具(鉄剣)・玉類(水晶切子玉・金銅鍍二輪玉)・鉄製付大刀(鍔部欠刀)・武器(槍・石突)・馬具(轡・馬鐙・轡轡・轡轡・轡轡・轡轡)・須恵器	埴輪(円筒)	後期		135
瀬ノ鼻50号墳	鳥取県松江市市道田町4158	方	15.0	櫛穴式石室	鏝・身具(金釧2)・武器(鉄刀・鉄鏝)・須恵器(埴平ほか)		終末期		
吉田代東方丘陵南古墳	鳥取県松江市区(津和野)大字小宮	円	13.0	石棺直葬 (櫛形石棺)	鏝		中期?		136
本庄	岡山県池田郡口移町大字本庄	不明		不明	鏝		不明		137
田島丸山1号墳	岡山県津山市大字下田邑字平尾	円	37.0	櫛穴式石室	鏝・武器(鉄剣)・生産用具(鉄杖鉄斧・鉄杖鉄斧)・銅製品(埴輪石形銅製品)		中期		
瀬部神社2号墳	岡山県久米郡中菜町大字瀬部	円	10.0	木棺直葬 (組合式木棺)	鏝・須恵器		不明		
須賀谷1号墳	広島市東区大字福品字須賀谷	円	14.0	石棺直葬 (櫛形石棺)	鏝・身具(鉄剣)・玉類(磨玉勾玉・磨玉勾玉・管玉15・馬蹄鉄玉2・ガラス小玉56)・武器(鉄刀・鉄鏝)		中期		138
玉比奈奈古墳 (永奈古墳)	広島県尾道市西瀬町大字高島町	古墳		櫛形石棺?	鏝・玉類(磨玉勾玉2・管玉7)		中期		139
太形丸古墳	広島県三次市河内町大字	円	26.6	櫛穴式石室	鏝・玉類(ガラス小玉)・武器(鉄刀・鉄剣2・鉄鏝3)・生産用具(刀子・埴2)・その他(不明鉄鏝)		前期		140
八幡山1号墳	広島県安芸三郡倉賀野町大字敷地	横立 円形	45.0	櫛穴式石室?	鏝・武器(甲冑)・武器(鉄刀・鉄鏝)		中期		141
三ノ木大塚古墳	広島県安芸三郡倉賀野町大字三ノ木字大塚	横立 円形	41.0	櫛穴式石室	鏝・玉類(水成物玉・ガラス勾玉3・磨玉勾玉・管玉・ガラス小玉117・磨石白玉357)・武器(短甲)・武器(鉄刀2・鉄鏝4・石刀2)・馬具(鞍金具・轡)・生産用具(鉄製鉄製用具・刀子・他)・石製鉄製品(磨石有孔円盤2・鉄石3)		中期		142
新住町所在の古墳	広島県庄原市新住町	古墳		不明	鏝		不明		
上馬古墳(石棺) (上馬2号石棺)	山口県下関市大字永田町字上馬	古墳		石棺直葬 (櫛形石棺)	鏝・玉類(勾玉・小玉35)・土器		不明		143

遺跡(古墳)名	所在地	形状	規模(m)	主体部	副作品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
西矢野古墳	徳島市西町西矢野	古墳		不明	鏡・鉄身具(金環・銀環2)・玉類(白玉・碧玉・切子玉2)・武器(鉄剣6・鉄鍬4・鉄刀)・須置器(埴2・埴蓋・埴杯2・埴蓋・埴釜)		後期		144
瀬院院墓山古墳	香川縣松山町高瀬町	古墳		不明	鏡		不明		145
大日山4号墳	愛媛県南条郡小松町堀川	円		不明	鏡		不明		146
(古)瀬院山西方電線	愛媛県今治市新谷	不明		不明	鏡		不明		147
弁天山(若子山)	愛媛県松山市相生町・別格町	不明		不明	鏡2		不明		148
瀬山古墳	愛媛県松山市瀬山町	古墳		石室?	鏡・鉄身具(生鏝・銀鏝・鉄鏝・銅鏝)・玉類(碧玉・小玉)・裝飾付大刀(三葉形大刀)・石製遺品(銅鐙)・銅器類		後期		149
西山古墳	愛媛県松山市西ノ岡町	古墳		石室?	鏡・鉄身具(生鏝・銀鏝・鉄鏝・銅鏝)・玉類(碧玉・小玉)・裝飾付大刀(三葉形大刀)・石製遺品(銅鐙)・銅器類		後期		150
(古)沖ノ島4号遺跡	福岡県糸島郡大島村大字沖ノ島	祭祀		溝穴	鏡6・鉄身具(金環・銀環8)・玉類(白玉・碧玉・切子玉14・三輪玉)・鉄鍬(鉄鍬)・鉄刀・鉄鍬(8)・馬具(歩掛付腰刀・土金具)・生産用具(鉄刀2・刀子4)・その他(裝飾有孔刀形板4・銅鍬花形板1・金具・銅釘3・鉄製遺品・鐵形鉄片・鐵形刀子・金製遺品)		後期		151
(古)沖ノ島	福岡県糸島郡大島村大字沖ノ島	祭祀		溝穴	鏡		不明		
糸島郡山王古墳(三浦神社境内古墳)	福岡県糸島郡志太町大字志太	古墳		石制遺品(銅砂七輪)	鏡・鉄身具(生鏝・銀鏝・鉄鏝・銅鏝)・玉類(碧玉・小玉)・裝飾付大刀(三葉形大刀)・石製遺品(銅鐙)・銅器類		中期		152
町崎3号墳	福岡県八女市	前方後円	35.0	溝穴式石室	鏡・裝飾付大刀(鉄鍬鉄鍬大刀)・武器(鉄刀2・鉄鍬56)・馬具(鞍3・鞍轡・土金具6・鞍轡・鞍具2)・生産用具(刀・刀子3・鐵口)・鉄鍬(鉄鍬)・生産用具(刀子2)・須置器(埴・鐵)		後期		153
八女市遺跡所在の古墳	福岡県八女市大字遺跡	円		溝穴式石室?	鏡・裝飾付大刀(鐵鍬大刀)・武器(鉄刀)・馬具(鞍)・須置器		後期?		
こうもり塚古墳	福岡県糸島郡羽野町町口字阿波谷	古墳		不明	鏡・生産用具(鉄片)		後期		154
(古)筑前国	福岡県	不明		不明	鏡		不明		155
竹重A2号溝穴	福岡県行橋市大字泉町	溝穴		溝穴	鏡・玉類(碧玉13・ガラス小玉50)・鐵鍬(土玉・ガラス小玉33)・武器(鉄鍬・鉄鍬)・生産用具(刀子2)・須置器(埴)	墓門+銅鐙(埴)	中期~後期		156
惣社古墳	福岡県京都郡神埼町惣社字佐佐	円	28.0	箱式石棺	鏡2・武器(鉄鍬4・鉄刀)・生産用具(磨子刀子5・針2)・その他(産物不明品)		中期		157
花鈴丸古墳	佐賀市久保町大字久保	古墳		溝穴式石室	鏡・鉄身具(碧玉管玉12)・武器(鉄刀)・馬具(三輪鞍)・その他(鐵鍬金製遺品)		不明		158
藤の上古墳	佐賀県佐賀市和町大字久保池字野口	古墳		石制遺品(銅砂七輪)	鏡・鉄身具(鐵鍬10)・武器(鉄鍬)・生産用具(磨子刀子・鐵2・鐵)・石製遺品(磨子刀子)		中期		159
丹堤神古墳	佐賀県小城市小島町大字藤生七メノ	円	21.0	溝穴式石室	鏡・武器(鉄鍬5)・生産用具(鐵)		後期		160
紙玉玉高古墳	佐賀県松浦郡都賀町大字南山字玉高	古墳		溝穴式石室	鏡・鉄身具(金製遺品付耳飾・金環・銀環)・玉類(ガラス小玉・磨子玉・水晶小玉・碧玉管玉38・ガラス小玉279・水晶小玉4・水晶管玉5)・ガラス管玉10・鐵製刀子4		後期		161

通称(古墳)名	所在地	形状	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	主体部以外	時期	備考	文献
杉原古墳	佐賀県唐津市大字半田字金竹	古墳		竪穴式石室	竪・武器(短刀)・武器(鉄刀)		中期		154
金成古墳(金成古墳・山本新古墳)	佐賀県唐津市大字半田字金成	円		竪穴式石室	竪2・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		中期		154
野田古墳(大野古墳)	佐賀県唐津市大字半田字金成	円		竪穴式石室	竪2・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		晩期		157
武雄玉古墳	佐賀県武雄市大字大日寺玉島	円	45.0	竪穴式石室	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		中期		158
新井古墳	熊本県阿蘇郡一の宮町中道字上飯橋	円		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		160
(佐)中道古墳群	熊本県阿蘇郡一の宮町中道	円		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		161
妻の鼻3号墳	熊本県阿蘇郡一の宮町中道	古墳		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		162
日蓮2号墳(神奈川古墳)	大分県中津市大字半田字金成	古墳		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		163
地蔵	大分県中津市大字半田字金成	古墳	20.0	石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		164
特田13号墳	大分県中津市大字半田字金成	円	60.0	石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		165
西郷第265号墳(佐賀古墳)	佐賀県佐賀市大字半田字金成	古墳		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		1
(佐)新田第45号墳	佐賀県佐賀市大字半田字金成	古墳		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		2
トメ塚	佐賀県佐賀市大字半田字金成	古墳		石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		166
大野第10号墳	佐賀県佐賀市大字半田字金成	円	20.0	石室(竪穴式石室)	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		167
宮地寺地下式石室	佐賀県佐賀市大字半田字金成	地下式石室		地下式石室	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		168
市の瀬5号地下式石室	佐賀県佐賀市大字半田字金成	地下式石室		地下式石室	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		169
宮地寺10号(大野古墳)	佐賀県佐賀市大字半田字金成	地下式石室		地下式石室	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		170
不明	佐賀県佐賀市大字半田字金成	不明		不明	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		54
京都府立博物館	京都府立博物館	不明		不明	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		2
五島新田古墳	五島新田古墳	不明		不明	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		2
五島新田古墳	五島新田古墳	不明		不明	竪・武器(短刀)・武器(短刀)・武器(短刀)		不明		2

【文献一覧】

- 1 後藤守一 1977 『古鏡聚英』上篇 東京堂出版
- 2 樋口隆康 1979 『古鏡』『古鏡図録』 新澤社
- 3 岡崎敏ほか編 1978 『日本における古鏡発見地名表 関東地方』
- 4 梅原末治 1962 『日本出土の中国古鏡(1)』『考古学雑誌』第47巻第4号 考古学会
- 5 菅谷浩之 1984 『武蔵郡河部秋山村(児玉町秋山)出土の画像鏡拓本について』『児玉町史資料調査報告』古代第1集 児玉町教育委員会・児玉町史編纂委員会
- 6 鈴木伸秋・山田和夫ほか 1980 『房総の古鏡』房総風土記の丘友図録8 房総風土記の丘友の会
- 7 杉山晋作・大久保奈奈ほか 1987 『佐原市菩提寺山古墳の遺物』『古代』第83号 早稲田大学考古学会
- 8 小出義治 1985 『亀塚古墳』『沼江市史』 沼江市史編さん委員会
- 9 西藤優 1988 『若狭上中町の古墳』 上中町教育委員会
- 10 宮内庁書陵部 1976 『古鏡図録』 宮内庁書陵部
- 11 岐阜市 1979 『岐阜市史』史料編 考古・文化財 岐阜市
- 12 森本大輔 1925 『美濃に於ける仙人彈等鏡出土の一古墳』『考古学雑誌』第15巻第11号 考古学会
- 13 中野政樹 1972 『奈良時代における出土・伝世鏡の基礎資料および同范鏡の分布とその製造技術』『東京国立博物館紀要』第8号 東京国立博物館
- 14 原秀三郎編 1995 『遠江富士山古墳』 磐田市教育委員会
- 15 鈴木博司・西田弘ほか 1961 『新開古墳』『滋賀県史蹟調査報告』第12冊 滋賀県教育委員会
- 16 梅原末治 1921 『粟太・野洲両郡に於ける二三の古式墳墓の調査報告(近江国に於ける主要古墳の調査録其二)』『考古学雑誌』第12巻第3号 考古学会
- 17 堤主三郎 1970 『法王寺・岩滝丸山岡古墳発掘調査概要』『埋蔵文化財発掘調査概報』1970 京都府教育委員会
- 18 山城塚土資料館・丹後郷土博物館 1987 『鏡と古墳―景初四年鏡と芝ヶ原古墳』 山城塚土資料館・丹後郷土資料館
- 19 梅原末治 1920 『飯ノ岡ノ古墳』『京都府史蹟勝地調査会報告』第2冊 京都府
- 20 泉北考古資料館 1987 『冬冬特別展大阪府の古鏡展』泉北考古資料館より31号 泉北考古資料館
- 21 和泉市久保記念美術館 1985 『和泉市久保記念美術館蔵鏡図録』 和泉市久保記念美術館
- 22 柏原市教育委員会 1996 『高井山古墳』柏原市文化財概観1995-II 柏原市教育委員会
- 23 田中琢 1977 『鐙・剣・鏡』日本原始美術大系4 講談社
- 24 梅原末治 1925 『川辺塚口池田山古墳』『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第2巻 兵庫県
- 25 梅原末治 1925 『熊鷹部御同野村小山古墳』『兵庫県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第2巻 兵庫県
- 26 小島俊次 1959 『奈良市佐紀町鶴塚古墳』『奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報』第12輯 奈良県教育委員会
- 27 橿原考古学研究所編 1966 『大和天神山古墳』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第22冊 奈良県教育委員会
- 28 梅原末治 1973 『佐味田及新山古墳研究』 名著出版
- 29 泉秀岐 1982 『広陵町新山古墳群』『奈良県遺跡調査概報1980年度』 橿原考古学研究所
- 30 網干善教 1974 『宇陀郡橋原町上井足来山の古墳及び出土遺物について』『谷畑古墳』 橿原町教育委員会
- 31 奈良県教育委員会 1952 『伝部野古墳出土遺物』『奈良県総合文化調査報告・都介野地区』 奈良県教育委員会
- 32 岡崎敏ほか 1978 『日本における古鏡発見地名表 近畿地方Ⅲ』 岡崎敏
- 33 金谷克己 1955 『紀伊の古墳』考古学叢書1 綜芸舎
- 34 山陽町教育委員会 1989 『正鏡・4号墳』 山陽町教育委員会
- 35 山陽町教育委員会 1975 『用木古墳群』 山陽町教育委員会
- 36 島田貞彦 1926 『周防国富田町竹島御家老屋敷古墳発見遺物』『考古学雑誌』第16巻第1号 考古学会
- 37 梅原末治 1923 『備前国高西月村の古墳』『歴史と地理』第13巻第4号 史学地理学会同致会
- 38 岡山県 1986 『岡山県史』考古資料 岡山県
- 39 弘津史文 1928 『防長藩士鏡の研究』 山陽町史研究会
- 40 西田守夫 1980 『竹島御家老屋敷古墳出土の〇貳元年三角縁階段式神獸鏡と三面の鏡』『MUSEUM』357号 東京国立博物館
- 41 正岡睦夫 1985 『相谷の古墳群調査概報』『遺跡』28号 遺跡発行会
- 42 岡崎敏ほか 1979 『日本における古鏡発見地名表 九州地方Ⅱ』
- 43 前原町教育委員会 1986 『古賀崎古墳』 前原町教育委員会
- 44 鏡山猛・乙益重隆ほか 1961 『鏡神ノ島』 宗像神社復興期成会
- 45 大牟田市教育委員会 1975 『糟屋古墳』 大牟田市教育委員会
- 46 九州大学文学部考古学研究室編 1993 『番塚古墳』苅田町文化財調査報告第20集 苅田町教育委員会
- 47 弘津史文 1928 『豊前国筥見王氏作像鏡』『考古学雑誌』第18巻第10号 考古学会
- 48 江田船山古墳編集委員会編 1980 『江田船山古墳』 江田船山古墳編集委員会

石ノ形古墳

48	白木原和美	1983	「神人車馬画像鏡(江田船山古墳Ⅳ)」『肥後考古』第3号	肥後考古学会
49	入江英規	1953	「鑑堂古墳出土の銅氏作画像鏡」『大分県文化財調査報告』第1集	大分県教育委員会
50	高橋護	1992	「石井入り口遺跡 図説銅器」『菅生大地と周辺の遺跡』ⅩⅤ	竹田市教育委員会
51	岡崎敬ほか	1979	「日本における古墳発見地名表 九州地方Ⅰ」	
52	延岡市	1963	「延岡市史」	延岡市
53	高城町	1989	「高城町史」	高城町
54	石川恒太郎	1968	「宮崎県の考古学」	吉川弘文館
55	山崎五十郎	1923	「鹿児島県の古墳分布に就て」『考古学雑誌』第14巻第3号	考古学会
56	藤沢敦	1988	「裏町古墳出土の銅鏡について」『年報9』	仙台市教育委員会
57	福島県	1964	「福島県史」6 資料編Ⅰ	福島県
58	後藤守一・斎藤忠ほか	1960	「三味線古墳」	吉川弘文館
59	田代善吉	1939	「栃木県史」12 考古編	田代善吉・下野史談会
60	栃木県史編纂委員会	1979	「栃木県史」資料編 考古2	栃木県
61	真岡市史編纂委員会	1984	「真岡市史」1 考古資料編	真岡市
62	秋元陽光・斎藤弘	1984	「芳賀郡二宮町大和田富士山古墳について」『栃木県考古学会誌』第8集	栃木県考古学会
63	遺蹟遺物研究会	1930	「八幡原古墳と青梨子古墳の出土品」『上毛及上毛人』161号	群馬県立博物館
64	群馬県立博物館	1980	「群馬の古墳」	群馬県
65	後藤守一・相川龍雄	1936	「田野部平井村白石館岡古墳」『群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査報告』第3輯	群馬県
66	群馬県	1981	「群馬県史」資料編3	群馬県
67	東京国立博物館	1983	「東京国立博物館図版目録」古墳遺物篇(関東Ⅱ)	便利堂
68	赤堀村教育委員会	1981	「今居原遺跡発掘調査概報・南原古墳」	赤堀村教育委員会
69	新田町	1990	「新田町誌」通史編	新田町
70	梅沢龍昭	1975	「群馬県における初期古墳の成立ⅠⅩ2」『群馬県史研究』2・3号	群馬県
71	埼玉県立博物館	1984	「刃刀人とその時代」	埼玉県立博物館
72	今井準・横口尚武	1988	「坂戸市入西石塚と出土遺物」『坂戸市史調査資料 坂戸風土記』	坂戸市教育委員会
73	後藤守一	1926	「漢式鏡」	雄山閣
74	東京国立博物館	1986	「東京国立博物館図版目録」古墳遺物篇(関東Ⅲ)	便利堂
75	君津都市文化財センター	1990	「千葉県君津市三糸塚古墳一周溝・石室確認調査報告書」君津都市文化財センター発掘調査報告書第51集	富津市教育委員会・君津都市文化財センター
76	神奈川県	1979	「神奈川県史」資料編20 考古資料	神奈川県
77	大磯町教育委員会	1964	「神奈川県大磯町の横穴」	大磯町教育委員会
78	後藤守一	1920	「鏡を伴ひし古墳」『考古学雑誌』第10巻第2号	考古学会
79	森本六爾	1929	「川柳將軍塚の研究」	阿蘇院
80	長野県	1988	「長野県史」考古資料編4(遺構・遺物)	長野県史刊行会
81	八木英三郎・林五策	1902	「信濃国発見の古墳物」『東京人類学会報告』第178号	東京人類学会
82	小山真次	1932	「信濃国小原郡の岩窟古墳」『考古学雑誌』第22巻第2号	考古学会
83	伊根与八郎	1977	「伊予乃那の古墳Ⅳ古墳 8鏡」『南魚沼』	新潟県教育委員会
84	新潟県	1983	「新潟県史」資料編1 原始・古代Ⅰ 考古編	新潟県
85	中川成夫・岡本勇	1961	「新井市天神堂古墳群」『新潟県頸城古墳群の研究』	立教大学博物館学講座
86	吉岡康輔・河村好光編	1997	「加賀能美古墳群」	寺井町教育委員会
87	福井県立博物館	1985	「第3回特別展 遺跡は語る」	福井県立博物館
88	福井県立博物館	1986	「古墳の美」	福井県立博物館
89	坂城	1992	「三尾野古墳群」『第7回発掘調査報告書(資料)』	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
90	中山頼弘	1990	「長泉寺山古墳群7・8・9号墳」『平成元年度発掘調査報告書(資料)』	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
91	岐阜県	1972	「岐阜県史」通史編 原始	岐阜県
92	岐阜県博物館	1989	「美濃の古墳時代」	岐阜県博物館
93	浜松市博物館	1968	「根本山古墳群Ⅱ」	浜松市文化協会
94	浜北市史編纂委員会	1989	「浜北市史」通史編 上巻	浜北市史編纂委員会
95	八木英三郎	1901	「共同備忘録(第13回)(156) 造江国発見の古墳と玉環」『東京人類学会雑誌』第16巻178号	東京人類学会
96	岡崎敬	1978	「日本における古墳発見地名表 東海地方」	岡崎敬
97	松井一明	1994	「遠江・駿河における前期群集墳の成立と展開について」『向坂綱二先生還暦記念論集 地域と考古学』	向坂綱二先生還暦記念論集刊行会
98	静岡県編	1930	「静岡縣史」1(1972年復刻)	名著出版
99	掛川市教育委員会	1992	「掛川市考古の日記」『出土文化財展』図録	掛川市教育委員会
100	富士市教育委員会文化体育課編	1988	「富士市の埋蔵文化財(古墳編)」	富士市教育委員会
101	高坂稔彦	1982	「法持寺蔵白鳥御陵出土品写真帖模写」『尾張の遺跡と遺物』27号	
102	名古屋博物館	1984	「守山の遺跡と遺物」	名古屋博物館

- 103 小塚謙太郎 1929 「尾張高蔵寺付近発見の遺跡遺物」『考古学雑誌』第19巻第9号 考古学会
- 104 大口町 1979 「大口町史」 大口町
- 105 新編岡崎市史編纂委員会 1989 「新編岡崎市史」 岡崎市
- 106 豊田市教育委員会 1966 「豊田市大塚古墳発掘調査報告書」 豊田市教育委員会
- 107 豊橋市 1973 「豊橋市史」 1 豊橋市史
- 108 三重県埋蔵文化財センター 1991 「三重の古墳」 三重県埋蔵文化財センター
- 109 伊勢市教育委員会 1982 「南山古墳発掘調査報告」 伊勢市教育委員会
- 110 ふるさとの歩み編纂委員会 1980 「ふるさとの歩み阿山町」 阿山町教育委員会
- 111 三重大学歴史研究会 1969 「阿山町大山田村鳴塚古墳および多気郡明和町坂本第一号墳について」 三重大学歴史研究会
- 112 島田山彦 1926 「近江国坂田郡能登郷の古墳」『歴史と地理』第15巻第3号 史学地理学同窓会
- 113 滋賀県教育委員会 1982 「北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ一高月町涌出山古墳一」 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会
- 114 樋口隆康 1961 「峰山古墳の調査」『京都府文化財調査報告』第22冊 京都府教育委員会
- 115 岩瀬町教育委員会 1984 「千原古墳の調査」『岩瀬町文化財調査報告』第6冊 岩瀬町教育委員会
- 116 小林行雄 1962 「背松塚古墳の調査」『大阪府の文化財』 大阪府教育委員会
- 117 原顯明 1960 「土俵山古墳発掘調査概報」『郷土高槻』第14号 高槻市教育委員会
- 118 森浩一 1955 「大阪府泉北郡陶器千塚22号墳」『日本考古学年報』 3号 日本考古学協会
- 119 堺市役所 1970 「堺市史」 続編1 堺市役所
- 120 鎌八木三次 1973 「猪鹿出土漢式鏡の研究」 鎌八木三次
- 121 豊岡市教育委員会 1980 「北摂古墳群一豊岡中核工業団地予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2」 豊岡市教育委員会
- 122 豊岡市教育委員会 1987 「北摂古墳群一立石墳墓群一豊岡中核工業団地予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2」 豊岡市教育委員会
- 123 日高町 1980 「日高町史」 資料編 日高町
- 124 奈良市 1968 「奈良市史」 考古編 奈良市
- 125 橿原考古学研究所編 1981 「新沢千塚古墳群」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書第39冊 奈良県教育委員会
- 126 橿原考古学研究所編 1982 「新沢千塚古墳群」 当麻町教育委員会
- 127 橿原考古学研究所附属博物館 1992 「大和の古墳の貌」 橿原考古学研究所附属博物館
- 128 末永雅雄 1956 「宇智郡飯合部村大岡 犬岡古墳」『奈良県史跡名勝天然記念物調査抄録』 第9輯 奈良県教育委員会
- 129 橿原考古学研究所編 1977 「奈良県宇智郡大王山遺跡」 橿原町教育委員会
- 130 松本博明 1990 「高山古墳群」『奈良県遺跡調査概報1989年度』 橿原考古学研究所
- 131 野田久男 1977 「鳥取県出土の古墳時代銅鏡一覧」『気高町誌』 気高町
- 132 岡崎敬 1977 「日本における古墳発見地名表」『考古論集一慶祝松崎寿和先生六十三歳記念論文集一』 松崎寿和先生退官記念事業会
- 133 鳥根県教育委員会 1981 「松江一寄山古墳群」 鳥根県教育委員会
- 134 山本清 1955 「鳥根大学敷地内薬師山古墳遺物について」『鳥根大学論集(人文科学)』 5号 鳥根大学
- 135 山本清 1957 「浜田市めんぐろ古墳遺物について」『鳥根大学論集(人文科学)』 7号 鳥根大学
- 136 山本清 1955 「隠岐古墳調査報告」 鳥根大学
- 137 鴨方町 1990 「鴨方町史」 本編 鴨方町
- 138 本村豪章 1960 「広島県安芸郡品部谷古墳調査報告」『安芸地方史研究』 34号 安芸地方史研究
- 139 村上正名 1961 「備後芦田川下流域の古墳群(II)」『古代古墳』 第4号 古代古墳研究会
- 140 本村豪章 1961 「備後三次市太郎八古墳調査報告」『古代古墳』 第4号 古代古墳研究会
- 141 高田明人・山崎やよい 1979 「双三郎古寺町八幡山古墳遺跡雑感」『続トレンテ』 3-1 続トレンテ編集委員会
- 142 広島県埋蔵文化財調査センター 1983 「三玉大塚一調査と整備一」 広島県埋蔵文化財調査センター
- 143 下関市役所 1965 「下関市史」 原始一中世 下関市役所
- 144 徳島市教育委員会 1981 「古墳時代の徳島市一埋蔵文化財資料展」 徳島市教育委員会
- 145 瀬戸内海歴史民俗資料館 1983 「讃岐青銅器図録」 瀬戸内海歴史民俗資料館
- 146 長尾町 1986 「改訂長尾町史」 上巻 長尾町
- 147 円興寺遺跡発掘調査団 1971 「高松市円興寺遺跡調査概報」『文化財協会報』 10 香川県文化財保護協会
- 148 観音寺市教育委員会 1972 「観音寺市の文化財」『考古資料シリーズ』 創刊号 観音寺市教育委員会
- 149 鏡山盛・原田大六ほか 1958 「神ノ島」 宗像神社復興期成会
- 150 鏡山盛・森貞次郎ほか 1951 「北九州古文化図鑑」 2 福岡県高等学校教職員組合
- 151 小田富士雄・真野和夫 1971 「鮮崎第3号墳」『菅の谷家跡群 八女古家跡群調査報告』 八女市教育委員会
- 152 東光彦・高本恭二ほか 1983 「参考資料解説」『肥後考古』 第3号 肥後古家跡群 肥後考古学会
- 153 佐田茂・赤崎敏男ほか 1979 「竹重遺跡」 東出版事業社

石ノ形古墳

- | | | | | |
|-----|------------|------|---|--------------|
| 154 | 志佐博彦 | 1977 | 『泉内出土の古鏡』『佐賀県立博物館調査研究書』第3集 | 佐賀県立博物館 |
| 155 | 松尾祐作 | 1949 | 『森上古墳』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第8輯 | 佐賀県教育委員会 |
| 156 | 吉村茂三郎 | 1936 | 『名勝鶴山と其附近の古墳に就いて』『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』5 | 佐賀県 |
| 157 | 唐津市 | 1962 | 『唐津市史』 | 唐津市 |
| 158 | 玄海町教育委員会 | 1984 | 『先部遺跡』 | 玄海町教育委員会 |
| 159 | 武雄市教育委員会 | 1973 | 『玉島古墳』 | 武雄市教育委員会 |
| 160 | 高木恭二 | 1983 | 『乳紋鏡(鞍掛塚古墳Ⅳ)』『肥後考古』第3号 肥後古鏡聚英 | 肥後考古学会 |
| 161 | 高木恭二 | 1983 | 『乳紋鏡(鞍掛塚古墳Ⅱ・Ⅲ)』『肥後考古』第3号 肥後古鏡聚英 | 肥後考古学会 |
| 162 | 本渡市教育委員会 | 1982 | 『森ノ鼻古墳群』 | 本渡市教育委員会 |
| 163 | 賀川光夫 | 1971 | 『大分県の考古学』郷土考古学叢書6 | 吉川弘文館 |
| 164 | 鳥居龍藏 | 1935 | 『上代の日向篇』 | 鳥居龍藏研究所 |
| 165 | 梅原未治 | 1969 | 『持田古墳群』 | 宮崎県教育委員会 |
| 166 | 宮崎県総合博物館 | 1982 | 『宮崎県総合博物館収蔵資料目録』考古・歴史資料 | 宮崎県総合博物館 |
| 167 | 喜田貞吉 | 1929 | 『日向の古墳墓』『日向国史』上巻 | 史談出版社 |
| 168 | 宮崎県総合博物館 | 1979 | 『日向の古墳展』 | 宮崎県総合博物館 |
| 169 | 国富町教育委員会 | 1985 | 『市の湖地下式横穴墓群』 | 国富町教育委員会 |
| 170 | 国富町教育委員会 | 1980 | 『本庄小学校内地下式横穴発掘調査報告書』 | 国富町教育委員会 |
| 171 | 神戸市教育委員会 | 1995 | 『西求女塚古墳第5次・第7次発掘調査概報』 | 神戸市教育委員会 |
| 172 | 吉井町教育委員会 | 1989 | 『月岡古墳 国指定重要文化財出土図録』 | 吉井町教育委員会 |
| 173 | 浦和市遺跡調査会 | 1989 | 『白旗宮跡遺跡発掘調査報告書』 | 浦和市遺跡調査会 |
| 174 | 森町史蹟さん委員会編 | 1998 | 『森町史』資料編1 考古 | 森町 |
| 175 | 豊津町教育委員会 | 1976 | 『幸木遺跡』 | 豊津町教育委員会 |
| 176 | 橿原考古学研究所編 | 1998 | 『黒塚古墳(奈良県天理市柳本町)』奈良県立橿原考古学研究所リーフレット第5号 | 学生社 |
| 177 | 富川啓 | 1998 | 『死者を甦る鏡—宇都宮市本村2号古墳出土遺物「乳文鏡」』『栃木県埋蔵文化財センター通信 やまかいどう』No. 18 | 栃木県埋蔵文化財センター |

3 鈴釧の集成

凡例 鈴釧の集成は泉森皎氏の「鈴釧」〔文献1〕、金属製釧を集成した小高幸男氏の「古墳出土釧の基礎的研究」〔文献2〕、静岡県産の釧出土遺跡を集成した小野真一・川江秀孝両氏の集成〔文献6・7〕を基礎として、加筆・修正を行ったものである。泉森氏の集成は1973年に公表されたものであることから、集成当時の古墳名および地名が変更されている古墳が多数存在し、出土古墳(地)名が確認できていないものがある。したがって、鈴釧の出土が確認できない古墳に関しては集成表には掲載せず、補記に列記した。

また、上記の文献を基礎として、鏡や馬具等の別の集成表において鈴釧が出土したとされる古墳を含めて、今回集成できた数は59例で、実際に図面・図版等で確認できた鈴釧は少ない。したがって、この他に多数の鈴釧が出土していると考えており、今回の集成数がすべてではないと考えている。

なお、参考資料として、鈴釧を装着したと推測されている人物埴輪出土地を掲載した。確認できた人物埴輪は2例と僅少である。

集成の結果 鈴釧の分布範囲は西は大分県日田市(日隈2号墳)から、東は宮城県伊具郡(台町古墳)までに及んでいる。出土数は全国で59例(未確認15例を除く)であり、鈴鏡の140例と比較するとやや出土数が少ない遺物である。地域別にみると、東北6例、関東25例、北陸1例、中部・東海14例、近畿なし、中国5例、四国1例、九州3例と、ほぼ全国的に出土するが、関東において群を抜いて多く出土しており、東海が続く。それ以外の地域では少ない傾向を窺うことができる。確認できなかった15事例を含めてもこの傾向は変わらない。県別では静岡県の10例を筆頭に、神奈川県7例、埼玉県5例と続く。したがって、鈴鏡や鈴杏葉のような鈴付の青銅製品と同様に東日本に多く、西日本に少ない。近畿圏では、確認できなかった(伝)河内国出土鈴釧を除いて、現在まで確実な事例は出土していない。

つぎに、出土した遺構をみておくと、和泉浜C遺跡祭祀跡および雷電下遺跡の住居址から出土した各1例、出土遺跡が不明な鈴釧8例を除いて、古墳から49例出土している。古墳では、前方後円墳7例(15%)、帆立貝形古墳3例(6%)、円墳20例(42%)、横穴7例(15%)、墳形が不明な古墳12例である。横穴からの出土は関東・東北に限られている。平均規模は、前方後円墳71.7m、帆立貝形古墳35.0m、円墳21.1mを測る。主体部は堅穴式石室2例、粘土槨・木棺直葬等8例、横穴式石室15基、横穴7例である。

鈴釧には釧部が円環状のもの(以下、環状鈴釧)と、卵形で帯状のもの(以下、带状鈴釧)に区別することができる。環状鈴釧はさらに円環状のもの(環状鈴釧)と、環が変形したもの(変形環状鈴釧)に区別することができる。出土数は、環状鈴釧39例、変形環状鈴釧2例、带状鈴釧6例、不明2例を数える。

確認できた範囲での、鈴釧の鈴数は、釧が環状鈴釧では四～六鈴まで存在し、四鈴1例(3%)、

五鈴15例(38%)、六鈴18例(46%)、鈴数不明5例である。環状の鈴釧に関しては、六鈴が約5割と最も多く出土している。釧が歪んでいる変形環状鈴釧は七鈴1例、八鈴1例である。一方、釧が帯状の鈴釧では九～十三鈴まで存在し、九鈴1例、十鈴1例、十一鈴1例、十二鈴2例、十三鈴1例を数える。鈴数と分布には相関関係は認めることはできないが、確実な例では福井の事例を除いては帯状鈴釧は東日本でのみ出土している。

装着に際し重要な鈴釧の内径であるが、極端に小さい雀宮牛塚古墳例の5.5cm以外は5.8～7.3cmまで存在し、ほぼ6.0～7.0cmの範囲に収まる。詳細には、5.8cm 2例、5.9cm 3例、6.0cm 8例、6.4cm・6.5cm・6.6cm 2例、6.8cm 2例、7.0cm 2例であり、他は各1例である。平均径は約6.3cmを測る。

鈴釧の分布状況は散在するのみであり、同一古墳群中の複数の古墳から出土していない。

最後に、1古墳から出土する鈴釧の数であるが、今回確認した範囲ではすべて1古墳1事例のみであり、2点以上出土した古墳は皆無である。この点は金属製の釧として一括に括られているが、同一古墳から複数出土する環状銅釧とは明らかに相異なる。

なお、鈴釧の製作技法は合わせ目等を確認できないことから、環状鈴釧・帯状鈴釧ともにすべて鋳造であると推測する。

[補記]

報告書・図録等、近年に集成された別の副葬品の集成表等でも鈴釧の出土が確認できなかった古墳および遺跡を列挙すると、大志田出土(福島県いわき市)、大槻町出土(福島県郡山市)、高松山出土・八幡出土(福島県相馬市)、黒岩出土(福島県福島市)、旧千代村出土(茨城県千代田町?)、双孔山古墳(群馬県藤岡市)、丸山出土(長野県松本市)、坂城町出土(長野県坂城町)、本郷古銭横穴(静岡県掛川市)、イセヤ塚古墳(静岡県清水市)、狐塚古墳(静岡県浜松市)、(伝)南河内郡美陵町出土(大阪府南河内郡)、漆生古墳(福岡県稲築町)、竹並横穴(福岡県行橋市)の15事例である。

Tab. 9 鈴釧を装着した埴輪出土遺跡集成表

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	出土遺物	人物埴輪	装着状況	鈴数	形態	文献
塚廻り4号墳	群馬県太田市竜舞字塚廻り3089ほか	帆立貝形	22.5	箱形石棺2	埴輪(円筒・朝顔・器財・人物)	「跪く男子」像	大刀を佩き、籠手を身につけている。籠手の上に鈴釧を装着している。	4鈴	帯状	41
長壽総合博物館蔵	埼玉県	不明	不明	不明	不明	鈴(2副体)	2連の手玉の間に装着している。	4鈴	環状	2

Tab. 10 鈴懸出土遺物集成表

遺跡名	所在地	遺物名	規模	埋葬主体	内径(cm)	材質	形状	数量	表層	副葬品(出土遺物)	番号	文献
原基B 8号横穴	宮城縣赤松町	横穴		横穴	6.0	6号	円形	壱枚		装身具(銅)		8
大平寺山 4号横穴	宮城縣仙台市	横穴		横穴	7.0	不明	円形	壱枚	不明	装身具(青銅2)、玉璽(碧玉)、武器(鉄刀)、馬具(轡・勒金具2)		9
熊野堂A 28号横穴	宮城縣名取市	横穴		横穴	5号	5号	円形	壱枚		装身具(鉄鍔)		9
台町20号墳	宮城縣伊具町丸森町	前方横穴	30.0	墓穴式石室						飾・装身具(青銅2・銅鍔3)、玉璽・武器(鉄刀)、石製品(海石・砂磨面山)、茶器(土)		33
津正作B47号横穴	福島県いわき市好間町分奈田字塙正作	横穴		横穴	6.2	6号	円形	壱枚				10
(左)横山古墳群	福島県いわき市上平塚大字横山・宮岡	古墳		不明					不明	飾・装身具(青銅)、玉璽・武器(鉄刀)、馬具(轡)・須惠器(高杯・坏身・投石、仏口甕)		33
上野古墳	茨城縣茨城町上野19	古墳		不明	6.4	12号	円形	壱枚	不明	飾・玉璽(得志玉14・ガラス丸玉6)、武器(横切鋌切頭甲・鐙手・玉璽4)、武器(鉄刀・鉄剣・鉄鏃・鉄鍔・馬具(四脚・馬鐙3・剣起首者蓋4・轡)、生産用具(鉄)		42 50
林野宮南古墳 (林ノ宮塚古墳)	茨城縣結城大字科学上林	前方横穴	40.0	磨盤 or 磨床	6.0	5号	円形	壱枚	不明	飾・装身具(銅)、武器(鉄刀2・鉄鍔2・鉄鍔24ト)		33
(田)新治郡高野村 (現石巻市高野)	茨城縣石巻市高野	不明		不明	7.0	硬片	円形	壱枚	不明	玉璽(水磨切子玉10・赤銅玉5・埋木漆玉9)・武器(使鋌8)・生産用具(刀子)		42
権風山1号墳	栃木県	古墳		古墳	5.9	6号	円形	壱枚	不明	武器(鉄刀・鉄鏃)、生産用具(刀子)		2
密宮牛塚古墳	栃木県宇都宮市新宮町	竪立貝形	56.7		5.5	5号	円形	壱枚	不明	物6・装身具(金鍔2)・玉璽(得志玉5・2・得志玉如玉・得志玉5・7・ガラス小玉5)・武器(短切・武器(鉄刀・鉄鍔3ト)・馬具(轡)・鍔首蓋3・三脚輪)・須惠器(高杯・甕)・土師器(深杯2・甕)		42
其間原古墳	栃木県奥州市原基	円	30.0	横穴式石室(横穴型)		不明			不明	玉璽・武器(鉄刀・鉄鏃)・馬具		2
助平十二天宮古墳	栃木県足利市助平3丁目	竪立円形	30.0	不明	8.4	8号	菱形	壱枚	不明	飾・武器(刀・短刀・鉄刀8)・馬具(轡・轡鍔・鈴金蓋2・三脚輪・鈴5・轡鍔片)・生産用具(須惠器(高杯・甕)?)		11
(左)神社二方山古墳 (左)神社町町跡出土	群馬県前橋市神社	前方横穴	89.8	不明	6.6	6号	円形	壱枚	不明	装身具(金鍔・鐵鍔)・須惠器(長高蓋)		12
九谷村51号墳 (新田山古墳)	群馬県太田市東文島字原605-4番	前方横穴	110.0	横穴式石室		6号	円形	壱枚	不明	装身具(金鍔)・玉璽(得志玉3)・武器(短切?)・鍔鍔付大刀(主頭大刀)・武器(鉄刀2・轡)・馬具(轡鍔・高蓋)		34
菅下遺跡	埼玉県	住居址		—	6.8	不明	円形	壱枚	不明			14
(左)岡部町出土	埼玉県入道郡岡部町	不明		不明	7.8	10号	円形	壱枚	不明	山具(虎骨)		15
諏訪古墳	埼玉県三浦郡岡部町中里字新井399番	円	24.3	横穴式石室(横穴型)	6.4	6号	円形	壱枚	不明	装身具(青銅・鐵鍔)・玉璽・武器(鉄刀・鉄鏃)・[水正時代山土]・装身具(青銅)・玉璽(得志玉)・鍔鍔付大刀(須惠大刀)・馬具(高蓋)1ト		16
諏訪山1号墳2号 竪立墓	埼玉県東松山市大字西水沼	円	16.0	粘土墓	7.3	12号	円形	壱枚	右手	装身具(鐵鍔)・武器(鉄刀・鉄鏃2)・馬具(轡外)・武器(轡)		15
大野古墳群(山林寺 境内)馬場跡	大野古墳群(山林寺境内)大字川	古墳		不明						飾・装身具(青銅2)・玉璽(得志玉・勾玉玉如)・武器(轡)・生産用具(鉄鍔)		32
太田法面7号墳	千葉県鎌倉大倉沢	古墳								(朱公茂)		17

遺跡名	所在地	遺跡名	規模	埋葬主体	内径(cm)	形状	形制	設置	出土遺物	備考	文献
海西遺跡野山台33号墳	千代橋木更津市	円	18.0	木更津直	6.0	円形	環状	左手	馬具(環状鍔付巻・巻物)・武器(鉄刀・鉄鏝)・玉類(勾玉7・小玉約120)	期内に人が通存。	18
狭江亀巻古墳2主外郭(下部木炭層)	東京都江城市元祖1丁目	竪立円形	40.0	木炭層	5.8	円形	環状	左手	【部外】鉄・玉類(管玉・ガラス玉)・武器(鉄刀)・生産用具(刀・子)；【部外】式部(鉄刀)・馬具(十字形鍔付巻・鍔形巻物・巻物・巻物)	角部から玉類出土。	19
和泉区C遺跡	東京都大田区	竪立円形	6.6	6.6	円形	環状	不明	不明	玉類(滑石丸玉14・ガラス小玉28)・武器(鉄刀・鉄鏝・鉄鏝)・生産用具(滑石鍔巻物・刀・子・巻物)・環状巻物・土師器・その他(金金)		45
北風森古墳	神奈川県伊勢原市	古墳	5.0	5.0	円形	環状	不明	不明	鉄身具(鉄鍔・鍔物)・玉類(環状丸玉・管玉管玉・環状巻物・管玉・ガラス管玉・水晶切子玉2・ガラス小玉)・武器(鉄刀・鉄鏝)		5
佐倉古墳	神奈川県鎌倉市	横穴(円形)	不明	不明	不明	環状	不明	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		43
赤井2号墳	神奈川県横浜市磯区	円	20.0	横穴式石室(円形)	6.1	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		20
衣笠遺跡古墳(原山小谷古墳)	神奈川県横浜市磯区	古墳	6.7	横穴式石室	4.0	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		47
上佐知1号墳	神奈川県横浜市磯区	円	20.0	横穴式石室(無機型)	5.9	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		5
新橋1号墓穴(新橋5丁目出土、新橋油井町)	神奈川県横浜市磯区	横穴	6.4	横穴	6.4	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)	既に築められた状態で出土。ただし、左右どちらか不明。	21
横沢B4号墓穴	神奈川県横浜市磯区	横穴	6.8	横穴(円形)	6.8	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		22
清林5号墳(カエン新石)	神奈川県横浜市磯区	円	不明	不明	不明	不明	不明	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)	分層が出土したとされる。	43
和田山2号墳	石川県能登郡寺井町	円	18.4	粘土器	7.2	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)	分層が出土したとされる。	3
土師部古墳(古墳)	岐阜県土師郡	古墳	6.4	不明	6.4	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)	外径15.4×12.0cm、内径7.2×5.6cm、高さ5.0cm	48
赤井西口古墳	静岡県三島市	円	6.5	横穴式石室(無機型)	6.5	円形	環状	右手	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)	期内に人が通存。	24
藤原古墳	静岡県三島市	円	7.0	横穴式石室(無機型)	7.0	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		25
陸奥原古墳	静岡県三島市	円	20.0	横穴式石室(無機型)	20.0	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		26
中山1号墳	静岡県三島市	円	5.9	横穴式石室	5.9	円形	環状	不明	鉄身具(金環2)・玉類(環状丸玉1・水晶切子玉9・環状巻物玉5)・ガラス丸玉8・玉玉3・ガラス小玉550)・武器(鉄刀4・刀・刀巻物・鉄鏝3)・生産用具(刀子2+)・環状巻物(部外)・土師器(環状巻物)		27

遺跡名	所在地	遺構名	規模	埋土状況	内径 (cm)	軸径	形態	質	装着	備考	文献
惣ヶ丘 1 号墳	静岡県南原上	円	円	横穴式石室		5 鈎 (推定)	円形	環状			28
焼山出土 (洞系古墳)	静岡県由緒茶	古墳		横穴式石室					新銅		6
静岡県及井田町水子字ノ彩		円	27.0	木棺直葬	6.0	6 鈎 (推定)	円形	環状	左手		7
石・彩色漆土器部		不明		不明					不明		本編
君子	静岡県静岡市東大瀬			不明		6 鈎 (推定)	円形	環状	不明		6
下多賀村杜内出土	静岡県熱海市下多賀		不明	不明	6.0		円形	環状	不明		29
静岡県静岡市等谷城子	静岡県静岡市等谷城子		不明	不明	6.9	11 鈎 (推定)	円形	環状	不明		30
静岡県静岡市等谷城子	静岡県静岡市等谷城子		不明	不明			円形	環状	不明		31
おつくり山古墳	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町井戸 1-78	円	25.0	竪土構?		7 鈎	変形	環状	不明		32
大瀬子山古墳	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町 101・102・139	前方後円	75.0	方形石室 (木棺)		13 鈎	円形	変状	不明		33
妙蓮寺山古墳	鳥取県出雲市下古志町	前方後円	49.0	横穴式石室 (石棺)	6.3	不明	円形	環状	不明		49
めんくろ古墳	鳥取県浜田市治和町	円?		横穴式石室							33
上馬井境影石	鳥取県平田町西原町上馬	円	15.0	石積直葬 (横穴石棺)	5.8	5 鈎	円形	環状	左手		35
二重古墳	広島県福山市影家町大字下馬子町下馬子	円	27.5	横穴式石室							33
上ノ山古墳	山口県下関市大字横瀬本字ノ山	前方後円	108.0	横穴式石室		5 鈎	円形	環状	不明		33
西山古墳	愛媛県松山市ノ岡町	古墳		石室?							33
小倉古墳	福岡県	円				5 鈎	円形	環状			33
井岡 1 号墳	福岡県筑紫郡那珂川町安中ノ島	古墳	13.0	竪穴式横口式石室	6.0	5 鈎	円形	環状	不明		2
日鏡 2 号墳	大分県日田市大字庄手	古墳		不明							33
長瀬河内所蔵	不明	不明	不明	不明		6 鈎	円形	環状	不明		4
関西大学博物館所蔵	不明	不明	不明	不明	6.0	6 鈎	円形	環状	不明		1
阪南大学所蔵	不明	不明	不明	不明	6.0	5 鈎	円形	環状	不明		46
岡山大学所蔵	不明	不明	不明	不明	6.5	5 鈎	円形	環状	不明		46

石ノ形古墳

【文献一覧】

- 1 泉森校 1973 「鈴鋼」『考古学資料図鑑』 関西大学文学部
1998 「鈴鋼」『博物館資料図鑑』 関西大学博物館
- 2 小高幸男 1989 「古墳出土土器の基礎的研究—金属製型について—」『君津郡市文化財センター研究紀要』Ⅲ 君津郡市文化財センター
- 3 山梨県立考古博物館編 1990 「古墳時代が聞える」 山梨県立考古博物館
埼玉県立博物館 1991 「音のかたち—日本の音を掘る—」 埼玉県立博物館
神奈川県教育委員会 1977 「当麻遺跡・上依知遺跡」『神奈川県埋蔵文化財調査報告』12 一般国道129号線改良工事に伴う調査 神奈川県教育委員会
- 6 小野真一編 1972 「駿河東原古墳—静岡県における古墳時代装身具の研究—」 加藤学園沼津考古学研究所・中部開発
- 7 川江秀孝 1992 「銅」『静岡県史』資料編3 考古3 静岡県
8 宮城県文化財保護協会 1978 「六 鈴鋼・銅」『宮城の文化財』第38号 宮城県の考古資料(その2) 宮城県文化財保護協会
9 宮城県教育委員会編 1990 「大年寺山横穴群」『宮城県文化財調査報告書第136集』 宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・宮城県山田長林事務所
いわき市教育文化事業団
- 10 いわき市教育文化事業団 1984 「邪正作横穴群」『ふるさとの考古資料』(Ⅱ)—近年発掘調査された重要埋蔵文化財— 重要埋蔵文化財—
- 11 望月幹夫 1981 「栃木県足利市十二天古墳の再検討」『MUSEUM』361号 東京国立博物館
12 太田区立郷土博物館編 1995 「武蔵国造の乱」考古学で読む『日本書紀』 東京美術
13 埼玉県 1982 「新編埼玉県史」資料編2 原始・古代 発生・古墳 埼玉県
14 埼玉県教育委員会 1984 「開越自動車道開通埋蔵文化財発掘調査報告Ⅸ 雷電下・飯玉東」埼玉県道跡発掘調査報告書第22集 埼玉県教育委員会
- 15 東洋大学考古学研究会編 1970 「埼玉県東松山市高板岡山古墳群(第1次発掘調査報告)」東洋大学考古学研究会発掘調査報告1 考古学資料刊行会
16 埼玉考古学会・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立博物館・埼玉県立埋蔵文化財センター 1997 「第30回道跡発掘調査報告会発表要旨」 埼玉考古学会・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立博物館・埼玉県立埋蔵文化財センター
- 17 千葉県文化財センター 1996 「千葉県文化財センター研究紀要」17 千葉県文化財センター
18 小林理恵 1991 「千葉県木更津市雷西遺跡群大台33号墳出土土鈴銅」『立正考古』第30号 立正大学考古学研究会
- 19 小出義治 1985 「亀塚古墳」『沼田市史』 沼田市史編さん委員会
20 日本家業史研究所 1990 「横浜市区赤田の古墳」『日本家業史研究所』 日本家業史研究所
21 赤尾忠 1926 「逗子町の横穴」『考古学雑誌』第16巻第4号 考古学会
22 平塚市遺跡調査会編 1990 「根板間横穴墓B支群 根板間通学路の建設に伴う発掘調査」平塚市埋蔵文化財シリーズ14 平塚市
- 23 吉岡康雄・河村好光編 1997 「加賀 能美古墳群」 寺井町・寺井町教育委員会
24 三島市誌編纂委員会 1958 「三島市誌」上巻 三島市
25 経部忍忍編 1959 「静岡県三島市茶寿園西口古墳」『日本考古学年報』8号 昭和30年度 日本考古学協会
26 森町史編さん委員会編 1998 「森町史」資料編1 考古 森町
27 静岡縣 1930 「静岡縣史」I (1972年復刻) 名著出版
28 登呂博物館 1990 「特別展 静岡・清水平野の古墳時代—新出土品にみるまつりとくらし—」 登呂博物館
- 29 熱海市誌編纂委員会 1967 「第二篇 原始古代Ⅱ 古代 第一章原始時代の遺跡」『熱海市史』上巻 熱海市役所
30 中嶋郁夫 1992 「古墳時代」『磐田市史』史料編1 考古・古代・中世 磐田市
31 東海埋蔵文化財研究会 1989 「断夫山古墳とその時代」第6回東海埋蔵文化財研究会資料 東海埋蔵文化財研究会
32 埼玉県 1951 「埼玉県史」I 埼玉県
33 国立歴史民俗博物館 1992 「国立歴史民俗博物館研究報告」第56集 共同研究「日本出土銀データ集成」2 国立歴史民俗博物館
- 34 群馬県古墳時代研究会編 1996 「群馬県内出土の馬具・馬形埴輪」群馬県古墳時代研究会資料集第2集 群馬県古墳時代研究会
35 山本清 1957 「浜田市めんぐろ古墳遺物について」『鳥根大学論集(人文科学)』7号 鳥根大学
36 池田南雄 1954 「出雲上馬古墳調査報告」『古代学研究』10 古代学研究会
37 隆安光彦 1977 「福山市歌家町二塚古墳について」『芸備』5号 芸備友の会
38 下関市役所 1965 「下関市史」原始〜中世 下関市役所
39 賀川光夫 1971 「大分県の考古学」『郷土考古学叢書』6 吉川弘文館
40 大谷晃二編 1996 「96年特別展 黄金に魅せられた倭人たち」 八雲立つ風土記の丘資料館
- 41 群馬県教育委員会編 1980 「塚廻り古墳群」 群馬県教育委員会
42 東京国立博物館 1980 「東京国立博物館図版目録」古墳遺物篇(関東Ⅰ) 東京国立博物館
43 東京国立博物館編 1986 「東京国立博物館図版目録」古墳遺物篇(関東Ⅱ) 便利堂
44 東京国立博物館 1983 「東京国立博物館図版目録」古墳遺物篇(関東Ⅲ) 便利堂
45 大島町史編さん委員会 1998 「東京都大島町史」考古編 大島町

第VI章 関連資料集成

- 46 茨城県立歴史館 1995 『音の考古学—音具と鳴器の世界—』
- 47 厚木市秘書部市史編さん室編 1998 『厚木市史』古代資料編(2)
- 48 榎原考古学研究所附属 1982 『音の考古学 古代の響』
博物館編
- 49 島根県教育委員会 1964 『妙蓮寺山古墳調査報告』
- 50 茨城県史編さん原始古 1974 『茨城県史料』考古資料編 古墳時代
代史部会編

茨城県立歴史館
厚木市

榎原考古学研究所附属
博物館
島根県教育委員会
茨城県

4 蛇行剣の集成

凡例 本集成は、楠元哲夫・本間恵美子・田中茂・上村俊雄・前坂尚志各氏による既往の成果(文献1～5)を基に追加・補正したものである。本集成には、剣の形態をとらず、槍・鉾に相当する利器をも含むが、おのおの類例に乏しく、また比較検討の資料とするため、一括して提示した。

数値は、基本的に各報告中にある記載に拠った。極力実見して正確な情報を確認するよう努めたが、一部未確認のものもある。また、詳細な数値が記述されていない場合は挿図より計測したが、錆化等のため詳細が不明瞭な場合は「—」と記入した。括弧内の数値は遺存長を示す。尺貫法により法量が表示されたものは、1尺=30.3cmで換算した。未公表の事情で詳細が不明なものは空欄のままとした。

所在地名は、極力現地名に変更したが、一部未確認のものも含む。また、宮崎県所在の築池5号・大萩31号・菓子野3号地下式横穴は、「宮崎県史」[文献42]により名称(番号)を改めた。

共伴遺物のうち、副葬品は蛇行剣を確認した主体部に伴うもののみを挙げた。主体部以外からの出土遺物は、古墳の築造に伴うと判断したもののみを挙げ、[]で括弧とともに出土位置を明記した。なお、単数出土のものは数値を省略し、「○」と表示したものは、数量不明であるが複数確認されているものである。

集成の結果 蛇行剣の出土は、東は栃木県から南は鹿児島県まで、48地点総数60振を数える⁽¹⁾。すべて古墳または地下式横穴・地下式板石積石室墓からの副葬品として出土している。

この他にも、上記文献の中で類例に数えられていたり、また報告の中で蛇行剣であると記述されているものがあるが、私見ではその認定に躊躇するものがあり、それらについては今回は集成から割愛した。その事例を列挙すると、福岡県八女市所在立山山24号墳出土鹿角装剣[文献50]、宮崎県西諸県郡須木村所在上ノ原10号地下式横穴出土鉄剣[文献51]、鹿児島県大口市所在瀬ノ上8号地下式横穴出土鉄剣[文献43]の3例である。逆に、今回は含めなかったが蛇行剣の可能性を有する事例に、大阪府藤井寺市所在珠金塚古墳出土鉄剣[文献53]がある。客観的な基準により区分したわけではないが、第五章考察・北山論文にて再び言及するので、参照願いたい。また、Tab. 12では類型欄を設け、私見による蛇行剣の類型化を試みた。これも考察の中で詳論する。

なお、剣または槍・鉾という武器の形状をとらないが、鉄製利器に「蛇行」という加工を施した可能性のある製品に、大阪府富田林市山中田町所在山中田2号墳出土の「鉤状鉄製品」(未公表)がある。これは、鉤の頭部で水平方向に、茎に相当する部分には垂直方向の屈曲が確認でき、はたして「蛇行」という概念に帰属するのか、土圧による2次的所産であるのかは即断できない。一応類似の例として留意しておくが、今後正式報告をまって再考することにする⁽²⁾。

【註】

- 1 ただし、成川遺跡例のみは原書の入手が間に合わなかったため、詳細は確認していない。
- 2 当遺物の実見に際しては、富田林市教育委員会の今西淳氏よりご配慮を賜った。

Tab. 11 蛇行劍出土遺跡集成表

番号	遺跡(古地名)	所在地	墳形	規模(m)	外周施設	主体部	規模(m)	副葬品(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
1	築笠古墳	栃木県小山市 喜沢	円	32.4	墓石	粘土層 粘土板	(4.0)× 0.6	鏃3、鉄片(管玉)3、滑石管玉3、小玉39、ガラス 小玉113、銅鍍2、不図・生銅○、武器(鉄刀2、 鉄劍、鉄行刺)、生産用具(鹿角鉄刀子4、鹿角鉄 鋸1箇、鉄釘、起釘)、青銅製物8	[封土中]武器(鉄刀、鉄 劍、鉄劍);[横内]埴輪 [円筒・動物・人物];[横 輪]埴輪(円筒)		6 54
2	フネ古墳 (東部: a、西 部: b)	長野県諏訪市 神宮寺奇	方?	20.0?	周溝	粘土層(桐竹 形木板)	木棺 [東部] 6.0× 0.6; [西部] 5.5×0.7	[東部]鉄片(鉄鍍)、銅玉5、管玉5、ガラス小 玉59、鉄刀(剣1、鉄行刺)、生産用具(刀子5、 鋸);[西部]鏃2、鉄片(銅鍍、管鍍2)、武器(刀剣 9、赤銅頭大刀、鉄行刺、鉄鍍2、鉄鍍○)、生産用具 (刀子5、地4、鉄片、曲刀鉄鍍4、鋸4)、石製品 (紡錘車矢羽、青銅鍍、青銅製物2)	[周溝内]土器遺物・小 形土器・高杯 形土器蓋	7 55	
3	和田山5号墳 (B部)	石川県守井町 和田・米寺	前方 後円	54.0		粘土層	4.2×0.7	[箱内]鏃3、荒形玉(管鍍)4、武器(鉄行刺)、武器 [三角板鉄鍍(管鍍)]、生産用具(刀子2、鉄鍍3、U字 形刀子、曲刀鉄鍍)、大形鉄鍍2、鐵鍍:[(箱外)武器(刀 剣13、槍3、鉄行刺、鉄鍍2、鉄鍍○)玉]	[埴内]須恵器要 蛇行刺(a)あ 蛇行刺(b)と 蛇行刺(c)あ り、主体部は 焼物遺物	10	
4	狐塚古墳	石川県加賀市 物更町	前方 後円	55.8		箱形石棺	2.7×0.7	鍍、鉄片(管玉)5、環状玉4、環状玉35、ガ ラス管玉4、ガラス玉20、金銅管玉5、鍍鍍金 銅○、武器(鉄鍍、鉄刀6、鉄行刺、鉄鍍、鉄鍍91)、 武器(鍍鍍板鉄鍍)角付、鍍鍍板鉄鍍短中、鹿手、 小丸○、生産用具(刀子5)、骨製物2	[埴内]須恵器 蛇行刺、同 品の出土位置 は不明	11	
5	南照上3号墳	静岡県山合山 台	円	17.0	周溝	木棺		武器(鉄刀、鉄鍍2+)、武器(圓甲?)、馬具(三脚鈴 2)	[埴内]埴輪 [埴内]須恵 器要	8	
6	五ヶ山B-2 号墳	静岡県浅井町 浅名五ヶ山	長方 29.0	34.0× 29.0	墓石	榎竹形木棺	(4.2)× 0.6	[箱内]埴土(埴土遺物2)、武器(鉄剣5、鉄刀2)、 武器(三角板鉄鍍短中、圓甲、頸中、草鍍)、生産用 具(刀子・鏃・地・鏃・鉄片50+、起釘);[箱外]武 器(鉄鍍4、鉄鍍○)、武器(皮製物)	[埴内]埴輪 [埴内]須恵 器要	9	
7	石ノ形古墳 (西玉体部)	静岡県森田町 西木子石ノ形	円	27.0	周溝・道 9出し	箱形木棺	(2.3)× 0.9	[箱内]鏃、武器(鉄劍、鉄刀、鉄行刺、鉄鍍4+)、武 器(鍍鍍板鉄鍍短中)、馬具(イ字形鍍板付髑、鉄鍍 板形鉄鍍板付髑、金銅鍍金具3、鉄鍍板金具2、 鉄鍍3);[箱外]武器(鉄刀3、鉄鍍)、馬具(鉄鍍2、 生産用具(鉄鍍2、刀子4、槍3)、須恵器鍍、滑石製 片玉、ガラス製小玉	[埴内]埴輪(円筒)須 恵器要・埴土(埴内)埴 輪(円筒)	本書	
8	落合3号墳	三重県勢市 津村町山口田	長方 10.0	11.0× 10.0	周溝	榎竹形木棺	2.1×0.6	[箱内]埴土(埴土の玉、タブ白土玉)、武器(鉄劍、 鉄刀、鉄行刺)、生産用具(刀子4);[箱外]武器(鉄 劍、鉄鍍14)、生産用具(曲刀)	[埴内]須恵器・埴土、 土器蓋・埴土(周溝内) 瓦葺、須恵器・ 埴土・コップ形埴土・香・ 埴土	12	
9	奥大石2号墳 (SX204)	京都府綾部市 上杉町奥大石	方	11.0	周溝	組合式木棺	3.3×0.7	[箱外]武器(鉄行刺、鉄鍍4)、生産用具(刀子)	埴土	主体部は2基	13

番号	遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	外周施設	主体部	総長(m)	断面(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
10	豊中古墳 (第2主体部東側)	大阪府豊中市 中牧塚	円	56.0	周溝	粘土塔	7.0×0.7	[箱内] 鐵, 装身具(鐵釧5), 武器(鉄剣7, 鉄刀10, 鉄刀短, 武器(長刀)皮製短剣中2, 三角板短剣中2, 短中, 盾中, 皮製短剣, 皮製短, 生産用具(刀子3); [箱外] 武器(劍3), 武器(皮製短)	[溝内・溝溝内] 埴輪(円筒・形象)	主体部は3基	16
11	七瀬古墳 (第3標:S1; a, S2; b)	大阪府堺市旭 か丘	円	50.0		粘土塔	?	[箱内] 武器(刀子130+), 素銅短剣片2, 蛇行剣; [箱外] 武器(劍, 鉄劍3)	[溝内] 埴輪(円筒・形象)	主体部は3基	17
12	北原古墳(南 相)	奈良県宇陀郡 奈良市宇陀大字 野依・平尾	東方	16.0× 34.5	周溝	割竹形木棺	4.6×0.5	[箱内] 装身具(鐵釧14+, 帶玉10玉147), 武器(鉄劍2, 鉄刀2, 蛇行剣), 生産用具(6)	[周溝内] 土師器蓋・小形土師蓋	主体部は2基	56
13	後出3号墳 (第2主体部)	奈良県宇陀郡 大字宇陀守道	円	13.0	掘削	割竹形木棺	4.1×0.9	[箱内] 鐵, 装身具(鐵釧○), 武器(鉄刀4, 蛇行剣, 鉄劍70+), 武器(三角板短剣片併用新製短中)	[溝内] 埴輪(円筒・形象)	主体部は2基	14
14	後出7号墳	奈良県宇陀郡 大字宇陀守道	円	12.0	掘削	割竹形木棺	3.9×0.6	[箱内] 武器(鉄劍6, 鉄刀4, 蛇行剣, 鉄劍50+), 武器(三角板短剣短中); [箱外] 武器(劍, 鉄劍)	[溝内] 須恵器高坏, 須恵器蓋	主体部は2基	14
15	後出19号墳 (第1主体部)	奈良県宇陀郡 大字宇陀守道	円	18.0	掘削	割竹形木棺	4.4×0.6	[箱内] 武器(鉄劍2, 鉄刀2, 蛇行剣), 生産用具(刀子4); [箱外] 武器(鉄劍, 鉄刀2, 鉄劍11), 生産用具(刀子2), 土師器蓋	[溝内] 須恵器高坏, 須恵器蓋	主体部は2基	15
16	陵山古墳	和歌山県橋本 市古田山丸山 公園内	円	46.0	周溝	堅穴系溝口式 石室か	?	[箱内] 武器(蛇行剣, 鉄劍), 武器(短中短片, 短中短片, 金銅短小丸), 土師器高坏・蓋, 須恵器蓋・杯・盃	[周溝内] 埴輪(円筒・形象)	埴輪品の出土 位置は不明	18 19
17	寺内6号墳 (木棺)	和歌山県橋本 市橋北谷	円	21.5	墓石	箱形木棺	2.6×0.7	[箱内] 装身具(鐵釧), 武器(蛇行剣), 生産用具(ミ ニチュウ刀)	[溝内] 埴輪(円筒・形象)	中心主体の粘土 土様に追跡	20
18	鳥山古墳(瑞 雲寺町)	兵庫県加西市 菅井町	円	46?		石蓋土墳	2.4×0.5	武器(鉄劍, 鉄刀6, 蛇行剣2, 槍, 鉄劍○), 武器(清 銅版短剣短中, 鉄製短剣短中, 鉄製短剣短中, 不明鉄 製品)	[箱内・埴輪] 埴輪(円筒・形象)		21
19	豊田谷古墳 (第2号墳南 側)	鳥取県倉吉市 谷	長円	18.0× 16.0	周溝	木棺	2.4×0.5	[箱内] 武器(蛇行剣), [箱外] 装身具(碧玉勾玉, タ マ玉3)		中心主体は積 式石棺	22
20	藤原池原古墳	岡山県久米郡 久米町里公文	不明			不明		武器(蛇行剣・生産用具(刀子)		出土位置は不 明	23
21	中田2号墳	広島市高田町 大字小田字中 小田	円	15.0	通り出 し?	堅穴式石室	3.1×0.8	鐵, 武器(鉄劍2, 鉄刀5, 蛇行剣, 鉄劍33), 武器(三 角板短剣短中, 草部, 鉄製短剣短中付), 生産用 具(刀子3, 鉄斧, 曲刀鎌2, 手鎌, 鋸2, 有刺短形鉄製 品2)	[溝内] 土師器高坏, 土師 (鉄劍)	埴輪以外は埴 輪外	24
22	空襲1号墳	広島市高田町 大字山本字 空襲	円	13.0	周溝	堅穴系溝口式 石室(組合式 木棺)	2.0×0.6	装身具(ガラス玉11), 武器(鉄劍, 蛇行剣), 石製品 (何れも鉄), 金銅短小玉2, 鉄劍短6		棺の内外は不 明	25
23	結1号墳	鳥取県倉吉市 安田町	長円	14.0× 11.0		墓塔		武器(蛇行剣, 鉄劍9)・生産用具(刀子3)			26
24	五反田3号墳	鳥取県安来市 門町	隅丸 長円	9.2×6.6	周溝	箱形木棺	2.7×1.1	[箱内] 生産用具(刀子); [箱外] 武器(蛇行剣)	[周溝内] 土師器蓋		27

番号	遺跡(古跡)名	所在地	築設 様式	規模(m)	外部施設	主体部	規模(m)	主用途(統行制、鉄剣)	主体部以外	備考	文献
25	沼間遺跡(古跡) 竹屋 船石 1 号墳	福岡県行橋市 竹屋 佐賀県三養基 郡上峰村大字 堀	横穴 不明	1.2×2.3	周溝	堅穴式横穴式 石室	2.0×0.7	[城外]武甕(統行制)			28
26	船石 2 号墳	佐賀県三養基 郡上峰村大字 堀	円	12.0	周溝	堅穴式横穴式 石室	2.8×1.6	[宮内]内溝(統行制、鉄剣 4)、生皮用具(刀子、木 形始方形石斧、工具鉄製品○)、須磨器杯蓋・杯 身・蓋片、[南河内]土器(安曇器系)	[南河内]袋状鉄斧	船の内外は不 明	29
27	高古墳	佐賀県大町町 海野	円	19.7	不明	組立式石棺？ 周溝	1.9×0.8 程度	装身具(硬磁器玉・玉・水晶玉・青銅製鈴 ○、鉄製器蓋)、武器(鉄剣・鉄刀・鉄刀・鉄手刀・ 鉄鍬・骨鏃○)、生産用具(刀子・袋状鉄斧・曲刀鏃・ 櫛手杖製品)、石製品(紡錘型)	出土位置は不 明		30
28	船石 1 号墳	大分県日田市 高瀬	円	15.7?	不明	堅穴式石室？	不明	武器(統行制、鉄鍬○)	出土位置は不 明		31
29	浄土寺山古墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	40.0	周溝	粘土器	6.8×1.0	装身具(竹器 8)、武器(鉄剣 9、鉄刀 6)、鉄鍬、武器 (骨・短矛・櫛○)、生産用具(鉄斧)			32
30	船石 2 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	11.0	周溝	粘土器	不明	装身具(管玉 7、ガラス丸玉 853)、武器(鉄剣、蛇 行制)	[横穴]形象埴輪(横 正面より断面?)		33
31	船石 3 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	11.5	周溝	粘土器	7×0.5	武器(統行制、鉄鍬)、生産用具(刀子)	[横穴]土師器器蓋		34
32	船石 4 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	1.4×0.5	周溝	粘土器	不明	武器(鉄剣、鉄刀、統行制)、生産用具(磁石)			35
33	船石 5 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	0.9× 2.0?	周溝	粘土器	不明	武器(統行制、鉄斧、鉄鍬 4)、生産用具(刀子、袋状 鉄斧)			36
34	船石 6 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	1.3×2.2	周溝	粘土器	不明	武器(統行制、鉄鍬 7、骨鏃 8)			37
35	船石 7 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.7×1.4	周溝	粘土器	不明	武器(統行制)			38
36	船石 8 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.4×1.7	周溝	粘土器	不明	武器(鉄剣、蛇行制、鉄鍬 9)、鉄鍬 6	米公表		5
37	船石 9 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.4×1.9	周溝	粘土器	不明	武器(統行制)、生産用具(刀子)			39
38	船石 10 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.5×1.5	周溝	粘土器	不明	武器(鉄刀、統行制、鉄鍬 7)、馬具(南河内製鞍付轡、 辻金具 2)、生産用具(刀子 4)			40
39	船石 11 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.5×1.5	周溝	粘土器	不明				41
40	船石 12 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.5×1.5	周溝	粘土器	不明				42
41	船石 13 号墳	宮崎県都城市 徳永	横穴式	2.5×1.5	周溝	粘土器	不明				43

石ノ形古墳

番号	遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	外部施設	主体部	総横(m)	副葬品(出土遺物)	主体部以外	備考	文献
42	日守地下式横穴	宮崎県高橋町大字後川内字日守		1.6×1.4				武器(鉄剣, 蛇行剣, 鉄鏃6), 生産用具(刀子, 槍2)			45
43	郷ノ上5号地下式横穴	鹿児島県大口市青木		1.6×0.9				武器(蛇行剣, 鉄鏃2)			43
44	南日段第3号地下式横穴	鹿児島県伊佐郡釜戸町前日		1.5×0.8				武器(蛇行剣, 鉄鏃12)			46
45	横瀬町地下式板石横穴墓	鹿児島県川内市上川内町釜口		1.0×0.7				武器(鉄剣, 鉄刀子3, 蛇行剣)			47
46	鹿川遺跡	鹿児島県横濱市山内町段川曲り道	土塚墓							詳細は未確認	52
47	上の原9号地下式横穴	鹿児島県肝属郡永山町前田		不明		板石製組合式石棺	—	武器(イモガイ製貝輪2), 武器(蛇行剣), 生産用具(刀子2)			49
48	金堤田入号石塚墓	任那郡御村面金堤里				墓穴系横口式石棺		武器(鉄刀子3, 蛇行剣, 鉄鏃), 道具(赤銅鍬板付鏃), 生産用具(鉄斧5, 曲刀鏃3), 陶器土器(短頸甕, 長頸甕, 広口甕, 高杯2)		棺の内外は不明	48

Tab. 12 蛇行剣計測値一覧表

番号	資料名	全長 (cm)	身部長 (cm)	尾長 (cm)	身部幅 (cm)	最大厚 (cm)	断面形状	類型	備考
1	桑57号墳	(73.0)	(58.5)	14.5	4.0	0.60	レンズ状	A I 4	輸入
2-a	フネ古墳(東部)	71.8	55.3	16.5	3.7	0.50	レンズ状	A I 4	輸入
2-b	〃 (西部)	(65.8)	(55.0)	10.8	3.2	0.40	レンズ状	A I 4	輸入
3-a	和田山5号墳(横2)	(48.4)	38.5	(9.9)	4.2	1.00	菱形	蛇行槍	
3-b	和田山5号墳(剣9)	(55.4)	(49.8)	(5.6)	3.8	0.80	菱形	B—4	輸入, 鞘金具遺存
4	狐塚古墳	(38.7)	—	—	—	—	—	蛇行槍	
5	南沼上3号墳	—	—	—	—	—	—	—	未公表
6	五ヶ山B-2号墳	36.2	19.2	17.0	2.5	0.90	菱形	蛇行鉾	未発表
7	石ノ形古墳	47.5	34.5	13.0	3.4	0.80	菱形	A I 5	輸入, 木柄装着
8	落合3号墳	34.5	24.8	9.7	3.0	0.35	レンズ状	B I 1	木柄装着
9	奥火石2号墳	70.0	56.0	14.0	3.0	0.60	菱形	B II 3	輸入
10	豊中大塚古墳	56.4	44.4	12.0	2.8	0.40	菱形	B II 4	鹿角装柄装着
11-a	七瀬古墳(S1)	(70.0)	60.0	(10.0)	4.0	0.90	菱形	C II 5	
11-b	七瀬古墳(S2)	(63.5)	58.5	(5.0)	3.3	0.80	菱形	—	
12	北原古墳	84.6	69.0	15.6	3.6	0.60	菱形	B II 3	輸入, 木柄装着
13	後出3号墳	(51.0)	(40.2)	10.8	3.2	0.75	レンズ状	C II 1	輸入, 木柄装着
14	後出7号墳	64.2	48.5	15.7	3.5	0.65	レンズ状	C II 1	輸入, 木柄装着
15	後出18号墳	59.2	45.9	13.3	2.9	0.50	レンズ状	C II 1	輸入, 木柄装着(柄部装具遺存)
16	陵山古墳	(40.3)	(40.3)	—	4.6	0.90	菱形	—	
17	寺内63号墳	75.2	60.3	14.9	3.3	0.40	レンズ状	B II 3	
18-a	亀山古墳(剣2)	(67.6)	—	—	—	—	—	—	輸入(鞘口装具遺存か), 木柄装着
18-b	龜山古墳(剣7)	—	—	—	—	—	—	—	
19	酒根後谷6号墳	(44.9)	35.7	(9.2)	3.4	0.60	菱形	C—	輸入(鞘口装具遺存か), 木柄装着
20	藤蔵池遺古墳	(55.0)	43.6	(11.4)	3.0	0.70	レンズ状	A II 4	木柄装着
21	中小田2号墳	(48.5)	(38.3)	10.2	5.2	0.70	レンズ状	B II 4	木柄装着
22	空長1号墳	(37.3)	(26.8)	10.5	3.0	0.60	菱形	C II 1	輸入, 木柄装着(葛巻)
23	越11号墳	52.7	40.0	12.7	3.3	0.40	レンズ状	C—	輸入, 木柄装着
24	五反田3号墳	(27.6)	(19.6)	8.0	3.3	0.40	レンズ状	— I 5	
25	竹並A-34号横穴墓	56.2	42.8	15.4	3.4	0.60	菱形	B II 1	箱内形鏝(9.2×8.5×0.4, 内径2.3)装着
26	船石1号墳	71.5	56.8	14.7	4.1	0.70	菱形	A II 1	鏝は片面のみ明瞭, 他方はレンズ状
27	船石2号墳	27.8	19.0	10.3	3.0	0.65	菱形	蛇行鉾	輸入
28	高島古墳	(36.4)	—	—	—	—	—	—	
29	(仮) 坂塚古墳	(38.8)	(38.8)	—	2.6	0.50	レンズ状?	—	
30	浄土寺山古墳	25.7	—	—	—	—	—	—	
31	児屋根塚古墳	(71.0)	—	—	—	—	—	C—	実測図未公表
32	龜古墳	77.8	61.2	16.6	4.2	0.60	レンズ状	C II 1	
33	大蔵31号地下式横穴	66.8	55.5	11.3	3.6	0.50	レンズ状	C II—	鞘口は鹿角装, 木柄装着
34	灰ヶ野1号地下式横穴	(51.6)	(51.6)	—	4.0	0.60	菱形	C—	鞘口装具遺存か?
35	牧ノ原2号地下式横穴	46.0	35.2	11.2	3.2	0.50	レンズ状	A II—	
36	築港5号地下式横穴	(45.6)	(34.9)	10.7	2.5	4.60	レンズ状	C I 2	輸入, 鹿角装柄装着
37	築港92-6号地下式横穴	—	—	—	—	—	—	—	未公表
38	菓子野3号地下式横穴	(48.7)	—	—	—	—	—	—	数値は文献5による
39	久見迫3号地下式横穴	68.5	57.5	11.0	3.0	0.50	レンズ状	C—	鞘口装具遺存か?
40	馬頭5号地下式横穴	(23.5)	—	—	—	—	—	—	数値は文献42による
41	島内地下式横穴群	—	—	—	—	—	—	—	9張が出土, 未公表
42	日守地下式横穴	(54.2)	42.9	11.3	2.9	0.4	レンズ状	—	未公表
43	瀬ノ上5号地下式横穴	(28.1)	26.3	(1.8)	2.3	0.50	レンズ状	C—	鞘口装具遺存か?
44	前目灰塚3号地下式横穴	29.0	24.0	5.0	3.8	0.40	レンズ状	C—	
45	横岡青号地下式板石墓室	56.6	42.8	13.8	3.0	0.60	菱形	B I 2	布巻, 木柄装着
46	成川遺跡	—	—	—	—	—	—	—	未確認
47	上の原9号地下式横穴	(38.0)	—	—	—	—	—	—	数値は概略
48	金城里A号石部墓	(76.0)	62.0	(14.0)	4.2	—	菱形	B—	数値は概略

石ノ形古墳

【文献一覧】

- 1 橋元哲夫 1986 「蛇行剣出土地名表」『宇陀 北原古墳』大宇陀町文化財調査報告書第1集 大宇陀町・榎原考古学研究所
- 2 田中茂 1988 「南九州出土の蛇行剣」『宮崎県史研究』第2号 宮崎県
- 3 上村俊雄 1980 「南九州の考古学」『単人世界の島々』海と列島文化5 小学館
- 4 本間恵美子 1988 「古代の女性へ女神たちからのメッセージ」 鳥根県立八雲立つ風土記の丘資料館
- 5 前坂尚志 1994 「蛇行剣小考」『考古学と信仰』同志社大学考古学シリーズVI 同志社大学考古学シリーズ刊行会
- 6 小山市教育委員会 1972 「桑57号墳発掘調査報告書」 小山市教育委員会
- 7 藤森栄一・宮坂光昭 1965 「諏訪上社アネ古墳」『考古学集刊』第3巻第1号 東京考古学会
- 8 天石夏美 1995 「南沼上古墳群」『ふちゅへる』No.3 平成5年度静岡市文化財年報 静岡市教育委員会
- 9 浅羽町 1997 「五ヶ山 B-2号墳」『浅羽町史』資料編1 考古・古代・中世 浅羽町
- 10 吉岡康輔・河村好光編 1997 「加賀 能美古墳群」 寺井町・寺井町教育委員会
- 11 後藤守一 1937 「加賀國江沼郡勸修寺字二子塚所在孤塚古墳」『古墳探掘品調査報告』市立博物館学報第9号 市立博物館
- 12 三重県教育委員会 1992 「近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告―第7分冊―落合古墳」『三重県埋蔵文化財調査報告101-7』 三重県埋蔵文化財センター
- 13 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990 「奥大江山古墳群」『京都府遺跡調査概報』第37冊 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 14 榎原考古学研究所 1986 「宇陀地方の遺跡調査 後出古墳群Ⅰ(南部)」『奈良県遺跡調査概報』1985年度 榎原考古学研究所
- 15 榎原考古学研究所編 1993 「宇陀郡大宇陀町 後出古墳群―18号墳―」『奈良県文化財調査報告書第69集』 奈良県教育委員会
- 16 豊中市教育委員会 1987 「摂津豊中 大塚古墳」『豊中市文化財調査報告書第20集』 豊中市教育委員会
- 17 樋口隆康ほか 1961 「和泉国七瀬古墳調査報告」『古代学研究』27 古代学研究会
- 18 金谷克巳ほか 1955 「紀伊の古墳」1 紀伊考古学研究会
- 19 吉田寛夫・仲完治 1974 「宇陀県桑本市陵山古墳発掘調査概報」 桑本市教育委員会
- 20 関西大学文学部考古学研究室編 1972 「寺内63号墳」『和歌山市における古墳文化』関西大学文学部考古学研究紀要第4冊 和歌山市教育委員会
- 21 梅原未治 1939 「播磨加西郡龜山の古墳と其の遺物」『考古学論叢』第14輯 考古学研究会
- 22 倉吉市教育委員会 1991 「立違道群Ⅵ 須根後谷遺跡発掘調査報告書」『倉吉市文化財調査報告書第61集』 倉吉市教育委員会
- 23 久米開発事業に伴う文化財調査委員会 1980 「付、藤沢池頭出土遺物」『藤山遺跡群Ⅱ』久米開発事業に伴う埋蔵文化財調査報告書(2) 久米開発事業に伴う文化財調査委員会
- 24 広島大学文学部考古学研究室編 1980 「中小田古墳群―広島市高陽町所在―」『広島市の文化財第16集』 広島市教育委員会編
- 25 広島市教育委員会 1978 「空長古墳群発掘調査報告書」『広島市の文化財第13集』 広島市教育委員会
- 26 穴道年弘 1985 「結11号墳出土の蛇行鉄剣」『八雲立つ風土記の丘』No.73 鳥根県立八雲立つ風土記の丘資料館
- 27 鳥根県教育委員会 1998 「門生黒色Ⅲ遺跡の調査」『門生黒色Ⅰ遺跡・門生黒色Ⅱ遺跡・門生黒色Ⅲ遺跡―一般国道9号(安木道路)建設予定地内発掘調査報告書14』 建設省松江国道工事事務所・鳥根県教育委員会
- 28 竹並遺跡調査会 1979 「竹並遺跡」 竹並遺跡調査会
- 29 上峰村教育委員会 1983 「船石遺跡」『上峰村文化財調査報告書』 上峰村教育委員会
- 30 松尾隆作 1949 「高島古墳」『佐賀県史名勝天然紀年物調査報告』第8輯 佐賀県教育委員会
- 31 日田市教育委員会 1988 「経塚古墳及び周辺」『日田地区遺跡群発掘調査概報』Ⅲ 日田市教育委員会
- 32 島居龍蔵 1935 「上代の日向延岡」 島居人類研究所
- 33 日方正晴 1992 「茶臼原の児屋根古墳とその出土品」『西部原古墳研究所・年報』第8号 西部原古墳研究所
- 34 新富町教育委員会 1983 「龍遺跡」『龍遺跡・藤沢遺跡』新富町文化財調査報告書第2集 新富町教育委員会
- 35 宮崎県教育委員会 1974 「地下式古墳群」『大塚遺跡(1)』瀬戸ノ口地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 宮崎県教育委員会
- 36 田中茂 1972 「宮崎郡田野町灰ヶ野地下式横穴」『研究紀要』No.1 宮崎県総合博物館
- 37 宮崎県 1995 「下川東枝ノ原地下式横穴群」『宮崎県史』資料編 考古2 宮崎県
- 38 都城市教育委員会 1986 「築池地下式横穴」『菓子野地下式横穴・築池地下式横穴』都城市文化財調査報告書第4集 都城市教育委員会
- 39 宮崎県 1995 「菓子野地下式横穴群」『宮崎県史』資料編 考古2 宮崎県
- 40 宮崎県教育委員会 1973 「久見迫遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書(1)』 宮崎県教育委員会
- 41 宮崎県教育委員会 1973 「馬頭遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書(1)』 宮崎県教育委員会
- 42 宮崎県 1995 「古墳時代の遺跡解説」『宮崎県史』資料編 考古2 宮崎県
- 43 大口市教育委員会 1986 「瀬ノ上遺跡・平田遺跡」『大口市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)』 大口市教育委員会
- 44 中野和浩 1997 「島内地下式横穴群」『発掘された日本列島』新発見考古学展覧会'97 朝日新聞社
- 45 高原町教育委員会 1999 「高原町埋蔵文化財発掘調査報告書」 高原町教育委員会

- | | | | | |
|----|------------|------|--|---------------|
| 46 | 菱刈町教育委員会 | 1986 | 『前目灰原遺跡、菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)』 | 菱刈町教育委員会 |
| 47 | 鹿児島県教育委員会 | 1984 | 『外川江遺跡・横岡古墳』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(30) | 鹿児島県教育委員会 |
| 48 | 全榮栄 | 1974 | 『任實、金城里石棚墓群』『全北遺跡調査報告』第3編 | 全羅北道博物館 |
| 49 | 立神次郎 | 1992 | 『上ノ原地下式横穴』『鹿児島考古』第26号 | 鹿児島考古学会 |
| 50 | 八女市教育委員会 | 1983 | 『立山山古墳群、福岡県八女市所在立山山古墳群の発掘調査報告 八女市文化財調査報告書第10集』 | 八女市教育委員会 |
| 51 | 宮崎県教育委員会 | 1981 | 『上ノ原地下式古墳群発掘調査』『宮崎県文化財調査報告書』第23集 | 宮崎県教育委員会 |
| 52 | 弥栄久志 | 1992 | 『成川遺跡』『鹿児島考古』第26号 | 鹿児島考古学会 |
| 53 | 末永雅雄編 | 1991 | 『磨塚 鞍塚 珠金塚古墳』 | 由良大和古代文化研究協会 |
| 54 | 小山市史編さん委員会 | 1981 | 『桑57号墳』『小山市史』史料編・原始古代 | 小山市 |
| 55 | 諏訪市史編纂委員会 | 1995 | 『フネ古墳(神宮寺)―蛇行剣を配した古墳―』『諏訪市史』 | 諏訪市 |
| 56 | 橋元哲夫・朴美子編 | 1986 | 『宇陀 北原古墳』大字陀町文化財調査報告書第1集 | 大字陀町・樫原考古学研究所 |

5 静岡県内古墳出土馬具の集成

凡例 本集成は、川江秀孝氏が『静岡県史』(文献4)に集成した資料を基礎として、1992年度以降に発掘された資料および遺漏した資料を収集しまとめた。今回の集成においては、馬具が出土した奈良時代から平安時代に比定される遺跡も含めており、備考欄にその旨を記した。

また、馬具の一部と断定できない、金属製鈴、飾金具(帯金具)、鉸具のみを出土した古墳・遺跡も集成している。しかし、最近の発掘調査において袋井市・掛川市・菊川町などで年々増加し続けていることを考慮すると、遺漏している馬具が多数存在すると予想している。

集成の結果 静岡県内において、馬具が出土した遺跡は260遺跡、248古墳(横穴含む)を数える。全国で馬具の集成が完全に行われているわけではないので断言できないが、総数は長野県、福岡県に次ぐ全国第3位の出土数を誇る。

各市町村の出土数は、Tab. 13・14にまとめたとおりであり、石ノ形古墳が所在する遠江地域では127遺跡、駿河・伊豆地域では133遺跡から出土している。県全体では駿河地域の静岡市・藤枝市が29例と最多である。遠江地域では浜松市が27例と最も多い。袋井市域では大門大塚古墳、春岡2号墳をはじめとして12古墳から出土している。

種類別の出土数は表示していないものの、最も多く出土しているのは鉄製環状鏡板付轡である。石ノ形古墳から出土したf字形鏡板付轡、鉄製楕円形鏡板付轡が出土した古墳およびf字形鏡板付轡とセット関係になる剣菱形杏葉・鈴杏葉が出土した古墳を挙げると、石ノ形古墳以外では、f字形鏡板付轡は磐田市甕塚古墳、袋井市大門大塚古墳、森町崇信寺10号墳、藤枝市翁山6号墳、韭山町多田大塚C4号墳の計5基から出土している。

鉄製楕円形鏡板付轡は磐田市甕塚古墳、袋井市愛野向山B12号墳・井守塚5号墳(地蔵ヶ谷1号墳)・雲座D1号墳・上石野3号墳・高尾向山3号墳、静岡市上ノ山遺跡の計7遺跡から出土している。この鉄製楕円形鏡板付轡は、遠江地域では中遠地域しか出土しておらず、中遠でも袋井市域、特に原野谷川中流域に多く、石ノ形古墳を含め6基から出土している。袋井市域外では磐田市甕塚古墳でのみ出土しており、磐田原台地東縁から袋井市域の原野谷川流域に集中的に分布する傾向を窺うことができる(第Ⅷ章考察・白澤論文参照)。

つづいて、石ノ形古墳からは出土していないがf字形鏡板付轡、楕円形鏡板付轡と組合わされる可能性が高い馬具について出土した古墳は、金銅張剣菱形杏葉は、磐田市甕塚古墳・二子山古墳、袋井市大門大塚古墳、藤枝市翁山6号墳・八幡2号墳、静岡市中吉田某墳、沼津市荒久城山古墳から出土している。

鈴杏葉は、磐田市甕塚古墳・二子塚古墳、森町崇信寺10号・陸美(逆井)京塚古墳、静岡市大谷某墳から出土している。

鉄製剣菱形杏葉は、袋井市愛野向山B12号墳・金山4号墳から出土している。

石ノ形古墳から出土したf字形鏡板付轡(以下、前者)、鉄製楕円形鏡板付轡(以下、後者)が出土

した古墳の規模・副葬品等を比較しておく。両馬具がともに出土している中遠をみると、前者を副葬する古墳が後者を所有するなど副葬品に関して質・量ともに非常に豊富であり、中遠地域の盟主墳と考えられている。一方、後者を有するのみの古墳は、墳形等から群集墳中の首長墓と考えられているものの、前者と比較すると副葬品も鉄刀や鉄鏃が副葬されても少なく、貧弱であることは否めない。墳丘規模を比較すると、前者を副葬した古墳が25.0m、後者が14.9mを測り(平均値)、規模も前者を副葬する古墳の方が約10m大型である。したがって、墳丘規模・副葬品の格差に階層性が表徴されていると仮定するならば、前者の方が優位にあったと想定できる。

Tab. 13 遠江地域市町村別馬具出土遺跡数

	前方 後円	方	円	横穴	古墳 (不明)	その他	合計
引佐郡江町			1				1
浜北市	1		1		2		4
浜松市	3		18		1	5	27
磐田市	2		8		1		11
磐田郡豊田町			1				1
磐田郡豊岡村			6				6
天竜市			1				1
袋井市	1		10	1			12
掛川市			4	12			16
周智郡森町			7	1	1		9
小笠郡菊川町				20			20
小笠郡大東町				2			2
小笠郡浜岡町				1			1
榛原郡榛原町			4	2			6
榛原郡相良町			2	1			3
島田市(大井川以西)			6			1	7
遠江地域	7	0	69	40	5	6	127

Tab. 14 駿河・伊豆地域市町村別馬具出土遺跡数

	前方 後円	方	円	横穴	古墳 (不明)	その他	合計
島田市(大井川以東)			3			1	4
駿枝市			26		2	1	29
志太郡岡部町			2				2
焼津市					1		1
静岡市	1	4	13	4	4	3	29
清水市			4		1		5
庵原郡由比町			2				2
庵原郡富士川町		4	1				5
富士市			17				17
富士宮市			2				2
駿東郡長泉町			6			1	7
沼津市			15		1		16
三島市			1	1			2
田方郡菰山町			4				4
田方郡浜南町				4	1		5
田方郡伊豆長岡町			1				1
田方郡戸田村			1				1
伊東市			1				1
駿河・伊豆地域	1	8	99	9	10	6	133

Tab. 15 靜岡県内馬具出土地集成表

遺跡(古蹟)名	所在地	横形	規模(m)	主体部	馬具	副葬品(出土遺物)	山上馬具	備考	文献
赤砂古墳	相沢町下駄窪	円		横穴式石室	馬具	馬具	既知無付録		
伊勢遺跡	浜松市東伊場	集積		横穴式石室 (片棚型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具		歴史時代	90
宇都宮人4号墳	浜松市有玉町	円	17.0	横穴式石室 (片棚型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			91
姫子前古墳	浜松市豊町	円	23.6	横穴式石室 (片棚型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 5 6
瓦原西3号墳	浜松市有玉町	横穴 横穴	28.1	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 7
瓦原西C6号墳	浜松市有玉町	円	9.5	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 91
瓦原西C25号墳	浜松市有玉町	円	7.5	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 91
蛸塚1号墳	浜松市蛸塚4丁目	円	13.0	横穴式石室 (無袖型)?	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			8
地蔵堂人62号墳	浜松市有玉町字 地蔵堂	円	11.5	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			9
地蔵堂北12号墳	浜松市有玉町字 地蔵堂	円	11.3	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			9
下地遺跡	浜松市	柱居		竪穴住居	馬具・土器	馬具・土器		歴史時代	79
城内(浜松城内)	浜松市元城町	不明			馬具	馬具		歴史時代	
城山遺跡	浜松市若林町	管堀			馬具	馬具		歴史時代	90
神降寺1号墳 (千人平古墳)	浜松市有玉町	円	13.0	横穴式石室 (片棚型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			10 96
千人平古墳	浜松市有玉町	円?		横穴式石室	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			11
根本山11-2号墳	浜松市	古墳		横穴式石室	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			12
半田B5号墳	浜松市半田町	円	10.0	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 13
半田田C19号墳	浜松市半田町	円	12.6	横穴式石室	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 14
岩田田C24号墳	浜松市半田町	円	12.7	横穴式石室 (無袖型)	玉璽(灰玉、武藏)(動力部、杖痕4+)・馬具・生産用具(刀刀)・木製部(笠・短櫛・池釣・土師器(環・雫))	木製鞍部・木製鞍部・金網部馬具・馬具2・鞍具			2 14

遺跡(古蹟)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土品	備考	文献
半田山C25号墳	浜松市半田町	円	9.1	横穴式石室	玉類(磨瑠璃玉2・水晶切子玉2・ガラス小玉3)・武器(銅劍・鉄刀・鉄鏝2)・馬具・牛車用具(刀子)	兵庫頭		2 14
半田山C30号墳	浜松市半田町	円	16.8	横穴式石室 (四隅型)	玉類20点(玉・水晶(磨瑠璃)3十・銅劍金具4・鉄刀(金具2)・馬具・武器類(鉄刀・鉄鏝・石付物)・土師器(甗))	金剛院住持・金・金・金剛院住持・新金2		2 15
半田山C38号墳	浜松市半田町	円	13.0	横穴式石室	[主]鉄器(馬具)	塚村義隆(傳)・辻金・三津・新金		2 16
半田山C39号墳	浜松市半田町	円	18.2	横穴式石室	玉類・武器(鉄刀・鉄鏝)・馬具・生産用具(刀子)	金剛院住持・新金2		2 16
半田山D10号墳	浜松市半田町	円	8.1	横穴式石室	玉類(玉管玉3・水晶切子玉4・磨瑠璃玉・ガラス小玉5・ガラス小玉1)・武器(鉄刀)・生産用具(刀子)・(銅劍)馬具・牛車用具(鉄鏝)・須磨器(坏身5・円盤4・短剣用2・笠・笠・提籠)	新	2 14	
半田山D23号墳	浜松市半田町	前方 後円	29.0	横穴式石室 (四隅型)?	[前部]馬具・須磨器(鉄2・蓋・泡坏・笠・笠・提籠)・馬具・須磨器(坏身・坏蓋・用・用・用)・[その他]すり鉢	新金	2 14	
三方原古墳群 三ツ原新井1号 (三ツ原古墳群)	浜松市	不明	45.0	木造?	馬具・[第1木炭層]武器(鉄刀2)・[第2木炭層]武器(鉄刀2・鉄鏝)・馬具・[第3木炭層]なし	新金		2 11
古影D3号墳	浜松市都田町古影	円	18.0	横穴式石室 (四隅型)	鉄器(馬具)・玉類・武器(鉄刀8・鉄鏝)・馬具・須磨器・土師器・その他(鉄釘)	塚村義隆(傳)・新金		1 2
鈴島の古墳	浜北市鈴島	古墳		(不明)	馬具	新・新		
磨山古墳	浜北市鈴島	古墳		(不明)	馬具	塚村義隆(傳)・兵庫頭		1 2
磨山古墳	浜北市宮口	前方 後円	35.0	横穴式石室 (四隅型)	武器(鉄鏝)・馬具・須磨器	金剛院住持		
権現平山5号墳	浜北市内野	円		(不明)	馬具(玉類)・武器(鉄刀・鉄鏝)・馬具・生産用具(刀子)・須磨器	塚村義隆		
寺山の古墳	天竜郡輪明	円?		横穴式石室	武器(鉄刀・鉄鏝)・馬具・石製須磨器	新・新		
石仏の古墳	津和野市津和野町	円		横穴式石室	鉄器(金具2・鉄鏝4)・玉類(磨瑠璃玉3・ガラス小玉6・ガラス小玉3)・武器(鉄刀4・銅・銅・石製須磨器)・須磨器(坏身・坏蓋・短剣用・鉄刀・鉄鏝)・牛車・泡坏・笠・笠・提籠	馬助2・金剛院住持(新金(内明))		19
院内3号墳 (院内古墳)	津和野市津和野町	円	11.5	横穴式石室 (四隅型)	新金(金具2・金具3)・玉類(ガラス玉5)・鉄器(鉄刀2)・須磨器(坏身2・泡坏2)・馬具・生産用具(金剛院鉄刀刀子)・須磨器(坏蓋2・坏身4・外・高杯・台付鉄鏝)・短剣・平版・提2	塚村義隆(傳)・馬助		2 19
院内4号墳 (院内古墳)	津和野市津和野町	円?		横穴式石室 (四隅型)	鉄器(鉄刀4)・須磨器(鉄刀大)・馬具・須磨器(提・坏蓋・フラスコ型)	塚村義隆(傳)・新金		2 19
磨山古墳群 磨山古墳	津和野市津和野町	横穴		横穴	新金(金具2)・玉類(磨瑠璃玉5・新玉・ガラス小玉3)・鉄器(鉄刀大)・須磨器(鉄刀大)・武器(金剛院鉄刀刀子)・馬具・須磨器(鉄刀3・坏身2・提2)・台付鉄鏝(提)・土師器(2)	新・新・心算計古墳		1 19

[illegible]

[illegible]

通称(古郡)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土品	備考	文様
香岡2号墳	袋井市南園	円	17.0	横穴式石室 (横穴形木棺)	短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		36
香岡1号墳	掛川市家代字余洞	円	11.0	木製横穴 (横穴形木棺)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		37
宇都ヶ谷科横穴	掛川市下保字宇都 ヶ谷	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		2
同津B6号横穴	掛川市大字同津	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		2
山麓山南穴	掛川市下保	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		2
茶原社A5号横穴	掛川市谷1丁目	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		39
茶原社B1号横穴	掛川市谷1丁目	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		39
長福寺境内1号墳	掛川市本郷	円		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		
原7号横穴	掛川市上郷	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		
堀ノ内13号墳	掛川市下保～長谷	円 (横穴)	25.0	横穴式木室 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		註1
堀ノ内13号墳	掛川市下保～長谷	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		40
堀ノ内E1号横穴	掛川市下保～長谷	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		41
木村A4号横穴	掛川市新宮字原 郷855-1・2	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		註1
木村E3号横穴	掛川市新宮所	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		2
山坪14-B号横穴	掛川市新宮所	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		38
六ノ科3号墳	掛川市秋葉路	円	15.0	本埋直葬	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		註1
大谷横穴群	掛川市	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		註1
岩清水・谷3号墳	大東町	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		42
岩清水・谷3号墳	大東町	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		註2
玉体1号横穴	大東町中芳	横穴		横穴 (横穴型)	玉環(ガラス小玉4)、馬具・生産用具(鉄斧) [箱内] 鉄・金具(金環)、玉環(銀製玉4、ガラス丸玉4)、鍔鍔 3、短柄付大刀(横穴式石室)、武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具・生産用具 (刀・鋸・須臾器)	金銅張板付骨・土金具 2・金具、金環、金珠、金環、金環		43

遺跡(古跡)名	所在地	地形	規模(m)	主体部	初期発見(出土遺物)	出土品	備考	文献
手堀 A 1 号横穴	菊川町東横地	横穴		横穴 (両袖型)	玉鍔(須玉管玉 6)・武鍔(鉄刀 6)・鉄鍔 13・同鍔金具 1・馬具・生皮用具(刀子)・須臾器(杯身 11・杯身 11・壺蓋・高杯 2・短柄附・通・平角 3・広口型壺蓋 2・型)・土師器(杯身 3・高杯 6)	棒(竹刀)・兵隊刀 2・飾金具・銀具 2		44
大瀬ヶ谷 OB 1 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (狭長両袖型)	武鍔(鉄刀 4)・鉄鍔 6)・馬具・須臾器(杯身 4・杯身 4・提燈・光輝性・型)・土師器(壺)	漆状鍔底付物		2
大瀬ヶ谷 OB-6 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	鍔身具(耳鍔 6)・玉鍔・武鍔(鉄刀 2・鉄鍔 11・同鍔金具 1)・馬具・生皮用具(刀子 3)	鍔底付物・漆状鍔底付物		2 45
大瀬ヶ谷 OC-5 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (狭長両袖型)	武鍔(鉄刀 1 + ・鉄鍔)・馬具・その他(鉄鍔)	漆状鍔底付物		2 45
大瀬ヶ谷 OC-13 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	鍔身具(耳鍔 2)・玉鍔・武鍔(鉄刀 4 11・鉄鍔 2)・馬具・生皮用具(刀子 2)・須臾器(杯身 12・杯身 9・高杯 4・短柄附・袋 2・広口壺・兵隊刀・平角)・土師器(短柄付壺 4)	漆状鍔底付物		2 45
大瀬ヶ谷 OC-16 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	鍔身具(耳鍔)・鉄鍔付大刀(前型式直頭大刀)・武鍔(鉄鍔 5 +)・馬具・須臾器(台付兵隊刀・杯身)	棒(漆状鍔底付物?)・鍔金具 2・銀具		2 45
瀬ヶ谷 SA-3 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	鍔身具(耳鍔)・耳鍔 3)・玉鍔・武鍔(鉄刀 2・同鍔金具 1)・馬具・生皮用具(刀子)・須臾器(袋口壺)	棒・吊金具		45
瀬ヶ谷 SA-6 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型?)	鍔身具(耳鍔 3)・玉鍔・武鍔(鉄刀 2 1 部直頭鍔・鉄鍔)・馬具 7・須臾器(杯身 壺蓋)・その他(鐵 3 +)	漆状鍔底付物?		45
瀬ヶ谷 SA 8 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (片袖型)	鍔身具(耳鍔 3)・玉鍔・鉄鍔付大刀(直頭大刀)・武鍔(鉄鍔 4 +)・馬具・生皮用具(刀子)・須臾器(杯身 13・杯身 14・壺蓋・高杯・平角・直口壺・広口壺・型)	漆状鍔底付物 2 +		45
瀬ヶ谷 SA 9 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	鍔身具(耳鍔 4)・玉鍔・武鍔(鉄鍔 10 +)・馬具・生皮用具(刀子)・須臾器(杯身・杯蓋)・その他(鉄鍔)	棒・鍔金具ほか		45
瀬ヶ谷 SB-5 号横穴	菊川町西方・大瀬ヶ谷	横穴		横穴 (両袖型)	武鍔(鉄刀 2・鉄鍔)・馬具 7・須臾器(杯身 4)	漆状鍔底付物?		45
下所 1 号横穴	菊川町下所	横穴		横穴 (両袖型)	鍔身具(耳鍔 4)・玉鍔・武鍔(鉄刀)・馬具・生皮用具(刀子)・その他(須臾器)	漆状鍔底付物		2・46
下所 5 号横穴	菊川町下所	横穴		横穴 (両袖型)	[1号横穴] 鍔身具(耳鍔)・玉鍔・須臾器; [2号横穴] 玉鍔・武鍔(鉄鍔); [3号横穴] 鍔身具(耳鍔)・玉鍔・武鍔(鉄鍔 10 +)・馬具	引手(漆状鍔底付物?)・十字形止金具・鍔金具		2 46
下所 10 号横穴	菊川町下所	横穴		横穴 (両袖型)	玉鍔・武鍔(鉄刀 3・鉄鍔 11)・馬具・須臾器(杯身 15・杯身 11・壺蓋・壺・壺・用 3・壺 2・高杯・提燈)・土師器(広口壺・壺)	漆状鍔付物・漆状鍔底付物・鍔金具・銀具		2 46
杉瀬 10 号横穴	菊川町中野田杉瀬	横穴		横穴	武鍔(鉄刀 2)・鍔金具・同鍔金具 3)・馬具・生皮用具(刀子)	鍔金具・鞍 2		47
杉瀬 11 号横穴	菊川町中野田杉瀬	横穴		横穴	鍔身具(耳鍔 2)・馬具	棒(引手)・鍔金具		47
杉瀬横穴群	菊川町中野田杉瀬	横穴		横穴	鍔身具(耳鍔 2)・馬具・その他(須臾器)	棒 2 ほか		47
西宮浦 1 号横穴	菊川町西宮浦	横穴		横穴 (両袖型)	武鍔(鉄刀・鉄鍔 8 +)・馬具・須臾器(杯身 6・杯身 6・高杯・提燈 2)	鍔金具付物・漆状鍔底付物・棒・鍔金具		45
藤ヶ谷横穴群	菊川町東横地	横穴		横穴	鍔身具(耳鍔 4)・玉鍔・武鍔(鉄刀・鉄鍔)・馬具・生皮用具(刀子 9)・須臾器(杯身・杯蓋・高杯)	漆状鍔底付物		註 3
平瀬横穴群	菊川町	横穴		横穴	馬具			47

[illegible]

[illegible]

遺跡(古墳)名	所在地	形状	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土品類	備考	文献
藤枝市原白砂ヶ谷C 2号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	13.0	横穴式石室 (前埴型)	武器(鉄刀・短刀・鉄鏃)、腰剣付大刀(万部大刀)、馬具、須恵器(坪平・坏瓦・甕・灰土、フラスコ形蓋・平盤・長板蓋・蓋付長板蓋) 金銅製方形銀板付簪	環状鍍金付帯・鉄製輪蓋・鉄具(鍔用)		57
藤枝市原白砂ヶ谷D 2号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	12.0	横穴式石室 (前埴型)	金銅製玉冠飾、玉佩、忍速刀(鉄刀)、馬具、生糸山貝(刀子)、須恵器(坏平・坏蓋・甕・灰土、長板蓋・上層蓋(坪))、その他(釘) 平盤・馬具、武蔵(鉄刀・鉄鏃)5・須恵器(坪平・坏蓋10・高杯2・玉冠2・壺3・長頸瓶11・甕8・厨付罐2)	金銅製方形銀板付簪		57
藤枝市原白砂ヶ谷D 10号墳	藤枝市原白砂ヶ谷	円	5.5	横穴式石室 (前埴型)	武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具、須恵器(坪平・坏蓋8・フラスコ形蓋・平盤・土層蓋(坪)) 馬具	環状鍍金付帯・鉄製輪蓋・鉄具(鍔用)		57
藤枝市原白砂ヶ谷D 5号墳	藤枝市	円	10.8	横穴式石室 (前埴型)	武器(鉄刀・鉄鏃)、馬具、須恵器(坪平・坏蓋9・平盤8・フラスコ形蓋・平盤・土層蓋(坪)) 馬具	環状鍍金付帯・鉄製輪蓋・鉄具(鍔用)		2 58
西宮1号墳	藤枝市志太	円		木棺埋葬	交剣付大刀(環刺人刀拵)、馬具	環状鍍金付帯		
出雲田辺古墳群新築 日3号墳	藤枝市南新築	円		横穴式石室	交剣付大刀(環刺人刀拵)、馬具	環状鍍金付帯・鉄製輪蓋		59
南新築古墳群祇々谷 A.3号墳	藤枝市新築	円	11.5	横穴式石室 (前埴型)	鉄身具(刀頭6)・玉佩、馬具、生産用具(鑊・刀子2)・須恵器(坪平・坏身3・段坏・皿・蓋付短頸瓶・短頸瓶・壺2) 五蓋(石・土・甕・乳瓦)、腰剣付刀(鐵刺出刃入刀)、金銅製(鍔)馬具、須恵器(坪平・坏身8・赤土長頸瓶6・短頸瓶6・壺4・甕6)	環状鍍金付帯		60
女池ヶ谷2号墳	藤枝市下飯田字女池ヶ谷	円		横穴式石室	馬具、生産用具(刀子)・須恵器(坪平・坏身4・短頸瓶蓋20・短頸瓶9・台付短頸瓶・平風8・厨付籠)・その他(鉄釘)	環状鍍金付帯		60
女池ヶ谷9号墳	藤枝市下飯田字女池ヶ谷	古墳		横穴式石室 (前埴型)	玉佩、武器(鉄刀・馬具、生産用具(刀子)・須恵器・土層蓋	環状鍍金付帯		
八幡3号墳	藤枝市八幡	古墳		横穴式石室 (前埴型)	馬具ほか	環状鍍金付帯		90
御子ヶ谷遺跡	藤枝市南新築	管筒		横穴式石室 (無埴型)	武器(鐵鏃)、馬具、須恵器・土層蓋・その他(鐵釘)	環状鍍金付帯(ハート形蓋)		
向坂1号墳	岡部町桂野字向坂	円		横穴式石室 (無埴型)	鉄身具(刀頭2)・玉佩、武器(鐵鏃11)・馬具、生産用具(刀子)・須恵器(坪平・坏身・壺)・土層蓋(坪4)	環状鍍金付帯・鉄具		2 61
岡部町橋渡	岡部町橋渡	円	12.1	横穴式石室 (前埴型)	鉄身具(金鐲)・玉佩(勾玉3・甕玉6・小玉・白玉)・腰剣付大刀(環刺人刀拵)・馬具、土層蓋(坪)・その他(金具)	環状鍍金付帯・鉄具		1
坂本の古墳	津浦市内坂本	古墳		不明	武器具(刀頭2)・玉佩、武器(鉄刀・馬具、生産用具(刀子)・須恵器(坪2・坏身・鐵釘)	三葉鍍金・彩色彫刻付簪・社会員 8・瓢盆(有)2・香珠・三葉鍍金・紫彩分装2・額命具6		2 62 63
池田山2号墳	静岡市	円		横穴式石室	馬具ほか	環状鍍金付帯の断片?		64
伊任谷北谷A.2号墳	静岡市伊豆谷	横穴		横穴				

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土道具	備考	文献
伊佐谷南台6号横穴	静岡県伊佐谷	横穴		横穴 (円筒型)	[A:木棺内] 鉄身具(刀鍔2)・玉環・武器(倭刀1)・腰具:[B:木棺外] 鉄身具(刀鍔2)・玉環・武器(倭刀2); [C:穴内] 金銅製(倭刀2・長剣鍔2・短弓・高杯4・蓋付保体1・環蓋3・环身3)・土器(高杯3・環3・环4・壺)	現状観察待機・跡形毀壊・鉄金具		2 65
伊佐谷南台8号横穴	静岡県伊佐谷	横穴		横穴 (円筒型)	鉄身具(C:環4)・玉環・武器(倭刀)・馬具・生産用具(刀子)・その他(不明鉄器3)	鐙(引手)		66
伊佐谷南台23号横穴	静岡県伊佐谷	横穴		横穴	馬具ほか	現状観察待機		66
上ノ山遺跡3号土溝	静岡県大井	石溝		水堀遺跡?	馬具	痕跡箇所内形骸復元待機・土器具・鉄具		67
大谷梨園	静岡県大谷	古墳		(不明)	馬具	鐙		1
金山1号塚(古州1号交差点川合地区)	静岡県吉田	円		横穴式石室	馬具	鐙(引手)	縄文時代?	62
川合遺跡11号塚	静岡県川合	円		横穴式石室	長身具(刀鍔)・玉環・武器(環蓋10・环身10・高杯4・台付鉄身具7・蓋付短剣鍔3・平皿2・環3・壺・増・鑊4)・土師器(埴)	金銅製鉄金具		68
上中林遺蹟	静岡県谷田	円		横穴式石室	鉄身具(口蓋)・武器(倭刀・鉄劍)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(小成焼酎付子持器台・坏身・高杯・盃・壺) 土師器	鐙(引手)・銀金具・鉄金具		69
緒々沢3号墳	静岡県	方	17.0	横穴式石室 (梯形状)	鉄身具(刀鍔)・馬具・武器(大刀・鉄劍)・生産用具(刀子)・須恵器(小成焼酎付子持器台・坏身・高杯・盃・壺) 土師器	馬具(詳細不明)		62
佐渡山2号墳	静岡県	方	28.0	横穴式石室	[美奈石室内] 鉄身具(金銅製短剣・歩留付鎖金具)・玉環(金銅製型玉1・鞍掛付大方玉5)・武器(短弓)・環蓋(倭刀・鉄劍・鉄劍)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器(坏身・高杯・盃・壺)・土師器(土作器用坏・甕); [駿河町] 鉄身具(金銅)・玉環(ガラス玉)・武器(倭刀)・鉄劍(鐵)・馬具・生産用具(箸・鑊)・須恵器(坏身・高杯・盃・壺・埴)	鐙	2 70 71 72	
静岡大学境内3号墳	静岡市大谷片山	古墳		横穴式石室	鉄身具(金銅)・玉環・武器(使部・鉄劍)・馬具	馬具		62
下中谷古墳	静岡県谷田	円	10.0	横穴式石室	鉄身具(金銅)・玉環・武器(使部・鉄劍)・馬具	馬具		62
高松梨園	静岡県高松	古墳		(不明)	馬具	鐙		1
田ヶ谷古墳 (ツガヤ古墳)	静岡市慈恩院田ヶ谷	円		横穴式石室	鉄身具(刀鍔)・武器(使部)・馬具・土師器	現状観察待機・瓦葺鎮		
桃渚寺山古墳	静岡市	円?		(不明)	武器(甲冑)・武器(倭刀)・馬具?	馬鈴?		
徳源寺山1号墳	静岡市向敷歌	前方後円	30.0	雄略館	鉄身具(刀鍔)・馬具・須恵器	馬具?(詳細不明)		48
中吉田古墳	静岡市中吉田	円		横穴式石室	馬具	剣鍔形古銭		
米兵衛古墳	静岡市幸徳町丑半兵衛	古墳		横穴式石室	記帳付大刀(方面大刀)・武器(鉄劍)・馬具・生産用具(刀子)・須恵器	[?字形赤鉄板] 倭刀鍔・金銅製刀子形遺物・鉄金具12・鉄具		

遺跡(古墳)名	所在地	形状	規模(m)	主体部	副葬品(出土物)	出土品類	備考	文献
静岡市小栗原ノ内山 4号墳	静岡市小栗原ノ内山	円	12.0	横式石室 (内装)	鉄身具(口輪1)・玉璽・武璽(鉄鍬4)・馬具・須置型(小型短剣2・平鏡・長柄鉾・盾)	略2		75 76
瀬ノ内山 6号墳(小山) 鹿山(神奈川)	静岡市小栗原ノ内山	円		横式石室 (組合式形彩色石棺5)	玉璽・武璽(鉄刀・馬具・生産用具(刀子)・須置器 [1号鏡] 鉄身具(耳環2)・武璽(鉄鍬)・生産用具(刀子2)・須置型(銅・土製型(特))・陶器 馬具・須置器(盾・手鏡2); [2号鏡] 鉄身具(口輪2)・金環(鉄刀・鉄鍬)・生産用具(刀子)・[附外] 武璽(鉄刀); [3号鏡]; [附外] 裝飾付大刀(金網紋鉄刀); [2-3間] 須置器	飾・琥珀指輪数個・金彫形若麗 鉄金具・鉄金具・鈎止		2 62 73
牧ヶ谷 2号墳	静岡市牧ヶ谷	円		横式石室 (無地型)				2 74
牧ヶ谷 雲来塚	静岡市牧ヶ谷	円		横式石室	馬具	飾		
京川 1号墳 (駿河丸山古墳)	静岡市大宮京川	方	18.0	横式石室 (内装)	[組合式形彩色石室内] 鉄身具(口輪5)・玉璽・生産用具(刀子)・須置器(耳環3・手鏡)・その他(未): [装彩石室内] 赤銅制具(刀子2); [石室内] 鉄身具(耳環)・玉璽・武璽(鉄刀4・鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子2)・須置器(耳環・手鏡・高坪・鎧・櫛・平鏡・腰佩)	粧・埋金具 2 62		
宮川 7号墳 (アヲカウチ古墳)	静岡市宮川	方		横式石室	武璽(鉄刀・鉄身具・鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子)・須置器	飾金具	2	
神明町元宮川遺跡 南照上 3号墳	静岡市大付ほか 静岡市川合台	円	16.0	木棺直葬	馬具ほか	水取半面鏡 三層鈴 2 100	歴史時代	90
神明(山) 4号墳	清水市袖師	円		横式石室 (内装)	武璽(甲冑?)・武璽(鉄刀1・総行脚・鉄鍬2+)・馬具・裝飾具(口輪9)・玉璽(四玉・ガラス切玉・ガラス特殊玉・ガラス小玉)・馬具(金具片1枚)・生産付大刀(双刃鎌状短刀・圭頭大刀・方盾・鉄刀)・武璽(鉄刀5・鉄鍬20+)・馬具・須置型(鉄鍬3・鞍轡3・盾3)	御付手)・金網形彩色辻金具・鞍金(靱)・多節線形彩色張紙・鐵金具・人形皮締	2	
東郷古墳	清水市草津	円		横式石室	鍬・鉄身具(耳環3)・玉璽・武璽(甲冑)・武璽(鉄刀・鉄刀)・馬具・裝飾具(鉄杯・提籃・籠・篋)	飾・辻金具		
殿沢古墳	清水市	円		横式石室	鉄身具(耳環)・玉璽・武璽(甲冑)・武璽(鉄刀・鉄鍬・鉄鍬)・馬具・裝飾具(耳環)	馬具(詳細不明)		
中山 1号墳	清水市鶴ヶ谷神山	円		横式石室	鉄身具(鉄鍬)・玉璽(腰玉・水晶小玉・磨瑠璃切子玉6・磨瑠初子玉・水晶切子玉5・ガラス管玉・磨瑠瑠玉・ガラス小玉3)・裝飾付大刀(水取大刀)・馬具・須置器・須置型(金杯・手鏡2・塚蓋)	馬具(頸椎?) 1		
東久佐陣跡 3号墳	清水市切	古墳		横式石室 (内装型)	磨瑠璃(銅鍮)・耳環4)・玉璽・磨瑠初子玉(須置器鉄鍬付大刀3)・武璽(鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子12)・須置器(手鏡2・手巻・高坪・高坪・高坪・平鏡・笠・笠)	腰袈裟付替・鍬金具(髹漆2)・香 鍬金具・鍬金具 9 2 75		
窪ヶ谷 1号墳 (本光寺古墳)	由比町由比・窪ヶ谷	円		横式石室	鍬身具(鉄鍬2)・耳環5)・玉璽(切子玉3・管玉・磨瑠玉・ガラス小玉3)・ガラス小玉1)・裝飾付大刀(神奈川産磨瑠璃大刀)・磨瑠初子玉・鍬金具(靱)・同種磨瑠璃・馬具・生産用具(刀子)	十字絞透通形磨瑠璃付替・辻金具・鍬金具(靱)・点綴箱・紫雲・鍬金具・鍬 2 76		
窪ヶ谷 3号墳	由比町由比・窪ヶ谷	円	16.0	横式石室 (壁面彩色)	鍬身具(鉄鍬4)・玉璽(切子玉・磨瑠玉・管玉・丸玉)・裝飾付大刀(圭頭大刀)・武璽(鉄鍬)・金網紋花影形内函金具)・馬具・生産用具(刀子)・圭頭(鉄刀)	磨瑠璃板付替・金網形・靱		2 76

遺跡(古墳名)	所在地	形状	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土品目	備考	文献
室野坂A 1-1号墳	富士川町	方?		横式石室 (無地型)	馬具?・須恵器	鐙(引手)?		77
室野坂A 3-1号墳	富士川町	方?		横式石室 (無地型)	武器(鐵刀・劍金具・鉄鏃)・馬具?	鐙(引手)?		77
室野坂B 3-1号墳	富士川町	方?		横式石室 (無地型)	馬具?	鐙(引手)?		77
室野坂B 4号墳	富士川町	方		横式石室 (無地型)	武器(倭刀・黄金具・鉄鏃)・馬具・生産用具(子玉)・須恵器	鐙(引手)?		77
谷津原7号墳	富士川町岩間・水島	円		横式石室	込身具(耳環)・玉類(ガラス小玉、ガラス小玉、武甕槌(石珠・鉄珠))・馬具?	鞍		101
一色D31号墳	富士市今泉東田ヶ原255-666番地	円		横式石室	込身具(耳環)・玉類・武器(倭刀・鐙・騎鎧・鉄鏃)・馬具・生産用具(刀片)・須恵器(埴・長瀬産・橘産・平塚・湯)	鐙・鞍具		78
龍崎・水窪・門内E5号墳(旧下流古墳群)	富士市龍崎・水窪	円	15.0	横式石室 (無地型)	馬具	鐙		78
神ノ黒石古墳	富士市比奈	円		横式石室	馬具	鐙		78
須賀(神倉)J30号墳(神倉古墳古墳群)	富士市中里中里(嶺び)	円		横式石室	成身具(金釧・銀釧)・玉類(白玉・碧玉・切子玉・小玉・琥珀玉)・武器(中国製・武甕槌・金銅短剣)・馬具・須恵器(高杯・通・鹿肌)・(佐)馬具・須恵器(袴)	辻金具・鍔銚・古鏃		78
布法A 1号墳(伊勢塚古墳群)	富士市佐治村3109-1番地	円	54.0	(未調査)	武器(鐵刀)・馬具?・須恵器(埴)	金銅短剣收付箱		78
布法A 3号墳(久保林系古墳群)	富士市佐治中村3132	円		横式石室	武器(倭刀)・馬具・須恵器(埴)	金銅短剣收付箱		78
常土市中西三枚瀨堂墓(中山先陣系古墳群)	富士市中西三枚瀨堂墓751-4番地	円		横式石室?	(佐)武器(倭刀)・馬具・須恵器(長瀬産)・埴・橘産・鹿間・など	馬具(詳細不明)		78
常土市中西大塚堂墓(アガリツ古墳群)	富士市中西大塚堂墓7162	円		横式石室?	(佐)武器・武器(倭刀3丁)・馬具・須恵器(埴・湯)	鐙・鞍具		78
中里K36号墳(中里入久家古墳群)	富士市中西字久入保1658-1	円	12.0	横式石室 (無地型)	成身具(耳環6)・玉類(切子玉・玉玉19・小玉2)・騎鎧(竹木刀(方面大刀)・装束刀(鉄具9・鉄鏃44)・馬具・須恵器(平塚・湯・鹿間)・土師陶(赤)	鐙状鐵板收付箱・笠蓋2丁・鉄具2		2 78
中里K38号墳	富士市中西大字大塚堂墓1190番地	円		横式石室	成身具(耳環)・成身具(倭刀2丁・刀使具・鉄鏃6片)・馬具・生産用具(刀片2丁)・須恵器(鹿間)	鐙狀鐵板收付箱・辻金具・新金具・鞍具		78
中里K39号墳	富士市中西大字大塚堂墓1190番地	円		横式石室	成身具(耳環4)・玉玉(切子玉4・小玉14・小玉4)・武器(鐵刀6・刀使具6・長瀬産2)・馬具・生産用具(刀片3丁)・須恵器(平塚4・埴4・赤坂・長瀬2)・土師陶(赤4・赤2)	鐙狀鐵板收付箱・靱口・鎌金具		78
中里G40号墳	富士市佐治寺原	円	11.0	横式石室 (無地型)	玉類・裝飾物(大刀(銀漆塗・銀象嵌・大刀)・武器(鉄鏃)・鹿肌・生皮)・成身具(袖・袈裟・刀子・簪・鉄鉤)・須恵器(坏身・平塚・橘・佐治・湯・知多産・若手付焼)・十手磨(赤身)	鐙狀鐵板收付箱・后藤付青銅板收付箱・靱口・全銅鍍方形付箱・靱(兵衛産)・鞍具		79
東平1号墳	富士市仏法寺・東平	円	12.0	横式石室 (有地型)	裝飾物(大刀(甲冑大刀)・銀漆塗物)・武器(倭刀2丁・丁字形利器・鉄鏃多数)・馬具	全銅鍍板鐵板付飾・本金鍍板二枚・鍔・全銅鍍板・全銅鍍板2・櫛造具・土師陶		2 4 10
比奈G40号墳(かぶや姫古墳群)	富士山北麓比奈地区	円	15.0	横式石室 (無地型)	玉類・武器(鉄鏃20)・成身具(生皮用(刀片5・防刺服)・須恵器(坏多数)・土師陶	鐙狀鐵板收付箱・本金鍍板四枚		2 10

通称(古墳)名	所在地	形状	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土品	備考	文献
船津162号墳	富士市船津善山沢 東661	円		横穴式石室 (無軸部)	鉄身具(耳環2)、玉環(碧玉、管玉2、ガラス丸玉2)、武鍬(鉄刀・ 鉄鍬)、馬具、生産用具(刀子)	環状鍬板付骨・辻金具3・鉄金具 7・鉄具		78 80
船津1129号墳 (上の段古墳)	富士市船津上ノ段 650ほか	円		横穴式石室	武器(金銅短剣2付骨)・裝飾大刀(銅鍬大刀)・馬具	武器		78
横谷古墳	富士市丸瀬	円	16.0	横穴式石室 (無軸部)	【発掘時】 武鍬(鉄鍬)、馬具、須磨器(産体・磨・掘削)；[2次発掘] 武鍬(鉄刀・鉄鍬)、須磨器(産体・磨・掘削)	環状鍬板付骨・磨珠(金銅花形磨 珠2)・金銅磨珠5		2 78
神祖3号墳	富士市市小泉	円		横穴式石室	馬具	馬具(附櫛不明)		
別所1号墳	富士市市安原山字 別所	円		横穴式石室	玉環・裝飾付大刀(銅鍬大刀)・武鍬(鉄刀3・鉄鍬)・馬具	三葉紋産心磨片鍬板付骨・辻金 具・磨珠4・三葉紋産心磨片磨 珠3・花形磨珠2・磨金具		2
荒久遠山古墳	沼津市石川	円		(不明)	馬具			
石川119号墳	沼津市石川	円		横穴式石室	馬具	馬具		2
石川T4号墳	沼津市石川	円		横穴式石室	馬具	鉄金具		2
石川T5号墳1号棺	沼津市石川	円		横穴式石室 (横穴式甕形 石棺)	鉄身具(耳環)・玉環(ガラス玉・碧玉)・裝飾付大刀(銅鍬大刀)・武 鍬(鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子)・須磨器	環状鍬板付骨・環状鍬板付骨		2
井出二子塚古墳 (二ノ塚)	沼津市井出	円		横穴式石室?	裝飾付大刀(銅鍬鍬大刀)・馬具・須磨器	馬具(附櫛不明)		
原新田基壇	沼津市原	円		横穴式石室	馬具	磨		
東原1号墳	沼津市東原	円	15.0	横穴式石室 (無軸部)	鉄身具(耳環6)・玉環・武鍬(鉄鍬21・鉄刀)・馬具・生産用具(刀子)	環状鍬板付骨・磨・磨珠・磨金具・ 鉄具		81
東原2号墳	沼津市東原	円	13.0	横穴式石室 (無軸部)	鉄身具(耳環)・銅鍬2・武鍬(鉄鍬9)・馬具・須磨器(産)	環状鍬板付骨・環状鍬板付骨		81
東原3号墳	沼津市上寄真木 郷	円		横穴式石室 (無軸部)	鉄身具(耳環8)・玉環(山玉・丸玉7)・裝飾付大刀(銅鍬鍬大刀 2)・武鍬(鉄刀7・鉄鍬)・馬具・生産用具(刀子2)・須磨器・土磨 器	磨・鉄金具		
平家1号墳	沼津市平家	円		横穴式石室	馬具	馬具		
平家2号墳	沼津市平家	円		(不明)	馬具	馬具		
平家3号墳	沼津市平家	古墳		(不明)	馬具	磨		
宮原1号墳	沼津市上寄真	円		横穴式石室	武鍬(丁字形利剣)・馬具・須磨器(銅鍬2・鉄鍬2・磨珠2・磨杯・ 磨2・磨杯2)	環状鍬板付骨・鉄鍬鍬		
宮原2号墳	沼津市上寄真	円		横穴式石室	馬具	環状鍬板付骨		
宮下古墳 (中石田古墳)	沼津市中石田	円		横穴式石室	馬具・銅鍬(産行銅鍬)・鍬鍬・水鉄・石付銅鍬	環状鍬板付骨		
八重古墳	沼津市下寄真	円		横穴式石室	馬具	心形磨片磨		
龍巻古墳	長泉町土打	円		横穴式石室	馬具	心形磨片磨		
上ノ段古墳(上ノ段 2号墳・長泉8号墳)	長泉町本郷上ノ段	円		横穴式石室 (横穴式甕形 石棺)	鉄身具(耳環)・玉環(山玉・丸玉・碧玉)・裝飾(鉄刀・ 鉄鍬)・馬具・須磨器・土磨器	磨・鉄金具・磨 珠(附櫛不明)		82

遺跡(古墳)名	所在地	墳形	規模(m)	主体部	副葬品(出土遺物)	出土道具	備考	文献
大平連跡	長泉町南一色	不明		円筒	馬具 馬具	環状鍔板付簪 2 環状鍔板付簪	古墳時代?	96
上出口 1号墳	長泉町下土井	円		横穴式石室	馬具	環状鍔板付簪		82
下土井西側 1号墳	長泉町下土井	円	20.0	横穴式石室 (須賀型) (後方石段) (後方石段)	[新形七曲内] 装身具(金釧、玉釧、鉄指付大刀(装束大刀・新形大刀)、[下部] 武器類(鐵劍、鐵刀2枚)、生食用具(刀子・短剣、その他(金銅製匙匙頭)) [山腹] 裝飾付大刀(御旗大刀・武裝(鐵鎧・須賀型(台付成・高杯・平蓋2))	環状鍔板付簪・環狀鍔板付簪、木之念高麗子竹形鏝蓋、飾金具		2 82
倒置上 3号墳	長泉町下土井	円		横穴式石室	装身具(金釧、銀釧)、玉釧(金銅製泡立)、馬具・生食用具(刀子・短剣、その他(金銅製匙匙頭))・土器(皿3・握飯・盃2・杯2・埴輪4)注み	方形鍔板付簪		82
東原塚古墳	長泉町下土井	円		横穴式石室	武裝(鐵刀・裝束)、馬具・土師器	馬具(帶紐不明)		1 82
徳倉寺門前穴	三島市徳倉	横穴		横穴	馬具	馬具(帶紐不明)		2
夏海太 6号墳	三島市谷田瀬平	円	15.0	横穴式石室 (無柱型)	装身具(金釧4)、武裝(鐵刀4・鉄鎧14)、馬具・生食用具(刀子4)・須賀型(鐵鎧2・高杯)	馬具		83
柏谷D16号横穴	国府町柏谷	横穴		横穴	武裝(鐵鎧)、馬具・須賀型(兵衛型)	環状鍔板付簪・鐵金具・鉄具、鉄装容罩?		2 84
柏谷D22号横穴	国府町柏谷	横穴		横穴	馬具	環状鍔板付簪・轡(引手)?鐵(兵庫鋼)		2 84
柏谷D24号横穴	国府町柏谷	横穴		横穴	武裝(鐵刀・鉄鎧)、馬具・生食用具(刀子)	飾金具		2 84
藤明古墳	国府町上松字藤明	古墳		(不明)	馬具	鉄製打子形鑿額 2		
八重瀨 2号横穴	新野町大字	横穴		横穴	馬具	環状鍔板付簪・兵衛值		
サヶ池ノ宮址(多田大塚A 2号墳)	重山町多田	円		横穴式石室 (附石階)	装身具(綱劔)、玉釧・武裝(鐵鎧、鐵刀)、馬具・須賀型(平盾・握飯・鉄身具)	花形香盤?・辻金具・鞍		2 85
菅ヶ池ノ宮址(多田大塚B 3号墳)	重山町多出・株ヶ嶽	円		横穴式石室	装身具(耳鐲)、玉釧・武裝(鐵刀・馬具・須賀型(平盾・握飯・鉄身具))	環状鍔板付簪・鞍具		2 81
大塚 4号墳(多田大塚C 4号墳)	重山町多田・株ヶ嶽	円	24.0	横穴式石室 (彫刻形木棺)	[南内] 飾・武裝(鐵刀・鉄鎧)、馬具・生食用具(刀子); [南外] 武具(兜等)、須賀型(鐵鎧・磨台・高杯)	{ [宇形鍔板付簪}・辻金具		2 85・86
大塚 6号墳	重山町多田・株ヶ嶽	円(溝出付)	20.0	(不明)	馬具	馬牌		86
伊豆良岡遺跡	伊豆良岡町	円	25.0	横穴式石室?	装身具(耳鐲)、裝飾付大刀(甲冑大刀)、武裝(磨手刀・鐵刀・鉄鎧)、馬具・生食用具(刀子)、須賀型	馬具(帶紐不明)		2 87
松江 7号墳	戸畑村林田	円	12.0	横穴式石室?	装身具(耳鐲18)、武具(使巻、鉄刀)、馬具・牛麁用县(刀子3)・須賀型	環状鍔板付簪		2 88・89
廣徳古墳	伊東市新井	円	18.0	横穴式石室 (無柱型)	装身具(口鐸)、玉釧・武裝(鐵刀・鉄鎧)、馬具・生食用具(刀子)・須賀型	金駒座持		

石ノ形古墳

【文献一覧】

- 1 静岡編纂 1930 『静岡縣史』1 (1972年復刻) 名著出版
- 2 静岡編纂 1992 『古墳時代の重要遺跡の解説』『静岡縣史』資料編2 考古2 静岡県
- 3 川江秀孝 1986 『出土の道具について』(文獻50所収) 静岡市教育委員会
- 4 川江秀孝 1992 『馬具』『静岡縣史』資料編3 考古3 静岡県
- 5 鈴木一・向坂鋼二 1964 『經子古墳』市立郷土博物館蔵書4 浜松市教育委員会
- 6 浜松市教育委員会編 1995 『浜松市指定文化財—古墳— 石室を見学できる古墳』 浜松市教育委員会
- 7 浜松市博物館編 1991 『静岡県浜松市瓦屋西古墳群』 浜松市教育委員会
- 8 浜松市博物館編 1985 『新編遺跡Ⅴ・Ⅵ』 浜松市教育委員会
- 9 浜松市博物館編 1992 『有玉西土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書。下巻
地蔵平A・B古墳群・瓦屋西Ⅱ・地蔵平遺跡』 浜松市文化協会
- 10 川江秀孝 1994 『潰された飾大刀について—飾大刀を副葬する静岡県の後期古墳—』 向坂鋼二先生遺情記念
『向坂鋼二先生遺情記念論集 地域と考古学』 論集刊行会
- 11 浜松市博物館編 1998 『千人塚古墳、千人塚平・宇藤坂古墳群』 浜松市教育委員会
- 12 浜松市博物館編 1988 『根木山古墳群Ⅱ』 浜松市文化協会
- 13 浜松市郷土博物館編 1971 『浜松市半田山古墳群(B群)調査記録』 浜松市博物館友の会
- 14 浜松市博物館編 1988 『半田山古墳群(Ⅳ)中支群—浜松医科大学内』 浜松市教育委員会
- 15 浜松市教育委員会編 1984 『半田山遺跡発掘調査報告書』 浜松市教育委員会
- 16 浜松市博物館編 1987 『浜松市半田山遺跡(Ⅶ)発掘調査報告書』 浜松市教育委員会
- 17 森町教育委員会編 1992 『高瀬ヶ谷古墳群(8号墳)発掘調査報告書』 森町教育委員会
- 18 森町教育委員会編 1996 『静岡県森町飯田の遺跡—葛城ゴルフ倶楽部地内遺跡調査報告書—』 森町教育委員会
- 19 森町史編さん委員会編 1998 『森町史』資料編1 考古 森町
- 20 豊岡村教育委員会編 1983 『押越古墳群』『押越・社山古墳群調査報告書』 豊岡村教育委員会
- 21 柴田稔 1993 『考古編』『豊岡村史』資料編Ⅲ 考古・民俗 豊岡村
- 22 渡瀬治・竹内政文ほか 1998 『原始編』『豊岡村史』資料編Ⅳ 豊岡村
- 23 中嶋郁夫 1992 『古墳時代』『豊岡市史』資料編1 考古・古代・中世 豊岡市
- 24 小林ゆり・山崎克己ほか 1979 『京見塚遺跡群発掘調査概報』『静岡県考古学』5号 静岡県考古学会
- 25 柴田稔 1983 『横穴式木芯粘土室の基礎的考察—磐田市内発見の横穴式木芯粘土
室—』『考古学雑誌』第68巻第4号 日本考古学会
- 26 松井一明 1994 『遠江・駿河における初期群集墳の成立と展開について』『向坂鋼二先生
遺情記念論集 地域と考古学』 向坂鋼二先生遺情記念
論集刊行会
- 27 松井一明 1996 『原野谷川流域における初期群集墳の終末と後期群集墳(横穴群)の
成立について』(文獻29所収) 袋井市教育委員会
- 28 袋井市教育委員会編 1972 『袋井市郷土古墳群D単位群発掘調査概報』 袋井市教育委員会
- 29 袋井市教育委員会編 1996 『金山古墳群・金山横穴群Ⅰ・Ⅱ—袋井の群集墳と横穴群を考える(Ⅰ)—』 袋井市教育委員会
- 30 静岡県埋蔵文化財調査
研究所編 1998 『小笠山総合運動公園内遺跡群 平成6・7・8年度小笠山総合運動公
園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 居村古墳群・居村遺跡・若
作古墳群(F地区)・上石野古墳群』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査
報告書96集 静岡県埋蔵文化財調査
研究所
- 31 平野和男・山村宏ほか 1965 『地蔵ヶ谷古墳及び横穴』『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化
財発掘調査報告書』 静岡県教育委員会
- 32 袋井市教育委員会編 1987 『大門大塚古墳—昭和61年度基礎資料収集調査報告書』 袋井市教育委員会
- 33 袋井市教育委員会編 1996 『高尾山山道跡Ⅱ』 袋井市教育委員会
- 34 袋井市教育委員会編 1992 『関子塚遺跡—道構編—』 袋井市教育委員会
- 35 袋井市教育委員会編 1997 『八幡山横穴群—袋井の群集墳と横穴群を考える(Ⅱ)—』袋井市考古資
料集第3集 袋井市教育委員会
- 36 袋井市教育委員会編 1998 『見えてきた昔の春岡 はるかお遺跡群』 袋井市教育委員会
- 37 掛川市教育委員会編 1992 『赤瀧遺跡・中川原古墳群発掘調査報告書』 掛川市教育委員会
- 38 静岡県教育委員会編 1993 『遠江の横穴群』 静岡県教育委員会
- 39 井村広巳 1998 『壁にやじりが刺さっていた横穴—茶原辻横穴群—』『静岡の原像をさ
ぐる 発掘調査報告書』 静岡県埋蔵文化財調査
研究所
- 40 前田庄一 1992 『素戔嗚尊一族の墓所?発見—堀ノ内古墳群—』『静岡の原像をさ
ぐる—平成4年度埋蔵文化財発掘調査報告書—』 静岡県埋蔵文化財調査
研究所
- 41 川江秀孝 1993 『浜松・静岡地域の古墳』『新版古代の日本』7 中部 角川書店
- 42 掛川市史編さん委員会 1997 『掛川市史』上巻 掛川市
- 43 大東町教育委員会編 1988 『岩瀬清水ヶ谷横穴群・岩瀬松ヶ谷横穴群調査報告書』 大東町教育委員会
- 44 菊川町教育委員会編 1997 『宇藤遺跡群 宇藤古墳群・宇藤横穴群・宇藤遺跡』共立菊川総合病院
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 菊川町教育委員会
- 45 明早大学考古学研究会 1983 『大瀬ヶ谷 篠ヶ谷 西宮浦 —静岡県菊川流域の横穴基群調査報告』 菊川町教育委員会
- 46 内藤晃・藤田等 1968 『小笠原郡川町下本所横穴古墳群発掘調査概報』『東名高速道路(静岡
県内工事)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 日本道路公団
- 47 菊川町教育委員会編 1989 『杉森横穴群D群発掘調査報告書 写真図版編』 菊川町教育委員会
- 48 静岡県教育委員会編 1979 『静岡県遺跡地名表』 静岡県教育委員会
- 49 榛原町教育委員会編 1992 『大ヶ谷横穴群詳細分布調査報告書』 榛原町教育委員会

- 50 榛原町教育委員会編 1985 『静岡県榛原町仁田山ノ崎古墳—出土品保存処理報告—』 榛原町教育委員会
- 51 望月重弘 1978 『第三節 古墳文化と国々』『島田市史』上巻 島田市役所
- 52 山村宏 1965 『谷口原古墳群』『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 静岡県教育委員会
- 53 望月重弘 1980 『第三節 古墳時代』『藤枝市史』上巻 藤枝市
- 54 西蔵考古学研究会編 1968 『静岡県藤枝市瀬戸古墳群第1次調査瀬戸地区その1』西蔵考古学研究会調査報告第1集 西蔵考古学研究会
- 55 藤枝市教育委員会 1983 『若王子・釣瓶落古墳群』 藤枝市教育委員会
- 56 藤枝市教育委員会 1977 『藤枝市原古墳群越ヶ谷支群B地区発掘調査報告書』藤枝市文化財調査報告1 藤枝市教育委員会
- 57 藤枝市埋蔵文化財調査事務所編 1980 『原古墳群白砂ヶ谷支群：国道1号藤枝バイパス(藤枝地区)埋蔵文化財発掘調査報告書第3冊』 建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・藤枝市教育委員会
- 58 藤枝市埋蔵文化財調査事務所編 1981 『原古墳群谷稲葉支群高草地区：国道1号藤枝バイパス(藤枝地区)埋蔵文化財発掘調査報告書第5冊』 建設省中部地方建設局・静岡県教育委員会・藤枝市教育委員会
- 59 藤枝市埋蔵文化財調査事務所編 1980 『日本住宅公団藤枝地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—古墳時代編—市南新居古墳群秋ヶ谷支群・秋ヶ谷支群』 藤枝市土地開発公社・藤枝市教育委員会
- 60 藤枝市郷土博物館編 1990 『女地ヶ谷古墳群—藤枝市下敷田女地ヶ谷地先の宅地造成に伴う発掘調査報告書—』 藤枝市教育委員会
- 61 岡部町教育委員会 1982 『静岡県志太郡岡部町横瀬古墳群坂沢支群発掘調査報告書』 岡部町教育委員会・東海大学工業高等学校考古学研究所・静岡鉄道
- 62 静岡市役所 1981 『静岡市史』原始・古代・中世 静岡市役所
- 63 望月重弘編 1968 『駿河池田山古墳』 静岡市役所
- 64 登呂博物館 1990 『特別展 静岡・清水平野の古墳時代—新出土品にみるまつりとくらし—』 登呂博物館
- 65 静岡市教育委員会編 1963 『駿河伊生谷横穴墓』静岡考古館研究報告2 静岡考古館
- 66 静岡市教育委員会編 1984 『駿河伊生谷横穴墓—附ヶ谷支群第4次発掘調査—』 静岡市教育委員会
- 67 上ノ山遺跡発掘調査団編 1974 『上ノ山遺跡発掘調査(第1次)概報Ⅰ(遺構編)』 上ノ山遺跡発掘調査団・静岡市教育委員会
- 68 静岡市教育委員会編 1986 『駿河河ヶ沢古墳群—熊ヶ沢2・3・7号墳発掘調査報告書』 静岡市教育委員会
- 69 静岡市教育委員会編 1984 『佐渡山2号墳発掘調査報告書』 建設省中部地方建設局・西宮神社・静岡市教育委員会
- 70 後藤守一・斉藤忠 1953 『静岡磯橋山古墳』 静岡県教育委員会
- 71 さきたま資料館 1997 『古墳時代の馬の装い—さきたまに馬がやってきた—』 さきたま資料館
- 72 静岡市教育委員会編 1997 『史跡磯橋山古墳保存整備完成記念 甕の磯橋山古墳』 静岡市教育委員会
- 73 静岡市教育委員会編 1967 『駿河堀ノ内山古墳群』 静岡市教育委員会
- 74 静岡市教育委員会編 1983 『駿河河ヶ谷古墳』 静岡市教育委員会
- 75 清水市教育委員会編 1984 『東久佐奈岐古墳群(3・4・6号墳)・宮平Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 清水市教育委員会・清水市郷土研究会
- 76 由比町教育委員会編 1986 『室ヶ谷遺跡群(室ヶ谷遺跡・室ヶ谷3号墳)発掘調査報告書』 由比町教育委員会
- 77 富士川町教育委員会編 1994 『室野坂古墳群』 富士川町教育委員会
- 78 富士市教育委員会編 1988 『富士市の埋蔵文化財(古墳編)』 富士市教育委員会
- 79 富士市教育委員会編 1994 『中原第3号墳・第4号墳発掘調査概要報告書』 富士市教育委員会
- 80 富士市教育委員会編 1991 『船津162号墳発掘調査概報』 富士市教育委員会
- 81 小野真一編 1972 『駿河東原古墳=静岡県における古墳時代装身具の研究=』 加藤学園沼津考古学研究所・中部開発
- 82 長泉郷土誌編集委員会 1965 『古代社会 第1節古墳文化』『長泉郷土誌』 長泉町教育委員会
- 83 三島市教育委員会編 1991 『静岡県三島市夏梅木遺跡群 三島市夏梅木地区宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』 三島市教育委員会
- 84 静岡県教育委員会編 1975 『伊豆柏谷百穴』 静岡県教育委員会・浜南委員会
- 85 斎藤弘 1995 『第三編 古代 第一章』『韭山町史』10巻 韭山町史刊行委員会
- 86 原茂弘 1990 『伊豆国首長墓の発見—大塚古墳群—』『静岡の原像をさぐる—平成2年度埋蔵文化財発掘調査報告書—』 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 87 三木文雄 1948 『伊豆長岡駒形古墳発掘の記』『考古學雑誌』第35巻第3号 考古学会
- 88 戸田村教育委員会編 1994 『静岡県田方郡戸田村井田松江古墳群』戸田村文化財調査報告書第1集 戸田村教育委員会
- 89 戸田村教育委員会編 1997 『井田松江古墳群—平成7・8年度調査整備事業の概要—』戸田村文化財調査報告書第2集 戸田村教育委員会
- 90 辰巳均・佐野五十三 1992 『歴史時代の道路の概観』『静岡県史』資料編3 考古3 静岡県
- 91 浜松市博物館編 1998 『宇藤坂古墳群』 浜松市文化協会
- 92 袋井商業高校社会部古代歴史班 1966 『袋井市八幡山横穴略報告』『曜』3号 袋井商業高校社会部
- 93 静岡県埋蔵文化財調査研究所編 1998 『研究所報』No. 77 静岡県埋蔵文化財調査研究所

石ノ形古墳

94	木村弘之	1998	『二子塚古墳出土馬形埴輪について』『遠江埋蔵文化財研究会1998年10月例会資料』	遠江埋蔵文化財研究会
95	竹内直文	1998	『御厨堂山古墳調査のあらまし』『遠江埋蔵文化財研究会1998年9月例会資料』	遠江埋蔵文化財研究会
96	川江秀孝	1997	『神明平1号墳発掘調査報告』『浜松市博物館報』IX	浜松市博物館
97	浜松市博物館	1998	『奈良時代の馬具 下巻遺跡』『浜松市博物館情報』第79号	浜松市博物館
98	静岡県埋蔵文化財調査研究所	1990	『川合遺跡 昭和63年度静岡バイパス(川合地区)埋蔵文化財発掘調査報告書(遺構編)』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書第21集 『川合遺跡 平成3年度静岡バイパス(川合地区)埋蔵文化財発掘調査報告書(遺物編2)』石製品・金属製品 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書第22集	静岡県埋蔵文化財調査研究所
99	静岡県埋蔵文化財調査研究所	1998	『大平遺跡 平成7・8年度東駿河湾環状道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書第98集	静岡県埋蔵文化財調査研究所
100	天石夏美	1995	『南沼上古墳群』『ふちゅへる』No.3 平成5年度静岡市文化財年報	静岡市教育委員会
101	井鍋晋之	1998	『今、甞る 縄文の折りー富士川SA関連遺跡ー』『静岡の原像をさぐる 発掘調査報告会』	静岡県埋蔵文化財調査研究所

【註】

- 1 掛川市教育委員会のご教示による。
- 2 静岡県埋蔵文化財調査研究所が98年度現在発掘調査中。
- 3 菊川町教育委員会のご教示による。

第Ⅶ章 自然科学的分析

1 石ノ形古墳出土金属遺物の修復について

東京国立文化財研究所 青木繁夫・犬竹 和

1 はじめに

石ノ形古墳から出土した金属製品の保存修復処置については、袋井市教育委員会の依頼により、発掘調査時の応急処理から発掘調査後の修復処置までを一貫して実施した。基本的な遺物整理調査が終了したあとに遺物が引き渡され、平成6年から7年にかけて東および西主体部から発見された銅鏡、鈴釧、短甲、轡、蛇行剣、直刀などの修復処置を行った。修復処置を行った遺物は約30数点におよび、特に蛇行剣などについては修復時に剣身の一部分から金属部分を採取し、分析(第Ⅶ章赤沼報告参照)を行っている。

修復報告を書くにあたっては、本来ならば修復を行った遺物の考古学的特徴などを正確に記載しなければならないが、本書の遺物報告の部分と重複するため、ここでは第Ⅴ章にゆずることにし、修復処置方法の報告だけに留めることにする。

2 古墳における保存処理について

この古墳では、発掘調査前から短甲の一部が発見されていた。その破片を調べたところ著しく錆が進行して脆弱になっていた。この状態で調査を行えば短甲が崩れるなど、その取り扱いに問題がでることが予想された。また発掘前の事前調査でこの古墳が粘土を用いた主体部を有することが判明していた。通常、粘土を用いた主体部から発見される鉄製遺物は、かなり錆が進行して非常に脆弱化している状態にあることが多く、そのため調査時における遺物の取り扱いには充分注意する必要があることが以前から指摘されている。このようなことから発掘中より応急的保存処理をおこなうことになった。

(1) 短甲以外の脆弱遺物の取り上げ

脆弱化が進んで調査中に崩れてしまう可能性があった轡や鉞などについては、パラロイド B-72の5%キシレン溶液を浸透させ強化してから、実測図作成などを行った。調査後、取り上げに困難をきたす遺物には、ガーゼをパラロイド B-72の10%キシレン溶液で貼ってから取り上げた。

(2) 短甲の取り上げ

短甲は、破片が移動しないようにパラロイド B-72 の 5% キシレン溶液を浸透させながら周辺の土を取り除いた (Fig. 67)。出土状態を記録した後にパラロイド B-72 の 10% キシレン溶液でガゼを貼り (Fig. 68)、その樹脂が乾燥したのち脱脂綿で包み、その上からウレタンキャストイングテープ (Fig. 69) を全体に巻き付けて取り上げ可能にした。短甲下部と土の間にパレットナイフを入れて縁を切り取り上げた (Fig. 70)。その後、短甲が破損しないように内部に残っている土を丁寧に取りだした。

3 遺物の修復処置について

まず最初に、それぞれの遺物の考古学的特徴や腐食状態を知るために X 線透視撮影を行った。これらの調査をもとに直刀 (64・457・71・70) および蛇行剣 (Fig. 74) については、腐食していない金属部分から分析試料を採取して化学組成分析 (第 VII 章赤沼報告参照) を行った。試料は分析終了後返却してもらい採取した位置に戻して修復を行った。

(1) 銅製品

銅製品は、画像鏡、珠文鏡、鈴釦 (Fig. 71) などが発見されているが、いずれも腐食が著しく粉状や痘痕状になった白緑色した部分が多く認められ、今までの経験からして、いわゆるブロンズ病が存在するものと見られた。これらの錆の一部を採取して X 線回折分析を行ったところアタカマイト (塩基性塩化銅) の存在が確認された。

◎クリーニング

文様などを明瞭にすることを目的として、銅製品に付着している泥や粉状に浮いている錆を蒸留水をしみこませた綿棒でぬぐい取って除去した。画像鏡の鏡面に錆着している布の痕跡については表面の泥を軽く拭っただけの処置に止めた。

◎錆の安定化処理

脱塩処理にあたって画像鏡に付着している赤色顔料や布への影響を防ぐために、それらにパラロイド B-72 の 5% キシレン溶液をしみこませ強化してから、錆の中に含まれている塩化物を除去するために脱塩処理を行った。脱塩処理は 80℃ 前後に加熱した純水を 2 時間毎に交換することによって行い、その水を交換するたびに、その水に溶出した塩素量をイオンクロマト分析によって測定した。27 回の洗浄を行い塩素が検出されないことを確認して脱塩処理を完了した。

脱塩処理後、ベンゾトリアゾール 3% アルコール溶液の中に銅製品を 10 日間浸漬して銅の安定化処理を行った。

◎強化処理

ベンゾトリアゾールを溶かしたアクリル樹脂溶液 (インクラック) に遺物を浸漬して、減圧タ

ンクの中で樹脂を減圧含浸して遺物の強化と表面コーティング処理を行った。

(2) 鉄製品

◎クリーニング

形状を明瞭にさせることを目的に、表面の泥は噴射圧力60kg/cm²に調整したエアブラッシュノズルからカーボランダム粉末を吹きつけて取り除き、錆瘤などはニッパなどの工具を使用して機械的に除去した。

短甲(Fig.72・73)については、カッターでウレタンキャストイングテープを切断して取り除き、破片の位置を記録しながらバラロイド B-72で貼ったガーゼをアセトンで溶かして取り除いた。その後に各破片をエアブラッシュを使用してクリーニングした。

◎錆の安定化処理

遺物をプラズマ処理装置(Fig.77)の中に入れ、水素、窒素、アルゴンプラズマによる処理を2時間行った後に銅製品と同じ方法で脱塩処理装置に遺物を入れ、処理を行った。

脱塩処理が終了した遺物を乾燥させ、チタネートシラン2%キシレン溶液に浸漬し、水酸化鉄の水酸基と反応させた。

◎強化処理

遺物を減圧タンクに入れ、30mm/Hgまで減圧にしてアクリル樹脂エマルジョン(プライマルMV-1)を浸透させた。含浸後タンク内を常圧に戻したあと遺物を樹脂溶液から取り出し、表面の過剰な樹脂をガーゼでふき取ってから乾燥させた。

◎接合および補修

折損していた部分で接合面積が小さいものについてはエポキシ樹脂(ハイスーパーセメダイン)あるいはシアノアクリレート樹脂(アロンアルファ)で接着した。接着面積が比較的大きく接合面は合う場合には繊維素系接着剤(セメンダインC)を使用して接着した。欠失部分は面積や加重の掛かりかたによってエポキシ樹脂にガラス繊維を混ぜたFRPで補修し、小さな部分についてエポキシ樹脂にフェノール樹脂マイクロバルーンを混入して粘土状の樹脂を調合して盛りつけ、硬化後彫刻刀などで整形補修した。

補修部分は、整形後アクリル絵具で補彩した。

4 最後に

石ノ形古墳から出土した金属遺物、とくに鉄製品の修復処理については、通常の鉄製品に比べて塩素の含まれる量が多く(Fig.78・79)、その脱塩処理に長時間を要し問題があったため研究を進めていた新しい脱塩防錆方法であるジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩(ダイカン)法を直刀の一部に実施した。この方法の効果を確認するために遺物の観察を継続していくが、今までの実験結

果を見ると効果が期待できるものと考えられる。ジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩法については、稿を改めて報告をする予定である。

この修復にあたって静岡県埋蔵文化財調査研究所西尾太加二氏、袋井市教育委員会生涯学習課文化財係吉岡伸夫氏、白澤崇氏にはご迷惑をおかけしました。記して感謝いたします。

【参照文献】

青木繁夫「青銅製品の保存修復」『MUSEUM』381号、東京国立博物館、昭和57年12月

青木繁夫「出土鉄製品の安定化処理」『国立歴史民俗博物館報告』第38集、国立民俗博物館 平成4年6月

青木繁夫・犬竹 和「ジシクロヘキシルアミン亜硝酸塩法による脱塩・防錆効果について」『考古資料保存研究会講演要旨』平成10年6月

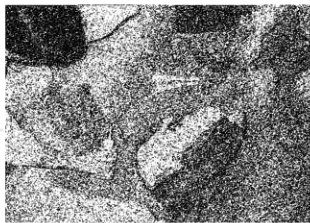


Fig. 67 短甲取り上げ作業1 (パラロイドB-72の塗布)



Fig. 68 短甲取り上げ作業2 (ガーゼによる補強)



Fig. 69 短甲取り上げ作業3
(ウレタンキャストテープの巻き付け)



Fig. 70 短甲取り上げ作業4 (底部の切り離し)

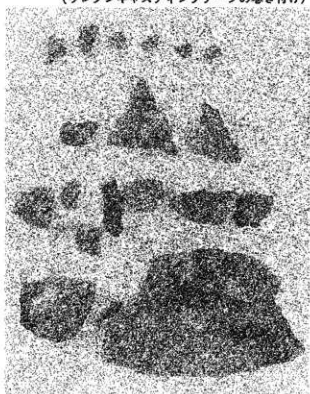


Fig. 72 短甲(処理前)



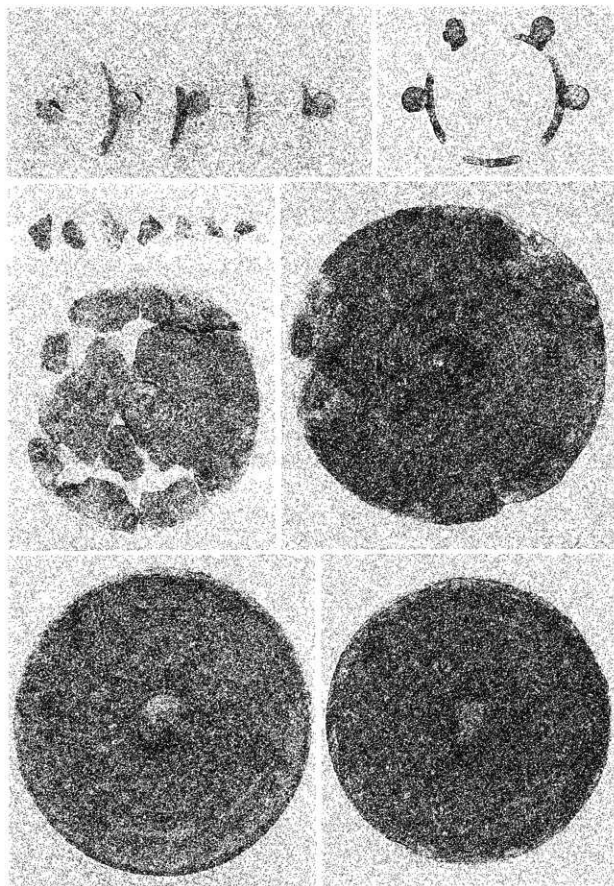


Fig. 71 鈴鋼・乳紋鏡・画像鏡(左:処理前,右:処理後)

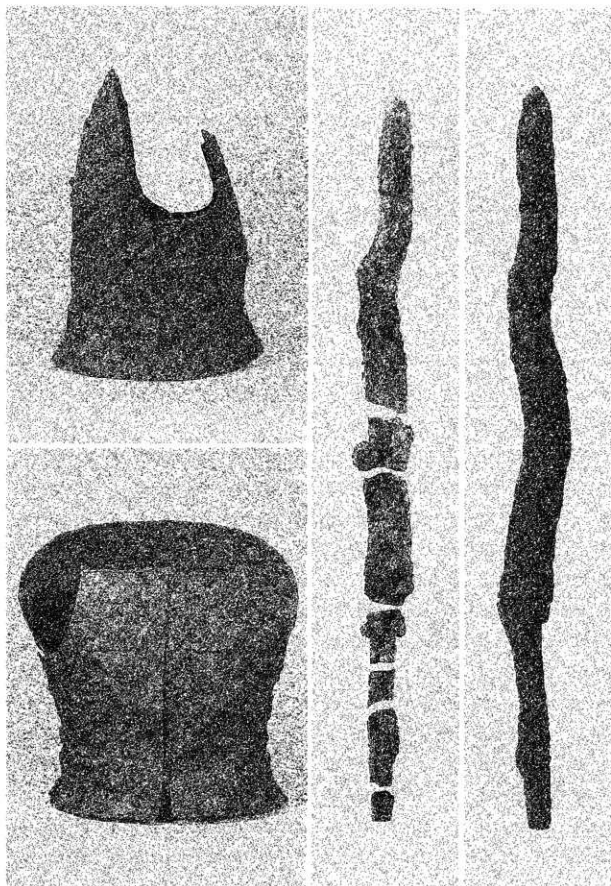


Fig. 73 短甲(处理后)

Fig. 74 蛇行刺(左:处理前,右:处理后)

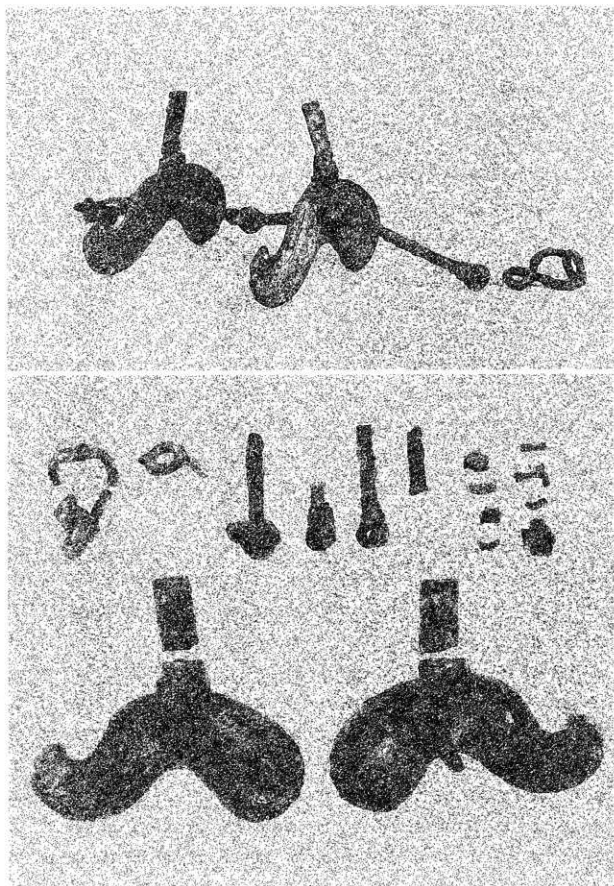


Fig. 75 f字形鏡板付嚢(上:処理後,下:処理前)

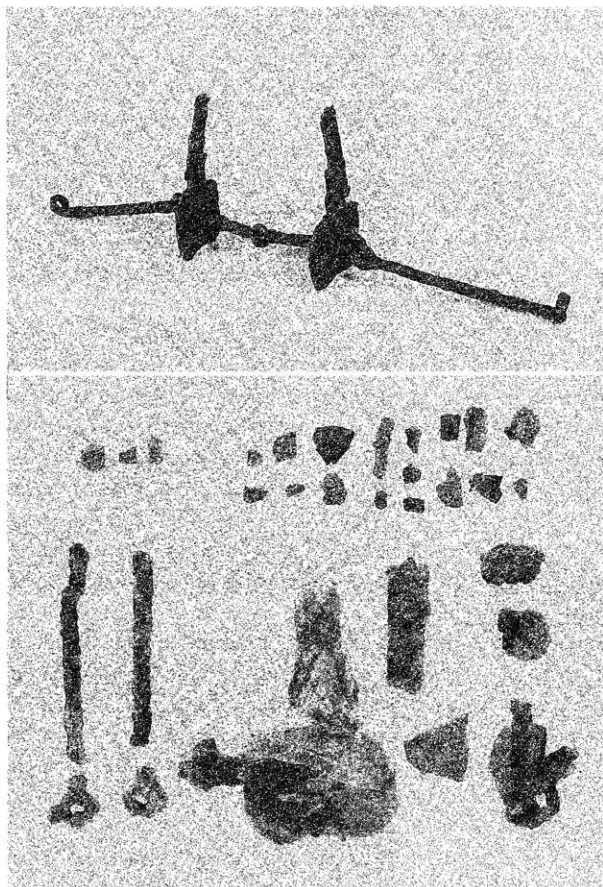


Fig. 76 鉄製箱円形鏡板付香(上:処理後,下:処理前)



Fig. 77 プラズマ処理装置

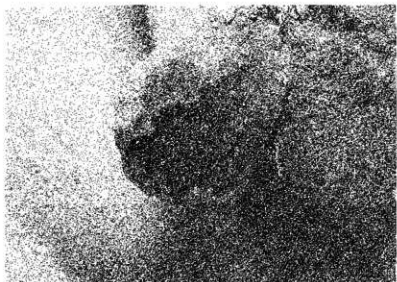


Fig. 78 出土時の遺物の保存状況

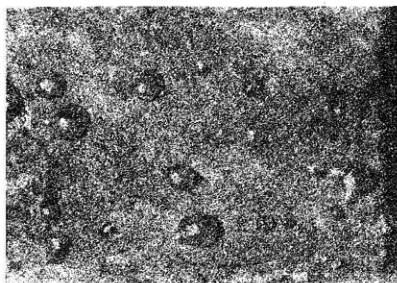


Fig. 79 処理中(銹汁が出ている状況)

2 石ノ形古墳の探査

奈良国立文化財研究所 西村 康

1 はじめに

本古墳における探査の目的は、発掘調査に先立って主体部等の詳細を知ることにあった。探査を計画した当時、われわれは文部省科学研究費補助金による重点領域研究「遺跡探査」を開始したところであり、ここでの探査はその研究に役立つ基礎資料を収集できる貴重な実験の機会として位置づけ、参加することにした。探査に際して各種便宜を図っていただいた袋井市教育委員会当局に御礼を申し上げる次第である。

ここで採用した探査の方法は、地中レーダー探査、磁気探査、電気探査である。このうち、レーダー探査では平面図を作成する Time Slice の方法の有効性を確認すること、磁気探査では新たに開発した 3 軸グラジオメーターによるデータ収集と、その能力を市販の既存装置と比較することを大きな課題とした。電気探査では、そのころ主として検討していた 2 極法による測定の有効性を確認することが関心にあった。なお、これら探査に加えて、やはり開発中であった FM-CW レーダー試作器を使用した実験測定も実施している。

以下では 3 種類の方法によって得た成果を比較しながら、探査結果を報告することにする。

2 測定装置と方法

地中レーダー探査 使用したのは一般的なパルスレーダー方式の装置で、これはアンテナから地中へ向けて圧縮電波を放射、それが再び地上へ戻ってきたものを受信する。受信した電波波形にもとづき色を付けたり白黒の濃淡で表示すると、擬似的な断面画像を得ることができる。

使用するアンテナには各種ある。周波数の高いものは分解能に優れているが、深い層位の情報をとることができない。低いと深い層まで到達するが、分解能に欠けるので小さな対象物は判別できない、という特徴と限界がある。したがって、もし必要探査深度に関する情報がない場合には、低い周波数のアンテナを用いた測定をまず実施して、土層の状況を確認する作業が必要となる。しかし、目標とする対象の存在する深さが判明しておれば、それに合わせてアンテナを選択できる。

ここでは、現地地形の状態や試掘調査の結果をふまえ、1 m よりも浅い層位の探査で効果があると思われたので、500MHz と 900MHz のアンテナを使用することにした。これらはアメリカ G. S. S. I. 社製でコントロールユニットは SIR-8 型を用いた。

探査結果の解析では、通常の擬似的断面画像をもとにする方法だけではなく、ある一定の深さ

における電波の反射、屈折、減衰などの様子を示す平面図として整理した。これは、断面からデータを切り出し表示するところから、Time Sliceと呼ばれる。

磁気探査 現在、世界的に考古学調査に応用される装置には2種類ある。プロトン型とフラックスゲート型である。そしてこれらでは、地磁気の全磁力と鉛直成分を求める装置が多い。ここでは、市販の装置としてはイギリス Geoscan 社製フラックスゲート型 FM18を使用した。

また、試作器である3軸グラジオメーターを実験的に用いたが、これもフラックスゲート型である。この装置は地磁気を東西(x)、南北(y)と鉛直(z)の三成分に分離して観測できるもので、遺跡で簡便に測定できる装置としては、世界で最初のものである。この方式により、従来知ることのできなかった磁気情報を収集して、遺構、遺物の特定に役立てることを目的としている。

磁気探査は、わが国では以前より窯跡など熱残留磁気を帯びる対象に多く使用されてきているが、住居跡や溝など微細な土壌を判別する必要がある遺跡では実績に乏しい。したがって、本古墳でも主体部の位置や形態を求めることには、有効でない可能性があると思われた。しかし、古墳であるので鉄製の副葬品があれば、それは大きな磁気異常を示すので、探査で捉えられる対象となるはずである。

電気探査 この探査方法では、地中へ電流を送り込み、その比抵抗の差から土層判別をしたり、周囲と大きく異なる抵抗を示す対象を限定するのが基本である。電流を流す方法と電位を測る方法すなわち電極配列には各種あるが、考古学に応用されるものとしては2極法やウェンナー法がよく知られている。

ここでは、測定の対象とした範囲が狭いので、できるだけ広い面積を探査することを目的に、移動電極が2で良い2極法を採用した。これは当時関心を持って応用研究していた配列でもある。他の4電極を用いる方法では、電極を十分に展開できないために、実際の測定面積は限定される。

3 測定の結果

測定に際しては予め東西6m、南北6.5mの範囲を設定したが、実際に探査した面積や測定点の密度は、方法によって若干異なる。

地中レーダー探査 これでは先に述べたように2種類のアンテナを用いて測定している。500MHzと900MHzである。設定した東西6m、南北5.5mの範囲を、500MHzでは東西と南北の両方ともに0.5m間隔でアンテナを走査(scan)した。しかし、中央部北辺の小さな祠がある位置では、それを避けたために1m四方の範囲で測定できていない。900MHzでは東西方向に南北0.5m間隔で走査したが、小祠の位置よりも北側では遺構の存在は考えられないので1m間隔に広げている。

測定に際しては、データの収録時間を500MHzでは40ns(ナノ秒)、900MHzでは30nsに設定した。これらによれば、電波の土中伝搬速度を6cmに仮定した場合には、探査した深さとしては、

それぞれ1.2mと0.9m程度となる。

結果はある深さに対応する電波の挙動を表す平面図(Time Slice)として整理している。

500MHzのアンテナを用いた測定では、12~16、16~20ns すなわち深さにして60cm程度までの間で、測定区の中央部北寄りに東西3m、南北1mほどの範囲に反射の大きな構造がみえる。これはまた、平面形が東で北に傾いているとみられること、東の方では浅い位置で反射が大きく、西では深いと判断される。

さらに深くなって、20~24nsの0.6~0.7mほどの深さになると、いま見た大きな反射がある位置から、南へ広がる構造を読みとることができる。これは墓墳の範囲を表していると理解した。すなわち、主体部は墓墳の内では北側寄りにあり、南側には空間があると見られた。また、24~28nsまでの平面図からは、この空間は北側では浅く、南の方が深いように思われた。

また、この深さで南へ延びる構造が読みとれる。後に判明したところでは、これが主体部であった。

900MHzの結果では、30cm程度までの深さでは反射の大きな範囲が各所に散在しているようにみえる。これは周波数が高いので、それだけ500MHzよりも小さな土壤変化を捉えているためといえる。0.5m近い深さと思われる12~15nsでは、500MHzと類似する反射の形態、すなわち測定区のやや北寄りで同じ方向に大きな反射位置がある。これよりも少し深い15~18nsでは、大きな反射位置は測定区の中央にある。そして、この部分が東北方向へ延びる点は、500MHzの結果と同じといえる。

これらレーダー探査の結果からは、主体部は測定区のやや北寄りで、平面形では東で北に偏した方向にあり、それは墓墳の中では北側に位置すると推定した。そして、深さは約0.5m程度から存在すると考えられた。

なお、500MHzの結果では、12-16nsで顕著なように、測定区東南隅に大きな反射の箇所のあることが注意された。

磁気探査 市販の装置であるFM18フラックスゲート型グラジオメーターを用いた探査では、東西6m、南北6.5mの範囲をタテ、ヨコともに0.5m間隔で測定した。

結果を見ると、測定区の中央部分に大きな磁気異常があり、その北にも規模は小さいながらもやはり異常のあることが判る。中央部の異常は、その位置から見て副葬品の中でも鉄製品に起因するものと理解した。この異常を詳細に検討すると、中央の大きな範囲は東西に二分できそうである。

すなわち、西側ではやや南北方向に広がり、東ではそれとは分離して円形に異常があるとみられるのである。これらの位置は地中レーダー探査の結果と比較すると、南側の異常がちょうど反射の大きな範囲の南に位置している。そして、東側の規模の小さな異常も、墓墳と推定した範囲内にある。これらのことから、磁気の異常を示す箇所は、それぞれ主体部と共に副葬された鉄製遺物に起因するものと推定できるのである。

これらとは別に、測定区の北でやや小規模な異常があるが、この位置については、レーダー探査や後に述べる電気探査の結果と照合すると、主体部や墓墳の範囲から外れていると思われるので、古墳とは関係のない鉄製品が示す可能性が大きいと判断した。その位置が小さな洞に近接することからも、近世あるいは現代の鉄製品を捉えた可能性も考えられた。

これ以外には顕著な磁気異常はない。しかし、測定区の東南端には、探査範囲外へ及ぶために全体の形態や規模が不明ではあるが、異常が認められることが注意された。

3 軸グラジオメーター この装置でも FM18フラックスゲート型グラジオメーターと同じ範囲を、同じ密度すなわちタテ、ヨコともに0.5m間隔で測定した。

FM18フラックスゲート型グラジオメーターと同じ成分である地磁気の鉛直成分(z)を求めた結果では、測定区の中央部分や北側で同様の異常を認めることができる。しかし、FM18装置とは違い、測定区内の各所に小さな異常の散見することに気がつく。同様の成分を測定しているにもかかわらず、このような違いが生じたのは、FM18装置では測定時にデータを平均する機能を有しているが、それを活用したために小さな変化は現れなくなってしまったためと考えられる。しかしながら、これら小さな変化にも注意しておく必要があると思われる。特に中央部の東側にある小さな異常地点は、その形態が他とは違うので、遺物である可能性があると考えられた。

東西成分(y)の結果では、異常は東西の方向に現れるはずであるが、中央部の大きな磁気異常の地点での形態が、西北方向に延びているのが注意される。北にみた異常地点でも同様の傾向がある。異常をもたらし原因となっている対象物が東西南北ではなくやや傾いた方位にあることを示しているのであろう。他で散見される小規模な異常地点の位置も、基本的には鉛直成分(z)にみる箇所と同じであるが、変化の大きさとしては、小さいのが注意される。

南北成分(x)では、中央にある大きな異常の地点で明瞭のように、異常の形態としては南北方向に現れる。この結果の中では、中央地点の北側に大きなマイナスの異常があることに注意される。もしかすると、この中央の対象物は南北に二分されるのではないかと考えられた。他の地点にみる小さな異常は、それぞれ鉛直成分(z)、東西成分(y)の位置とよく対応しているといえる。

この3軸グラジオメーターによる測定では、市販のFM18装置と比較すると、異常の詳細が明らかにできるという成果があった。例えば、中央部にみる大きな磁気異常では、東西だけではなく南北にも分離できる。鉄製品などの遺物があるとすれば、それは単体ではなく複数であると推定できるのである。

また、FM18装置では測定区の東南端にある異常が顕著であるが、この方法によれば異常としては大きくない。何らかの遺物が存在するとしても小さい可能性が推定できる。なお、FM18装置では測定区の西南端にも異常の地点を認めているが、3軸グラジオメーターではそれを捉えていない。これは、両測定は異なる時間帯に実施しているが、この対象物はFM18装置の測定後に移動されて無くなったものと想像される。すなわち、3軸グラジオメーターで測定した時点では、釘など調査に関連する何らかの鉄製品が除去されたと思われるのである。

電気探査 この測定では、2極法により移動電極間隔0.5mと1mの2種類を採用して、いずれでも測定間隔をタテ、ヨコともに0.5m間隔で探査した。これらでは、経験的にそれぞれ0.25mと0.5m程度を中心とした深さの土壤情報を、最も反映すると思われる。測定に際しては、電極を枠に固定する方法を採用した。この枠では、それぞれの移動電極は0.5mあるいは1mの間隔で固定しており、測定装置はその枠の上に載せる。電極が固定してあるので、電極を手動で別個に移動させる際の間隔異同は生じないという利点がある。

測定の結果の内0.5m間隔では、測定区の全体が南北に二分され、北が比抵抗の高い範囲、南では低いという傾向にある。緩やかな変化ということができる。その中では、磁気探査でみた測定区東南部分で範囲外へ広がる異常箇所において、比抵抗が高くしかも完結するようにみえる点に注意される。磁気探査、電気探査ともに同一地点で異常応答があるのである。

地中レーダー探査と磁気探査でみた中央部の異常地点は、比抵抗の低い範囲として現れている。しかし、その形態はレーダー探査でみるようには完結していない。わずかに、南側で比抵抗の低い部分が、幅1m、長さ2mばかりで西北西へ傾いているとみられる点が、類似しているといえるにとどまる。

しかしながら、レーダー探査の結果を参考にすれば、これの北側のやや比抵抗の高い部分も含めて、類似する形態と範囲をパターンとして読みとることができない訳ではない。もしこの範囲を一体のものとする場合には、北で比抵抗が高く、南で低い点についての説明が必要である。つまり、主体部を構成する材質に差があると推定しなくてはならない。

移動電極間隔1mの結果では、レーダー探査でみた中央部の異常の北半部分が比抵抗が高く、南では低いという結果になっている。また、これらは0.5mの間隔による結果で、やや強引に推定した主体部が示すと思われる南北方向の構造は、読みとることができない。しかし、レーダー探査で推定した範囲が比抵抗でみると高低の部分として現れていることが注目された。

また、0.5m間隔の結果とは違い、全体の比抵抗分布の傾向としては東西方向の変化であるという点も注意される。これは、深さ0.3~0.5m程度までと、それよりも深い層位では土壤が違い、それを反映しているのかも知れないと考えた。

なお、磁気探査と電気探査の0.5mの間隔でみた測定区東南部の異常応答の箇所は、この間隔では十分に範囲を限定できず、したがって遺構などは推定できない。もし、遺構が存在するとしても、0.5mよりも浅いのではないかと考えられた。

4 おわりに

本古墳における探査の結果は以上のようなものである。これを発掘調査の成果と照合しながら検討してみることにする。調査で明らかになったところによると、ここでは主体部が2基あった。それらは東西に分かれているが、探査をした範囲は西の主体部を中心にしており、東の主体部はそれ

のごく一部が測定区の東南端に含まれるのみである。

地中レーダー探査では、中央の反射の大きな箇所は主体部で、その南に広がる範囲は墓壇ではないかと考えた。発掘結果によれば、この位置にある西主体部と主軸の方向が類似している。しかしながら、この主体部の中央から北にかけては、後世に破壊を受けた部分であることが明らかにになっている。

レーダー探査で主体部とみた部分の少なくとも北半部は攪乱されており、周囲とは大きく異なる土壌からなるものであった。墓壇と主体部と区分して考えた範囲の土壌変化は、遺構と攪乱との両者を捉えていたと解釈できる。これら土壌変化の詳細は、500MHzのアンテナによる平面図では、正確に表現できているとはいえない。それは、平面図を作成する際に、データ平均の範囲を大きくとり過ぎたため、細部変化が欠落したためと考えた。これ以後の探査における教訓となった。しかし、900MHzの15-18nsでは主体部と攪乱部分とが分離できそうである。

このような遺構の遺存状況を探査では推定するのは困難である。もし、あらゆる遺存形態やその規模を考慮するにしても、その変化の可能性は無限にある訳で、的確に指摘するのは不可能かもしれない。しかし、結果判読に際して攪乱の可能性を考慮しなかったのは反省点である。

それよりも、レーダー探査では反射をもたらす原因としては、土壌変化の差異の大きさに依存するので、探査で主体部を捉えていたとしても、それを構成する材質までは推定するのが困難なことを注意しておくことが重要であろう。しかし、電気探査によればこの主体部の範囲は比抵抗の低い部分として捉えられているが、それに基づいて考えると、粘土などで構成されており、石材などではないと推定できるのである。

磁気探査では、採用したそれぞれの装置で、鉄製遺物をもたらすと思われる大きな磁気異常を認めた。その中でも、測定区の中央部でみた異常は、馬具や短甲など多量の鉄からなる遺物からもたらされたものといえる。したがって、探査で主体部はやや北寄りにあるとみたのは間違いであるが、南に副葬品を埋納していると考え、遺物の存在を推定したのは適切であったといえよう。

採用した市販の装置と新たな3軸グラジオメーターとの比較では、後者の方が異常を分離できるという点で、従来よりも詳細な形態や遺物の数も推定できる可能性を提示できたと考えている。このようなここでの実験測定の結果により、本装置の有効性が確認できたので、以後はこれら独立した3成分を活用した遺構、遺物の推定法の開発研究に取り組んだところである。

なお、磁気探査で認めた測定区東南端にある異常は、東主体部の西端部分に位置しており、鏡などが発見された箇所にあたっている。しかしながら、検出された遺物の主体は青銅製品である。磁気探査では鉄製品以外は捉えられないのが一般的であるので、遺物の中に鉄製品があったものと推定した。

電気探査では、上に述べたレーダー探査の結果と照合することにより、主体部を構成する材質が推定できた。すなわち、比抵抗が低いことから、石室ではなく木棺直葬や粘土椁ではないかと考えられたのである。

しかしながら、全体的な比抵抗分布からは、電極間隔0.5、1 mともに主体部を推定できるような構造は読みとることができない。発掘調査によって遺構の存在状態が明らかになって、それと照合することにより、はじめてその存在が考えられるという程度である。

探査としては、このような結果が事前に推定できることが望ましいわけで、有効ではなかったといわなくてはならない。有効な結果を導き出せなかった原因については現状では不明であるが、検出された遺構の深さなどを考えると、より広い電極間隔の測定が必要であったと考えている。

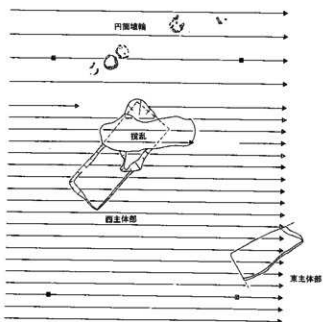
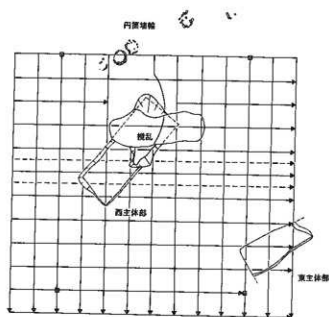
以上の3種類の方法を用いた探査においては、磁気探査による鉄製遺物の存在位置推定以外では、地中レーダーによる結果が遺構の実際に近いが、それでも攪乱と主体部とは区別して理解できなかった。主体部や墓墳の位置と範囲は、後世の攪乱土壌の存在もあり、正確に指摘できなかったのである。

しかしながら、地中レーダー探査と電気探査の結果を照合したように、異なる測定原理による方法を採用することにより、主体部の材質を推定できたことは重要である。これに磁気探査の結果すなわち鉄製品の存在位置をもとに、主体部の位置や形態を推定することができた。

このように、異なる測定原理の探査方法を同一範囲に採用すれば、それぞれは違う物理的要素から土や「異物」、すなわち土とは材質的に大きく異なるものの存在が指摘でき、材質の種類を推定できる可能性がある。遺跡探査では、一つとして同一の土壌構成、形態、規模の遺構や遺物を対象とする事はなく、遺跡が異なればそれは全く未知の局面に臨むことになるといえる。できる限り多数の測定方法を採用して、それらによって得られる結果を照合することが望ましい。

【参考文献】

「ベクトル磁気探査法の開発」(『遺跡探査』第2回研究成果検討会議論文集、重点領域研究「遺跡探査法の開発研究」総括班、p.28-35、1994)



0 2 m

Fig. 80 レーダー探査測線配置図

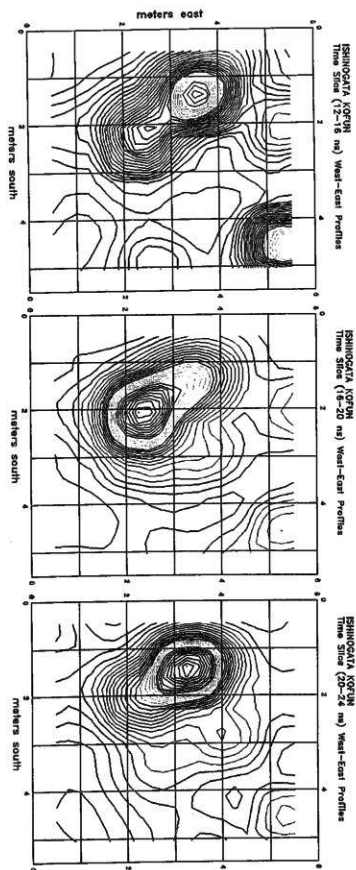
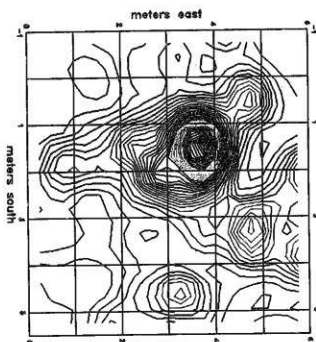


Fig. 81 地中レーダー平面図(500MHz)



ISHINOGATA KOFUN (900 MHz)
Time Slice (12-15 m) West-East Profiles
(smoothing 3x3 matrix - minima)



ISHINOGATA KOFUN (900 MHz)
Time Slice (15-18 m) West-East Profiles
(smoothing 3x3 matrix - minima)

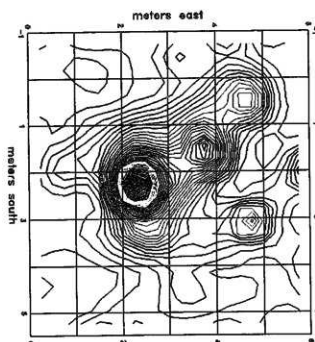
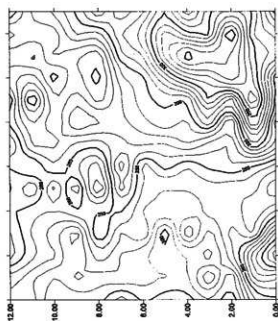
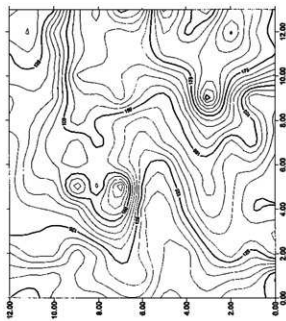


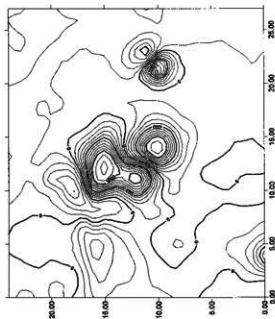
Fig. 82 地中レーダー平面図(900MHz)



(1) 電気探査〈移動間隔 0.5m〉



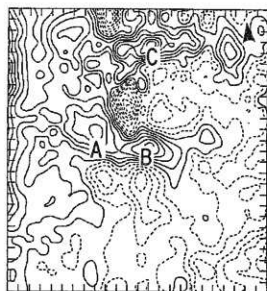
(2) 電気探査〈移動間隔 1.0m〉



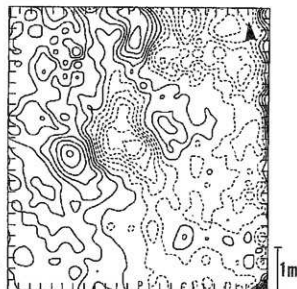
(3) 磁気探査〈FM18〉



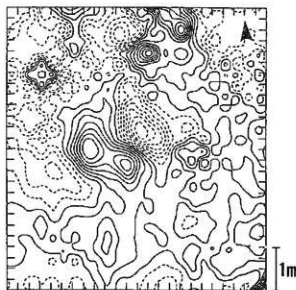
Fig. 63 磁気探査(FM18)・電気探査結果



(a) 南北方向成分



(b) 東西方向成分



(c) 垂直方向成分

Fig. 84 磁気探査(3軸グラジオメーター)結果

3 遺跡の磁気・レーダ探査

東京工業大学 亀井 宏行

1 墳頂部の磁気探査

磁気探査は、地磁気の異常を検出して地下の遺構や埋蔵物を探査する手法である。地磁気の異常を生じさせるものとしては、その強度の大きい順で挙げれば、強磁性体である鉄製品、被熱により熱残留磁気を帯びたり磁化率の上昇した遺構・遺物(例えば窯跡・炉跡や土器類)、土壌の磁化率の差(例えば火山灰と沖積土)などがある。今回この石ノ形古墳では、鉄製の短甲の一部が露頭していることから他にも鉄製の副葬品の存在が推定されることから、磁気探査を試みた。従来金属製品の探査には、金属が電気伝導度が極端に高い(抵抗率が小さい)ことから電磁誘導探査や電気探査が用いられることが多かった。鉄は錆びてばらばらになってしまうと電気伝導度は下がってしまうが、鉄は大きな磁化率を有していることから、錆びてばらばらになってしまった遺物でも少しでも純鉄部分が残っていれば磁気探査では発見できる可能性は高い。

探査に使用した装置は、新たに開発された3軸グラジオメータである。グラジオメータとは、一定の間隔で置かれた2台の磁気センサで測定される値の差を出力する装置で、磁場の傾き(空間差分, gradient)を測定することができるのでこの名がある。差を計測することで、地球磁場の時間変動や背景雑音を除去することができるので、精度を上げることができる。従来用いられているグラジオメータは、磁気センサとしてフラックスゲートを使用し、地磁気の垂直方向成分の磁気勾配のみを測定するものである。フラックスゲートは、強磁性体の磁気飽和特性を利用した磁気センサで、センサの向きを変えることにより、地磁気のその方向成分の大きさのみを測定できる。地磁気はベクトル量(大きさや方向を持つ量)であるので、垂直方向成分ばかりでなく水平方向成分も測定できれば、さらに探査精度が向上することが期待できる。その目的で開発したものが、3軸グラジオメータで、3方向成分を同時に測定できるフラックスゲート型磁力計を垂直方向に50cm離して固定したもので、磁場の垂直方向成分と水平方向2成分(南北方向と東西方向)の磁気勾配を同時に測定することができる。

探査領域は、Fig. 85に示すように石ノ形古墳墳頂部東西6m×南北6.5mの長方形領域で、25cm×25cmのメッシュをきって測定を行った。Fig. 86に測定の様子を示す。Fig. 87に探査結果を示す。Fig. 87(a)は水平面内南北方向成分、(b)は水平面内東西方向成分、(c)は垂直方向成分の磁気勾配を示す。すべての図の等値線間隔は15nT(nT:磁場の強さの単位でナノテスラと読む。参考までに調査地点の地磁気の大きさは46,600nT程度であった)。図中、実線が正、破線が負の磁気異常を表す。

これらの図から鉄製品の埋納が想定される磁気異常点を判読する訳だが、判読を容易ならしめ

るために、地磁気の方向に磁化した直方体物体による磁気異常(磁気勾配)をシミュレートしたのが、Fig. 88である。Fig. 88からわかるように、水平成分においては、南北方向成分では物体を中心に北側に正の異常、南側に負の異常というダイポールパターンが現れ、東西方向成分では西に正、東に負というダイポールパターンが現れる。垂直方向成分は物体の上方やや南に大きな正の異常、物体をとりまくように北側に負の異常が現れる。実際の探査では物体の形状も不定かつ不明であり、また雑音も多いのでシミュレーションどおりの結果は得られないが、3成分の図からこれらの傾向を持つ磁気異常点を探します。1成分の図だけに現れる異常パターンは雑音と判断する。

Fig. 87の探査結果から、磁気異常点を探し出すと、Fig. 87(a)に示したA、B、C、の3点が鉄製品の埋納が推定される大きな磁気異常点として検出される。

発掘結果の上に探査領域を重ねたものをFig. 89に示すが、A地点は西主体部棺内の短甲・馬具、B地点は同棺外の刀剣類、C地点は鉄斧の位置に重なる。

2 地中レーダによる範囲確認調査

石ノ形古墳の墳形を推定するために地中レーダ探査を行った。探査範囲はFig. 90の測線配置図に示すように家屋のある東側を除く3面で、間隔1mで可能な限り東西、南北の直行する2方向に測線を配置した。総測線数は65本となった。使用した地中レーダは光電製作所製KSD-3A M型レーダで、アンテナ中心周波数は166MHzのパルスレーダである。

Fig. 91に南側道路上の測線①(Fig. 90参照)の地中レーダ像を示す。この像は横軸が地表面上の測線に沿った距離、縦軸は電波の往復伝搬時間で地下の深さ方向に対応するので、地下垂直断面を表している。往復伝搬時間を実際の深さに対応させるためには、地中の電波速度が必要であるがこれは不明であるので、1 ns(= 1×10^{-9} 秒)あたり2~3cm程度として換算すれば、およそその目安となる。

さてFig. 91では、西端から4mの地点に、地表面近くから強い反射パターンが見られるが、これは西側道路との境にあるコンクリート製側溝によるものである。古墳に係わるものとしては、矢印A、Bで示す地点の間が、周濠だと読める。周濠底までの深さは、1 nsあたり2.5cm換算で約75cmである。周濠内CD地点間の部分に高まりがある。この南側道路上の4測線の内、南側3測線には連続して同様のパターンが見られるので、この高まりは周濠をわたる陸橋(渡り土手)のようなものではないかと考えられる。最も北側の測線は平成2年度調査時のトレンチ部分に重なるので、他の3本の測線とは異なるレーダ像が得られており、この陸橋状のパターンは見られない。

北側の道路上の測線②(Fig. 90参照)のレーダ像をFig. 92に示すが、東端から7mあたりの深さ25nsあたりから西側へ向かって落ち込んでいく地層のパターンが見られるが、これが古墳北

側の周濠の落ち込みを捕らえているものと考えられる。周濠の反対側の立ち上がりを読解するのは難しいが、隣接する測線のデータなどから判断するに、東端から13m近辺で新たに水平な層が現れてくるところあたりと判断するのが妥当ではないかと考えられる。

さらに北側の領域内では、東西測線③(Fig. 90参照)のレーダ像を一例としてFig. 93に示すが、西端から4m地点から11m地点の間が周濠として読み取れる。この測線では、深さ30nsあたりと40~45nsの2層に周濠底と思われる反射が見られるが、深い方を周濠底と判断する。

西側の畑地内では、Fig. 94に示すようなレーダ像が得られている。Fig. 94は南北に走る測線④(Fig. 90参照)のデータであるが、浅いところ15nsの深さに南端から6~9mの地点と、深いところ40nsあたり南端から5~12mにわたり少し盛り上がった強い反射像が得られている。Fig. 91、Fig. 92に見られる周濠の深さから判断するに、深いところの盛り上がりは周濠の底からの盛り上がりと考えられ、さらにその上に構造を持つことからこの部分に造りだしのような構造があるのではないかと考えられる。

地中レーダ探査で得られた上述の構造特徴を測線上に記した図が、Fig. 95である。Fig. 95中の三角印は、頂点に向かって深い方へ傾斜していることを表す。これらすべての特徴が、石ノ形古墳に由来するものかどうかは断定できないが、それらすべてを石ノ形古墳のものと仮定して、その特徴点をつなぎ合わせて石ノ形古墳の墳形を推定したものが、Fig. 95上の復元推定線で、東西に主軸を持つ前方後円墳か帆立貝式の墳形で、南側周溝内に造りだしか陸橋(渡り土手)を持つという形、あるいは円墳で西と南面に陸橋または造りだしを持つ(北と東は不明)形と考えられる。

レーダ探査結果は発掘結果と異なる部分もあるが、これは地中レーダ探査で得られた構造と思われるものは、周囲と異なる土質であることしか反映していないので、土壌観察からの時代判別などはできないからである。今回すべての特徴を石ノ形古墳に由来すると仮定して判読したもので、このような結果となった。



Fig. 85 石ノ形古墳磁気調査領域

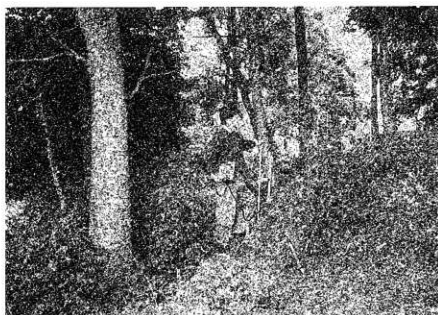
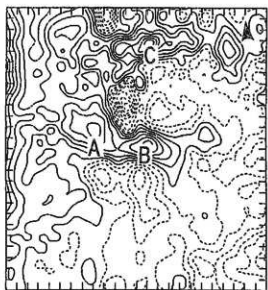
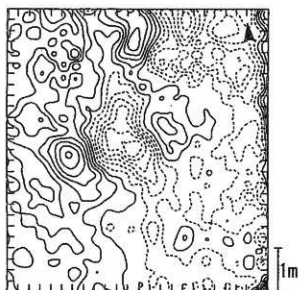


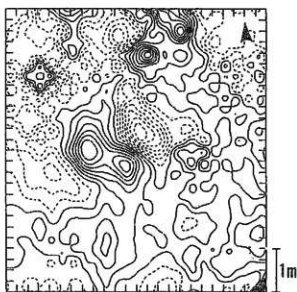
Fig. 86 3軸グラジオメータによる磁気調査風景



(a) 南北方向成分



(b) 東西方向成分



(c) 垂直方向成分

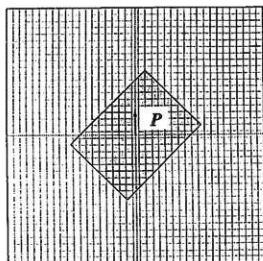
Fig. 87 磁気勾配探査結果(等値線間隔15nT)

(a) 水平面内南北方向成分

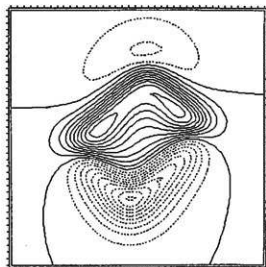
(b) 水平面内東西方向成分

(c) 垂直方向成分

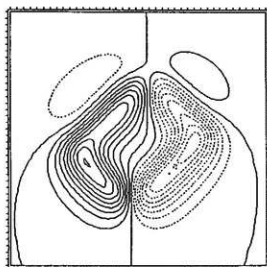
4



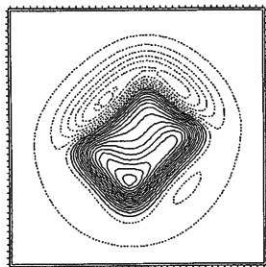
(a) 直方体モデル (平面図)



(b) 南北方向成分



(c) 東西方向成分



(d) 垂直方向成分

Fig. 88 地磁気方向に磁化した直方体物体による磁気異常(磁気勾配)パターン
(等値線間隔は任意単位)

(a) 直方体モデル(平面図)

(b) 磁気勾配水平面内南北方向成分

(c) 磁気勾配水平面内東西方向成分

(d) 磁気勾配垂直方向成分

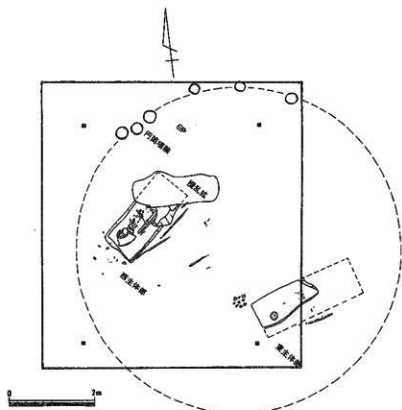


Fig. 89 磁気探査領域と発掘調査(袋井市教委1994『石ノ形古墳』より作成)

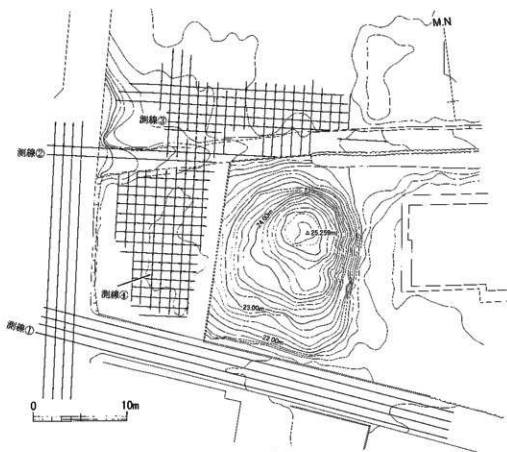


Fig. 90 地中レーダ探査測線配置図

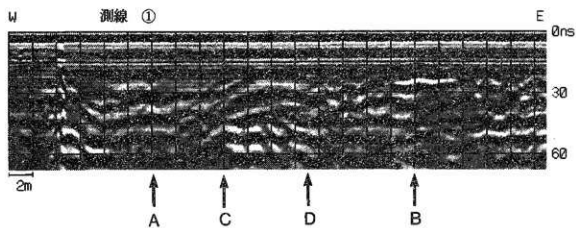


Fig. 91 南側道路測線①の地中レーダ像

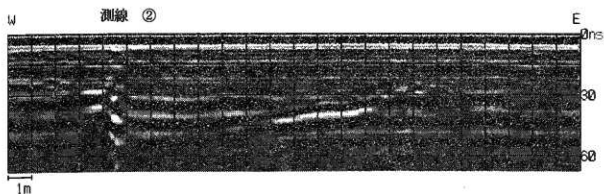


Fig. 92 北側道路測線②の地中レーダ像

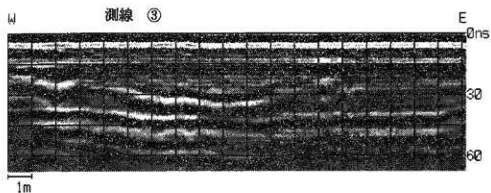


Fig. 93 北側道路北領域内の東西測線③の地中レーダ像

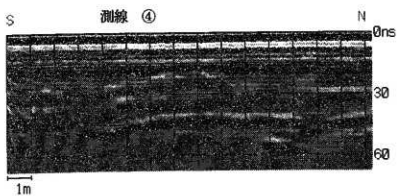


Fig. 94 西側畑地内の南北測線④の地中レーダ像



Fig. 95 地中レーダ探査による特徴分布と墳形推定図

4 埴輪の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

埴輪は、古墳時代研究において重要な資料である。近年では、土師器・須恵器と円筒埴輪の編年研究を軸に、墳形や内部構造と副葬品の型式や組成を含め、古墳の編年が編まれている。埴輪の編年は、その形態や製作技法、地域性などに基づき進められているが、埴輪製作址の調査例が必ずしも多くないため、それらを製作した工人の実態や埴輪の生産・流通などについてはわかっていないことが多い。

埴輪の製作地や流通に関する情報を得る方法として、埴輪の特徴を指標として捉える胎土分析がある。胎土分析では、土器胎土の岩石学的特徴を捉え、既存の地質学的情報との比較を行うことにより、素地に用いられた原材料の地域性や採取地について、検討を行うことができる。当社では、静岡県西部地域を中心に分布する古墳、あるいは窯跡より出土した埴輪53点の分析を行ったので、以下に報告する。

2 試料

試料は、静岡県西部地域に分布する古墳または窯跡から出土した埴輪53点である。試料番号1～39の中で、試料番号4・10・12・22・24・34・35の7点については、同一古墳または窯出土の試料がそれぞれ2点ずつあるため、枝番号が付されている。試料が出土した古墳の所在地は、西は湖西市から東は小笠町にまでわたるが、2点は愛知県東部の豊川市の古墳および豊橋市の窯跡から出土したものである。また、その時期は4世紀後半～6世紀前半である。各試料が出土した古墳または窯跡の所在市町村、遺跡名、古墳の時期などは、結果とともに図に示す。

3 分析方法

土器の胎土分析の方法には、蛍光X線分析や放射化分析などの分析機器を用いて胎土の元素組成を求める方法や、偏光顕微鏡を用いて胎土の鉱物組成を求める方法など、様々な方法が用いられている。対象とする土器の質(例えば焼成温度や砂の含量など)によって、分析方法の選択が制限されるということもあるが、多数のデータを集めてその相互の比較から考察するという手順は、どの分析方法も同じである。当社では、これまでに関東地方や愛知県下の遺跡から出土した様々な土器について、主に胎土中に含まれる砂分の重鉱物組成を胎土の特徴とみなす方法で胎土分析

を行ってきた。今回試料とする埴輪は、当社では分析例が比較的少ないが、試料の質と前回の分析例や関東での分析例から、同様の方法で行うことが適当である。以下に分析処理手順を示す。

埴輪片約10～40gをアルミ製乳鉢を用いて粉碎し、水を加えて超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。ただし試料番号45については、約2gと試料の量が非常に少なかった。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm～1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落光下で黒色金属光沢を呈するものを不透明鉱物とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定不可能な粒子は、「その他」とした。鉱物の同定粒数は250個を目標とし、その粒数%を算出し、グラフに示す。グラフでは、同定粒数が100個未満の試料については粒数%を求めずに、代表的な鉱物がある場合には、それを呈示するにとどめる。

4 結果

結果を Tab.16・17 と Fig.96・97 に示す。53点の試料のうち、同定粒数100個未満であった試料は16点であった。試料番号45を除いては、これまでの分析と比べて、今回の試料の分量が特に少なかったということはない。したがって、これらの試料は、重鉱物の含量が少ないということが胎土の特徴となる。また、他の試料も、そのほとんどは「その他」が多く、同定できた重鉱物粒は少ない。これは、静岡県西部の埴輪の胎土の全体的な特徴になる。以下、市町村ごとに結果を述べる。

(1)愛知県豊川市および豊橋市(試料番号1および2)

各市1点ずつの試料であるが、どちらも同定粒数100個未満である。このうち豊川市の試料は、特徴を捉えることはできない。豊橋市の試料番号2は、斜方輝石と角閃石がやや多く認められる。

(2)湖西市(試料番号3、4-1、4-2)

3点のうち同定粒数100個以上を得られたのは、試料番号4-1のみである。試料番号4-1は、ほとんど「その他」ばかりで、微量の斜方輝石、角閃石、ジルゴンを含む。試料番号3は特徴を捉えることはできない。試料番号4-2は、ジルゴンが特徴である。

(3)細江町(試料番号5～9)

5点のうち同定粒数100個以上の試料は、試料番号8を除く4点である。4点のうち試料番号5は「その他」がほとんどであり、微量の斜方輝石とジルゴンを含む。試料番号6は、角閃石が非常に多い。試料番号7と9は、酸化角閃石が多く、少量の緑閃石を伴うことが特徴である。試料番号8は、角閃石が特徴といえるが、ジルゴンやザクロ石も含む。

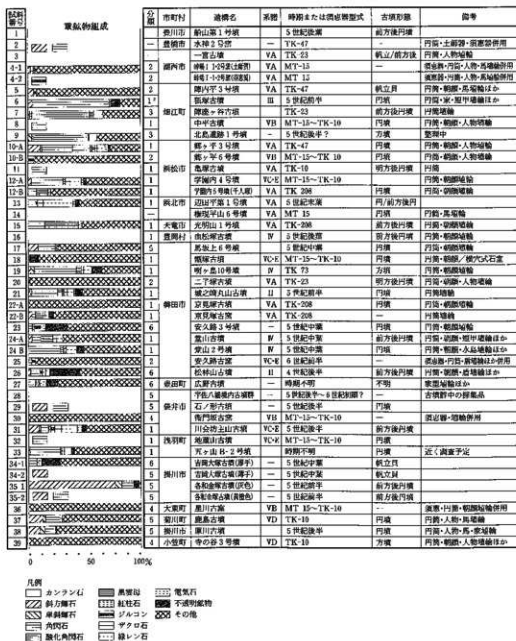


Fig. 96 試料の胎土重鉱物組成 1

(4) 浜松市および浜北市(試料番号10~14、ただ試料番号10と12はそれぞれ A と B がある)

7 点の試料のうち同定粒数100個以上の試料は、試料番号11と14を除く 5 点である。このうち、試料番号10-A、12-A、12-B、13の 4 点は、「その他」を除けばともに角閃石と緑レン石が比較的多く、微量～少量の鉱物も考慮すればジルゴン、ザクロ石、電気石を含むことで共通する。ただし、各鉱物の量比は各試料ごとに異なる。同定粒数100個未満の試料番号11も角閃石が特徴ではあるが、ザクロ石や緑レン石を含むことで、これら 4 点に近い組成といえるかもしれない。これらに対して試料番号10-B は、「その他」がほとんどであり、少量のジルゴンを含む。試料番号14は、特徴が捉えられない。

Tab. 16 胎土重鉱物分析結果 1

試料番号	カレン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	輝石	黒雲母	紅柱石	ジルコン	サクロ石	緑閃石	電気石	不透明鉱物	その他	石英
1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	26	27
2	1	8	0	10	5	0	0	1	2	0	1	1	58	87
3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	224	7
4-1	0	6	2	6	3	0	1	5	1	0	2	0	224	250
4-2	0	3	0	1	0	0	0	11	2	0	0	1	21	39
5	0	6	1	0	1	0	0	3	1	0	0	1	101	114
6	0	4	0	71	0	0	0	0	1	0	1	9	19	105
7	0	1	4	5	127	10	0	0	0	20	0	1	82	250
8	0	2	0	8	1	1	0	4	2	1	0	3	20	42
9	0	0	9	3	122	1	0	0	0	18	0	0	97	250
10-A	1	15	2	39	23	0	2	4	3	10	4	3	39	145
10-B	0	0	0	1	0	0	0	12	2	0	0	0	235	250
11	0	1	0	10	0	0	0	0	1	1	0	0	8	21
12-A	0	7	0	70	6	1	0	0	10	25	5	6	120	250
12-B	0	1	0	19	6	19	0	0	1	6	0	0	198	250
13	0	1	0	17	2	2	2	3	13	64	5	10	126	245
14	1	2	0	3	0	2	0	0	0	2	2	2	10	24
15	0	1	0	37	1	74	0	0	1	6	3	0	127	250
16	1	3	0	3	2	0	0	1	0	1	1	2	39	53
17	0	22	0	38	0	0	1	1	2	3	3	1	179	250
18	0	1	0	2	1	2	2	1	0	2	3	20	216	250
19	0	5	8	93	1	12	0	1	5	17	2	22	84	250
20	0	1	0	0	0	1	1	4	0	1	0	0	242	250
21	0	4	3	58	10	3	3	2	5	15	3	16	128	250
22-A	0	0	0	2	2	0	2	1	0	0	0	0	243	250
22-B	0	8	0	8	18	0	0	0	4	7	2	11	192	250
23	0	1	0	9	0	1	4	14	2	8	4	48	160	250
24-A	0	8	0	19	2	27	0	2	1	14	1	0	169	250
24-B	0	0	0	71	6	7	0	0	0	23	1	16	125	250
25	0	1	0	7	0	0	0	0	0	1	0	0	233	250
26	0	5	0	21	0	2	1	5	1	7	9	67	132	250
27	0	2	0	15	0	2	7	3	0	7	7	26	181	250
28	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7
29	0	6	0	9	0	0	0	1	1	0	0	0	7	24
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250	250
31	0	24	3	17	2	2	5	9	15	35	10	9	119	250
32	0	2	0	21	0	1	1	0	3	0	0	0	23	51
33	0	3	1	68	2	3	0	0	5	16	0	6	146	250
34-1	0	1	1	18	0	0	1	2	1	4	7	41	174	250
34-2	0	24	1	9	0	1	0	1	2	0	0	1	7	46
35-1	0	129	10	18	0	0	0	1	0	0	1	7	2	168
35-2	0	7	1	18	0	0	0	2	1	2	0	1	12	44
36	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	113	114
37	0	17	3	17	1	0	0	0	0	3	0	1	93	135
38	0	25	11	23	2	2	0	1	1	2	0	3	180	250
39	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	249	250

(5) 天竜市および豊岡村(試料番号15、16)

天竜市の試料番号15は、黒雲母が多く、少量の角閃石と微量の緑レン石を伴う。豊岡村の試料番号16は、同定粒数100個未満であり、特徴が捉えられない。

(6) 磐田市(試料番号17~26、41、42、ただし試料番号22と24はそれぞれAとBがある)および豊田町(試料番号27、40)

16点の試料の中で、試料番号40を除く15点の試料において同定粒数100個以上を得られた。15点の試料のうち、試料番号19、21、22-B、24-A、24-Bの5点は、角閃石が比較的多く、これに、少量または微量の緑レン石と不透明鉱物、微量の黒雲母、ザクロ石、電気石などを含むことで共通する。ただし、各鉱物の比量は、各試料によりやや異なる。また、試料番号23、26、27、41、42の5点は、上記の5点と含まれる重鉱物は類似するが、不透明鉱物が比較的多く、微量の角閃石、ジルゴン、緑レン石、電気石などを含むことで、比量がやや異なる。試料番号20と25は、「その他」がほとんどであり、これに微量のジルゴンを伴うことで共通する。一方、試料番号18もほとんど「その他」であるが、不透明鉱物が特徴となる。さらに試料番号22-Aも「その他」がほとんどであるが、それ以外の鉱物についてはどれも極めて微量であり、特徴とすることはできない。試料番号40については、試料は10gほどであったが重鉱物がほとんど認められないため、その特徴は捉えられない。

(7) 袋井市(試料番号28~31、43、44)

6点の試料のなかで、同定粒数100個未満の試料は試料番号28、29、43の3点であった。この中で試料番号28、29の特徴となる鉱物は、斜方輝石である。どちらの斜方輝石も非常に新鮮であり、ガラスの付着した粒も認められる。また、試料番号44についても斜方輝石はやや風化しているが、ガラスの付着した粒も認められる。試料番号30は、「その他」しか含まない。試料番号31は、斜方輝石、角閃石、紅柱石、ジルゴン、ザクロ石、緑レン石、電気石、不透明鉱物を少量ずつ含む。また、試料番号43も同定粒数は100個未満であったが、試料番号31に類似する重鉱物組成を示す。

(8) 浅羽町(試料番号32、33)

2点の試料のうち、同定粒数100個以上を得られたのは試料番号33である。試料番号33は角閃石が多く、少量の緑レン石を伴い、微量のザクロ石や不透明鉱物を含む。試料番号32は、角閃石が特徴である。

(9) 掛川市(試料番号34、35、38、45、46、ただし試料番号34と35はそれぞれ1と2がある)

7点の試料のうち、同定粒数100個以上を得られたのは、試料番号34-1、35-1、38、46の4点

石ノ形占墳



Fig. 97 試料の胎土重鉱物組成 2

Tab. 17 胎土重鉱物分析結果 2

試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	紅柱石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	同定鉱物粒数
40	51	1	4	0	0	0	0	0	1	0	37	6	100
41	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5	0	13
42	3	1	4	0	0	0	6	2	2	13	162	54	250
43	1	0	2	0	23	2	6	1	1	8	145	61	250
44	1	1	13	0	1	1	2	2	1	3	9	14	48
45	69	1	6	15	2	0	1	0	0	0	36	64	194
46	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2

である。このうち、試料番号34-1は「その他」が多いが、それを除けば角閃石と不透明鉱物を少量含み、微量の緑レン石と電気石を含む。これに対して、試料番号35-1、46は斜方輝石が非常に多く、単斜輝石と角閃石、不透明鉱物を伴う組成である。試料番号38は、「その他」が多いが、これを除けば、試料番号35-1、46に類似する組成となる。いずれの試料の斜方輝石も非常に新鮮であり、ガラスの付着が認められる。また、同定粒数100個未満の試料番号34-2、35-2も斜方輝石が特徴であり、その斜方輝石の特徴も上記3点の試料と同様である。さらに、試料番号45では、同定粒数が少なく斜方輝石にガラスの付着はみとめられないが、斜方輝石と角閃石が含まれることで、上記の5点の試料の重鉱物組成と類似する可能性がある。さらに、本試料の軽鉱物中には、無色透明の軽石型および中間型火山ガラスが少量含まれることに特徴がある。

(10)大東町、菊川町、小笠町(試料番号36、37、39)

3点の試料のうち、大東町の試料番号36と小笠町の試料番号39は、ほとんど「その他」からなる。一方、菊川町の試料番号37は、「その他」が多いが、それを除けば斜方輝石と角閃石が少量あり、微量の単斜輝石と緑レン石が含まれる。斜方輝石は新鮮であり、ガラスの付着が認められる。

5 考察

前述のように、本分析結果の全体的な特徴として、重鉱物の含有量そのものが少ないことがあげられ、そのために、試料間の組成の類似性や異質性の判断がやや困難となっている。したがって、出現する鉱物の組合せに着目して本分析結果の分類整理を行い、本地域の地質学的背景との比較、地域と鉱物組成の傾向、埴輪の時期・編年と鉱物組成などについての検討を試みる。

今回の分析では、以下の6種類の胎土に分類することができる。各試料間の分類はFig.96・97に示すが、特徴が捉えられず分類不能な試料が、試料番号1～3、14、40の5点ある。なお、埴輪の編年は、[鈴木1994]の編年表に従った。

a)第1類(20点)

本分析試料中、最も多くみられた胎土である。角閃石、ジルゴン、ザクロ石、緑レン石、電気石が主要な鉱物で、試料によっては黒雲母や紅柱石、不透明鉱物なども構成要素となる。浜松市や磐田市の試料に多い胎土である。なお、細江町の試料番号6は、鉱物の組合せは本類に近いようにも見えるが、角閃石の量比が非常に高いこととジルゴン、緑レン石が認められないことから1'とした。

本類の設定基準自体が非常に幅広くとってあることにもよるが、その分布はほぼ静岡県西部地域全域にわたる。おそらく、今後試料が増えたとしても本類は、静岡県西部地域の埴輪胎土に最も多くみられることになると考えられる。また、II群、IV群、VA、VB、VC、Eの各類に認められ、5世紀前半から6世紀前半のほぼ全時代にわたる胎土である。

b)第2類(6点)

「その他」が非常に多く、少量のジルゴンを伴うことが特徴である。地域的には、湖西市、細江町、浜松市、磐田市の広い範囲にわたって認められるが、少量である。また、埴輪の編年では、TK23以降のVA類とVB類、VC・E類に認められ、他の群や類には認められないことから、ある時代・時期(5世紀末頃?)に限って出現する胎土かもしれない。

重鉱物粒がほとんど含まれないことから、天竜川中上流域の左岸側に広がる四万十帯や秩父帯などの堆積岩を主体とする地質が推定されるが、今の段階では特定できない。

c)第3類(2点)

本分析結果では、細江町の試料番号7と8に認められる胎土である。重鉱物の組合せは第1類に近いが、角閃石が酸化角閃石であることとジルゴン、ザクロ石が含まれないことで区別した。

点数が少ないことから、地域的あるいは編年的な相関を推定することはできない。ただし、重鉱物の由来は、第1類と同様に考えてよい。

d)第4類(3点)

ほとんど「その他」のみからなる胎土である。袋井市、大東町、小笠町の各試料に1点ずつ認められ、地域的には袋井市南部から小笠郡にかけての地域に限られる。また、編年にもVB、VC、E、VD(6世紀前半頃)の各類にしか認められない。これらのことから、本類は東遠江地域の在地の指標になり、東遠江での埴輪生産の開始に対応するかもしれない。なお、磐田市の試料番号22-Aは、量比的には本類に近いが、微量ながらも第1類の鉱物がほぼ揃っているため、ここでは第1類に入れた。第4類の重鉱物の由来については、第2類と同様のことが考えられる。

e)第5類(11点)

新鮮な斜方輝石を特徴とする胎土である。本分析では、掛川市の試料に多くみられる。また、磐田市や袋井市、菊川町の試料にも、ごく少数ではあるがこの第5類が認められる。さらに、その時代は、5世紀前半から6世紀前半までの広い範囲にわたっている。この状況から、本類は明らかに掛川市を中心とする地域性を持っていると考えられる。また、試料番号44は、ガラスが付着したやや風化した斜方輝石が認められることに加え、800°C以上で普通角閃石が変化して生成する[黒田・諏訪1983]酸化角閃石が比較的多い。したがって、試料番号44の素地は、本来第5類の特徴と類似していたが、焼成状況が異なっていた可能性がある。したがって、5'とした。

本類の特徴である新鮮な斜方輝石は、第四紀の中でも比較的新しい後期更新世の安山岩系のテフラに由来する可能性が高い。また、試料番号45に含まれる火山ガラスも、同様のテフラに由来する可能性がある。しかし、現時点では、掛川市周辺の地質からはその由来するテフラを求めることはできない。今後は、まず掛川市周辺の表層堆積物中の重鉱物組成やテフラの産状を確かめ、由来を求めることができれば、何か特殊な事情、例えば特定の地域と掛川市周辺との関係を表していることになる。いずれにしても、今後の調査が注目される胎土である。

f)第6類(6点)

不透明鉱物が比較的多く、微量の角閃石、ジルゴン、緑レン石、電気石などを含む胎土である。第1類は静岡県西部全体にわたるが、第6類より分布域が限られ、磐田市、豊田町の試料に多く認められる胎土である。また、II群(2点の試料)に認められ、4世紀後半～5世紀中葉にわたる。これらのことから、第6類の胎土は磐田市周辺の在地を示し、時代性をもつ可能性がある。磐田

原台地を中心とした古墳の築造および埴輪生産の開始に、対応しているかもしれない。その由来として、第1類と同様に天竜川中～上流の右岸域に広がる領家帯のカコウ岩類と変成岩類、および三波川帯の変成岩類という地質学的背景が考えられる。磐田原台地周辺の崖線や低地などに分布する粘土や砂には、天竜川によって運ばれた上記の岩石に由来する砕屑物が含まれていると考えられる。

6 まとめ

今回の分析によって6種の分類を設定することができた。静岡県西部地域の埴輪胎土の傾向として、以下のことが考えられる。

- 1) 市町村単位程度の地域性はそれほど強くはないが、第4類の東遠江地域、第5類の掛川市周辺、第6類の磐田市周辺というように地域性がある胎土も存在することがわかってきた。
- 2) 時代的な変遷はあまりないが、第2類の5世紀末頃?、第6類の4世紀後半～5世紀中葉というように時代性をもつ可能性があるものも認められた。
- 3) 技法的な分類と胎土の分類は、それほど相関性がない。
- 4) 概ね静岡県西部地域の地質学的背景を反映しているが、第5類のように現時点では由来が特定できない胎土も存在する。

〔鈴木1994〕では、静岡県西部の埴輪生産体制について六つの画期が考えられているが、第1の画期(松林山古墳にみられるような埴輪生産の開始)と第6類の胎土、第5の画期(東遠江・駿河での埴輪生産の開始)と第4類の胎土の対応が示唆される。

今後は、さらに分析例(特に窯跡試料や地域的・時代的にこれまでの分析例を補充する試料など)を増やすことで、胎土の分類をより確かなものになりたい。あわせて静岡県西部地域各地の自然堆積物である粘土や砂の重鉱物組成を調べ、胎土の重鉱物組成と比較することも必要である。それらにより、静岡県西部地域の埴輪生産や流通などの解明につながるものと期待される。

【引用・参考文献】

鈴木敏則 1994「静岡県における埴輪生産」『向坂鋼二先生還暦記念論集 地域と考古学』,

P.301-334. 向坂鋼二先生還暦記念論集刊行会

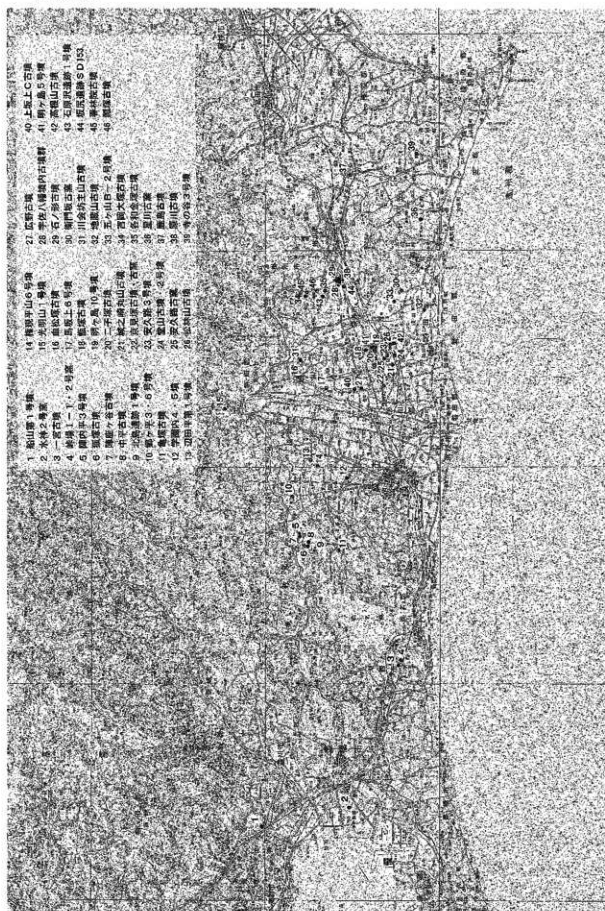


Fig. 98 分析試料出土地分布図(1:400000)